

3 . 医学部

医学部の教育目的と特徴	3 - 2
分析項目ごとの水準の判断	3 - 4
分析項目 教育の実施体制	3 - 4
分析項目 教育内容	3 - 17
分析項目 教育方法	3 - 38
分析項目 学業の成果	3 - 70
分析項目 進路・就職の状況	3 - 88
質の向上度の判断	3 - 100

医学部の教育目的と特徴

1. 教育目的

教育活動を実施する上での基本方針

本学部の教育理念は、人間形成を基盤に、生命尊重を第一義とした医の倫理を体得させ、高度に発展した医学知識を修得した信頼し得る医療人及び研究者を育成し、もって医学の進展並びに地域医療の向上に寄与すること、である。この教育理念に沿って教育活動を実施することが基本方針である。

達成しようとする基本的な成果

教育活動の基本方針に従い、医学部では

幅広い医学知識や高い臨床能力をもち、コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観を持って患者中心の医療が実践でき、根拠に立脚した医療を実践でき、個人と地域・国際社会の健康増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な視点でまたは地域に根ざした活動ができ、日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけた医療人を育成すること、を基本的な成果とする。このような基本的な成果は教育に関する本学の基本的な目標である「人々が健やかに暮らせるための学術文化や科学・技術に関する高度な教育を実施し、地域や国際社会にも貢献し得る人材を育成する」ことに合致するものである。

教育研究等の質の向上に関する目標との関連

本学の教育の質の向上に関する目標は「高い倫理観に裏打ちされた高い教養と豊かな人間性を持ち高度な専門的知識を備えた創造力のある人材の育成をめざして、教育の質的向上を図る」ことである。これを踏まえ、医学部では、本邦における医学・看護学教育の指針に準拠した教育課程の導入による教育内容の精選・質的向上、教育課程及び方法に対する不断の評価・改善の実施とそれを支援する体制の整備、チュートリアル教育等の導入による課題探求・解決能力の涵養、医学英語教育の推進による国際性の向上、一貫した医の倫理教育の実施、及び地域医療に対する意欲を持った医療人の育成等、によって教育の質的向上を図る。

2. 組織の特徴や特色

組織の特徴

医学部の前身は「医の倫理に徹した優秀な医療人を育成する」ことを教育の理念として昭和55年4月に開講した旧福井医科大学であり、平成9年4月には看護学科が新たに設置され、その後平成15年10月に旧福井大学と統合し現在の医学部が発足した。医学部は医学科、看護学科及び附属病院から構成され、昭和61年3月に第一期生が卒業して以来、2,773名（平成20年3月現在）にもおよぶ優れた医療人を育成し福井県はもとより全国各地に送り出し、広く社会に貢献してきた。さらに、福井県医療従事者（医師）の約30%は本学部卒業生であり、地域医療に高く貢献している。

組織の特色

医学部が位置する松岡キャンパスには25診療科等からなる附属病院が設置され、臨床実習等の実践的医学教育の場のみならず県内唯一の大学病院として地域医療の中核を担っている。旧福井大学との統合に伴う教育地域科学部及び工学部との教育交流、臨床教員制度に代表される地域教育力の活用や放射線の医学利用を研究するための高エネルギー研究センターによる教育支援等、教育目的を達成するための支援体制は整備されている。

医学部では、医学部教授会の下、医学部教務学生委員会、医学科及び看護学科教務委員会等関連委員会によって学生教育・修学指導が統括されている。また、医学部長を委員長とし

た教員組織等検討委員会によって教育目標等の達成を考慮した教員組織体制の検討・整備がなされている。

3．入学者の状況

医学科では前期(定員 55 名)、後期(20 名)及び推薦(20 名)、看護学科では前期(30 名)、後期(15 名)及び推薦(15 名)によって入学者を選抜している。推薦枠入学者を中心として県内高校出身者は医学科では約 25%、看護学科では約 67%を占める。なお、両学科とも追加募集することなく入学定員を過不足なく満たしている。さらに、多様な人材を受け入れるため、医学科では 2 年次後期編入学生(5 名)、看護学科では 3 年次編入学生(10 名)を選抜している。

優秀な医療人の育成の基盤として、入学生には医療に対する意欲と資質が求められる。そのため、全ての入学試験において面接試験を実施しており、高い意欲と資質をもった学生を積極的に選抜している。

4．想定する関係者とその期待

優れた医療人の育成は本邦に対する医学部の使命であることは言うに及ばないが、直接の関係者とその期待として想定したものは以下のようである；

学生及びその保護者

幅広い医学知識や高い臨床能力等、医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養

医療機関

幅広い医学知識や高い臨床能力等、医療人として備えるべき学力や資質・能力を有した人材の育成

地域社会

福井県地域医療に従事する医療人の育成

分析項目ごとの水準の判断

分析項目 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 基本的組織の編成

(観点到る状況)

医学部を構成する医学科及び看護学科の教員組織の構成及び専任教員の配置【資料1-1-1, 資料1-1-2:P5】は大学設置基準第7条及び第13条に基づき教育研究に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編成している。また, 学生教育の責任者である教授の選考は公募制であり, 教育業績に優れた人材を積極的に採用している。平成16年度より助教等に任期制を適用する(現職のうち42%が任期教員)等, 教員組織の活性化に努めている。

資料1-1-1 医学部組織の概要

医学部組織図

医学部講座・領域

平成16年4月1日に講座組織の見直しを実施した。

学 科	講 座	領 域	旧科目・旧講座
医 学 科	形態機能医科学	行動基礎科学	心理学
		運動・スポーツ医学	保健体育
		人体解剖学・神経科学	解剖学(1)
		組織細胞形態学・神経科学	解剖学(2)
		分子生理学	生理学(1)
	病因病態医学	統合生理学	生理学(2)
		腫瘍病理学	病理学(1)
		分子病理学	病理学(2)
		微生物学	微生物学
		免疫学・寄生虫学	免疫学・寄生虫学
	生命情報医科学	医用統計学・数学	数学
		生物物質科学	物理学
		分子生命化学	化学
		病態遺伝生化学	生物学
		分子遺伝学	生化学(1)
国際社会医学	分子生体情報学	生化学(2)	
	薬理学	薬理学	
	医療倫理学	倫理学	
	医療経済学	経済学	
	応用言語学(医学英語)	英語	
病態制御医学	医療人文学	ドイツ語	
	高次脳機能	放射線基礎医学	
	環境保健学	環境保健学	
	法医学・人類遺伝学	法医学	
	内科学(1)	内科学(1)	
	内科学(2)	内科学(2)	
	内科学(3)	内科学(3)	
	腎臓病態内科学	臨床検査医学	
	小児科学	小児科学	
	精神医学	精神医学	
器官制御医学	救急医学	救急医学	
	外科学(1)	外科学(1)	
	外科学(2)	外科学(2)	
	整形外科学	整形外科学	
	麻酔・蘇生学	麻酔・蘇生学	
感覚運動医学	産科婦人科学	産科婦人科学	
	泌尿器科学	泌尿器科学	
	皮膚科学	皮膚科学	
	脳脊髄神経外科学	脳神経外科学	
	眼科学	眼科学	
病態解析医学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科学	
	歯科口腔外科学	歯科口腔外科学	
看護学科	放射線医学	放射線医学	
	検査医学	臨床検査医学	
	基礎看護学	基礎看護学	
	生命基礎科学	健康科学	
	臨床看護学	成人・老人看護学	
	母子看護学	母子看護学・助産学	
	地域看護学	地域看護学	
	精神看護学		
	環境科学		

(事務局資料)

資料 1-1-2 教員組織の構成一覧

学科	講座	領域	平成19年度現員(平成19年5月1日現在)						
			教授	准教授	講師	助教	助手	計	非常勤講師
医学科 (医学部附属病院所属を含む)	形態機能医科学	行動基礎科学	1					1	
		運動・スポーツ医学		1				1	3
		人体解剖学・神経科学	1	1			2	4	2
		組織細胞形態学・神経科学	1		1	1		3	3
		分子生理学	1	1			2	4	3
	病因病態医学	統合生理学	1	1			2	4	2
		腫瘍病理学	1	1			2	4	3
		分子病理学	1				3	4	1
		微生物学	1				3	4	1
		免疫学・寄生虫学	1	1			2	5	1
	生命情報医科学	医用統計学・数学	1					1	
		生命物質科学	1	1				2	
		分子生命化学		1			1	2	2
		病態遺伝生化学	1				1	2	1
		分子遺伝学	1	1			1	3	
		分子生体情報学	1		1	1		3	2
	国際社会医学	薬理学	1		1	2		4	4
		医療倫理学						0	
		医療経済学						0	1
		応用言語学(医学英語)	1	1	1			3	1
		医療人文学		1				1	
		高次脳機能		1		1		2	2
		環境保健学	1	2		2		5	9
	病態制御医学	法医学・人類遺伝学	1			1		2	4
		内科学(1)		1			3	4	3
		第一内科			2	2		4	
		内科学(2)	1	1		3		5	3
		第二内科			2			2	
		内科学(3)	1	1		3		5	3
		第三内科			2	2		4	
		腎臓病態内科学	1	1				2	4
		小児科学	1	1		2		4	2
		小児科			2	3		5	
		精神医学	1	1		3		5	3
		神経科精神科			1	3		4	
		救急医学			1			1	1
		器官制御医学	外科学(1)	1	1		2		4
	第一外科				2	3		5	
	外科学(2)		1	1		3		5	5
	第二外科				2	2		4	
	整形外科		1		1	2		4	
	整形外科				1	3		4	
	麻酔・蘇生学		1	1		2		4	9
	麻酔科蘇生科					1		1	
	産科婦人科学		1	1		3		5	4
	産科婦人科				1	3		4	
	泌尿器科学		1	1		2		4	6
	泌尿器科				2	3		5	
	病態管理・疼痛緩和学							0	
	感覚運動医学		皮膚科学	1		1	2		4
		皮膚科			1	4		5	
		脳脊髄神経外科学	1	1		3		5	
		脳脊髄神経外科			2	2		4	
		眼科学	1	1		3		5	4
		眼科			1	3		4	
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1	1		2		4	1
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科			1	4		5	
		歯科口腔科学	1	1				2	2
	病態解析医学	歯科口腔外科				3		3	
		放射線医学		1				1	
		放射線科			1	4		5	
	検査医学						0		
	病院長		1				1		
	検査部				2		2		
	手術部		1			1	2		
	放射線部		1		1		2		
	救急部				2		2		
	集中治療部			1	1		2		
	輸血部			1			1		
	リハビリテーション		1		1		2		
医療情報部		1		1		2			
光学医療診療部		1		1		2			
病理部		1				1			
総合診療部		1		2		3			
薬剤部		1				1			
看護学科	基礎看護学	基礎看護学	1	1		3	5	1	
		生命基礎科学	1				1		
		健康科学	2				2		
	臨床看護学	成人・老人看護学	1	2	2	3	8	2	
		母子看護学・助産学	1	1	1	3	6	6	
	地域看護学	地域看護学		1	1	1	3	6	
		精神看護学		1		1	2		
環境科学		1				1			
合計			44	42	36	129	5	256	115

(事務局資料)

両学科とも、学生現員は若干の増減はあるものの学生定員を維持している【資料 1-1-3】。

資料 1-1-3 適切な学生現員数；定員に対する年度別学生現員数

医学科				基準日：5月1日現在							
年度	入学定員	2年次後期 編入学定員	収容定員	性別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
平成15年度	95	5	595	男	55	50	56	79	51	64	355
				女	40	46	53	35	46	44	264
				計	95	96	109	114	97	108	619
平成16年度	95	5	595	男	47	57	50	67	72	52	345
				女	48	40	50	56	35	50	279
				計	95	97	100	123	107	102	624
平成17年度	95	5	595	男	64	51	53	56	66	69	359
				女	32	50	40	53	54	36	265
				計	96	101	93	109	120	105	624
平成18年度	95	5	595	男	61	65	51	53	55	64	349
				女	38	33	52	40	55	54	272
				計	99	98	103	93	110	118	621
平成19年度	95	5	595	男	59	65	60	55	50	57	346
				女	41	36	36	51	43	53	260
				計	100	101	96	106	93	110	606

看護学									
年度	入学定員	3年次後期 編入学定員	収容定員	性別	1年	2年	3年	4年	計
平成15年度	60	10	260	男	2	4	2	3	11
				女	58	56	63	66	243
				計	60	60	65	69	254
平成16年度	60	10	260	男	5	2	4	3	14
				女	56	56	63	62	237
				計	61	58	67	65	251
平成17年度	60	10	260	男	8	6	1	4	19
				女	52	54	64	63	233
				計	60	60	65	67	252
平成18年度	60	10	260	男	5	9	5	1	20
				女	56	49	61	68	234
				計	61	58	66	69	254
平成19年度	60	10	260	男	4	5	7	5	21
				女	57	56	57	63	233
				計	61	61	64	68	254

(事務局資料)

ほぼ全ての専門科目（医学科：91科目中91科目，看護学科：75科目中72科目）は専任教員によって科目構成や成績判定等が統括され，学習指導の責任体制は十分整備されている。先端的な内容等の教育に適した非常勤講師の積極的登用【資料 1-1-2：P5】，さらに臨床教育の充実を図るため臨床教員制度や関連医療機関との連携による地域教育力の積極的な活用【資料 1-1-4～5】等，基本的教育組織を補完する適切な教育体制が整備されている。

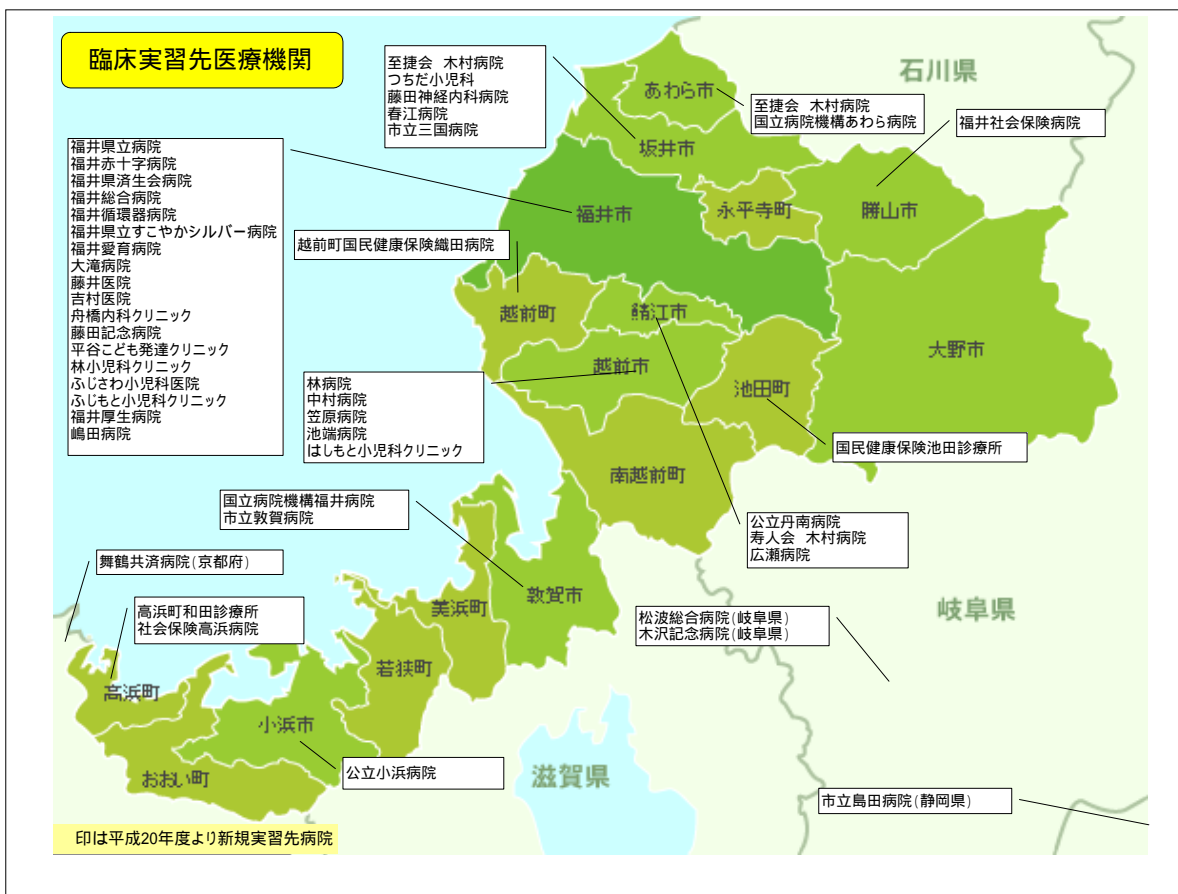
資料 1-1-4 地域教育力の積極的活用 1；臨床教員制度による臨床教授等付与状況

学科	発令時期	臨床教授	臨床准教授	臨床講師	合計	
医 学 科	平成15年	15.1.1	37	6	4	47
		15.7.1	39 (2)	9 (3)	4	52 (5)
	平成16年	16.1.1	37	11 (1)	2 (1)	50 (2)
		16.7.1	37	12 (1)	2	51 (1)
	平成17年	17.1.1	31	11 (2)		42 (2)
		17.7.1	31	12	1 (1)	44 (1)
	平成18年	18.1.1	38 (7)	13 (2)	1 (1)	52 (10)
		18.7.1	40 (2)	15 (2)	2 (1)	57 (5)
	平成19年	19.1.1	35	14 (2)	4 (1)	53 (3)
		19.7.1	35	14	5	54 (2)
看 護 学 科	平成16年	16.8.1	3	1	16	20
	平成17年	17.8.1	3	1	36 (28)	40 (28)
	平成18年	18.8.1	3	1	38 (8)	42 (8)
	平成19年	19.8.1	4 (2)	2 (1)	40 (13)	46 (16)

()は新規者で内数である

(事務局資料)

資料 1-1-5 地域教育力の積極的活用 2；臨床実習先医療機関



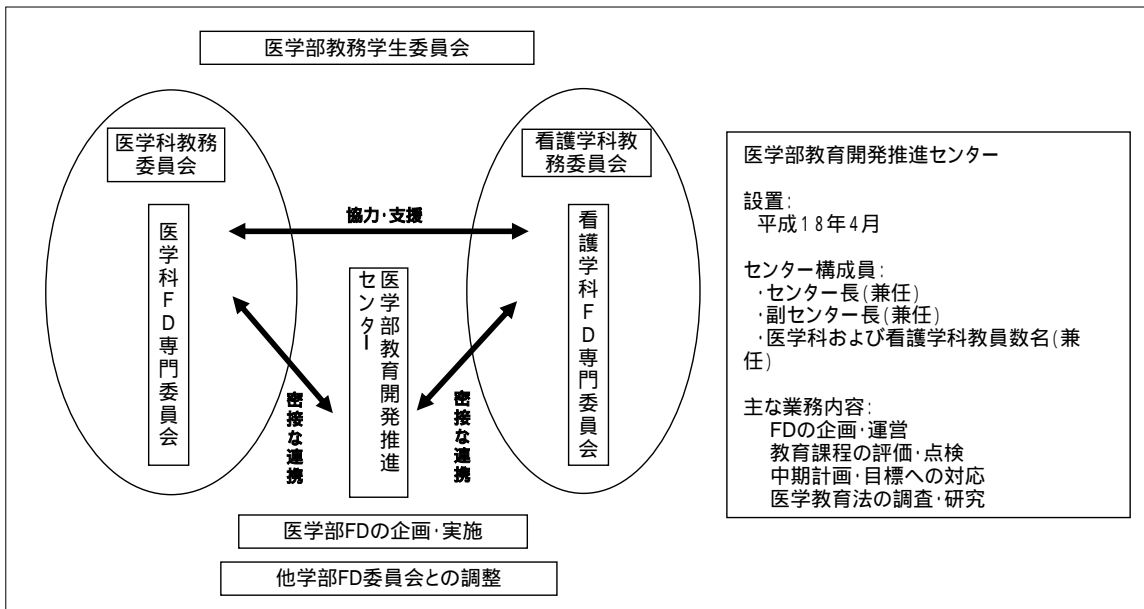
(事務局資料)

観点1 - 2 教育内容，教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

医学部教育開発推進センターを中心にFD専門委員会など関連委員会と密接に連携したFD体制が整備されている【資料1-2-1】。さらに，教員はFD活動に高い意欲を有している【資料1-2-2】。

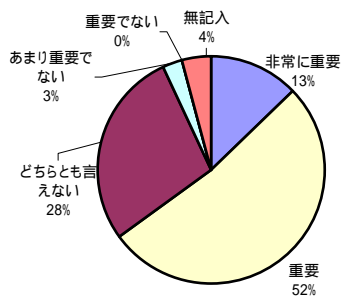
資料1-2-1 組織的FD体制の適切な整備



(事務局資料)

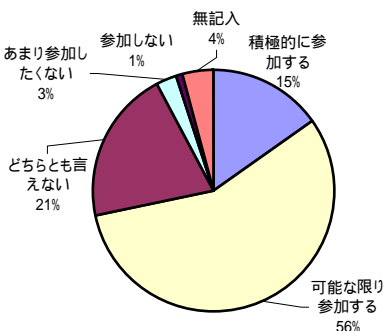
資料1-2-2 教員のFD活動に対する高い意欲

設問：FD活動の重要性



	回答者数
非常に重要	15
重要	61
どちらとも言えない	33
あまり重要でない	3
重要でない	0
無記入	5
合計	117

設問：今後FD活動への積極的な参加



	回答者数
積極的に参加する	18
可能な限り参加する	66
どちらとも言えない	24
あまり参加したくない	3
参加しない	1
無記入	5
合計	117

(回収率42.7%)

(資料「平成19年度 授業改善(学部教育)に係る教員アンケート集計結果」より抜粋)

学生による教育課程及び全科目に対する評価アンケートの定期的実施や教員個人評価の実施等【資料 1-2-3】によって教育課程や教員の教育方法等を随時点検・改善している。

資料 1-2-3 定期的な教育課程・内容等に対する評価の実施

評価項目	評価者	実施状況	評価実施時期
学生による授業評価	医学科・看護学科学生	すべての科目について担当教員ごとに教育内容・方法等を評価する	定期・最終講義または試験時に実施
医学科教育課程評価	医学科1年生	医学科1年教育課程の内容・編成等を評価する	定期・1年後期終了時に実施
医学科教育課程評価	医学科3年生	医学科基礎医学教育課程の内容・編成等を評価する	定期・3年前期終了時に実施
医学科教育課程評価	医学科4年生	医学科臨床医学教育課程の内容・編成等を評価する	定期・4年後期終了時に実施
チューリアル教育に関する評価	医学科学生	すべてのチューリアル教育について、内容等を評価する	定期・各終了時に実施
看護学科教育課程評価	看護学科1～4年生	看護学科教育課程の内容・編成等を評価する	随時
看護学実習科目評価	看護学科学生	すべての看護学実習科目に関する評価	定期・実習科目終了時に実施
CPC・統合講義授業評価	医学科6年生	CPC・統合講義の内容・編成等を評価する	定期・6年講義終了時に実施
教員個人評価	自己評価・同僚教員による評価	教員の教育活動に関する自己評価・同僚評価	定期・平成19年より3年ごとに実施
教員による教育課程評価	授業担当教員	教育課程の内容・編成等を評価する	随時
シラバスに関する評価	医学科・看護学科学生	シラバス記載内容、活用状況評価	随時
卒業生による教育課程評価	医学科・看護学科卒業生	医学科・看護学科教育課程全般に関する評価	随時
就職先からの卒業生に対する評価	附属病院、関連病院ほか	医学科・看護学科卒業生に関する評価	随時

医学部教育開発推進センターおよび関連委員会は教育関連評価に係る各種のアンケート調査を定期的に、あるいは必要に応じて適宜実施している。また、様々な取組あるいは科目において担当教員は随時教育内容等に関する評価を実施している。なお、平成20年度から新教育課程が導入される看護学科では医学科同様に定期的な教育課程評価を予定している。

点検・評価等による改善例

医学科1年 学習効率・学習内容を向上

- ・平成18年度より「教養特別講義1」および「同2」の追加。
- ・平成19年度より「医学入門・概論」中に「医学史（26時間）」の追加。
- ・平成20年度より「入門チューリアル（60時間）」を後期 前期に開講時期変更。
- ・平成20年度より「医学入門・概論（60時間）」を前期 後期に開講時期を変更。

医学科2年 過密スケジュールの緩和

- ・平成17年度より「生体と医動物（54時間）」を2年後期 3年前期に開講時期変更。
- ・平成18年度より「生体と微生物（106時間）」を106時間 80時間に授業時間数変更。

医学科3年・4年 選択必修科目の履修方法を改善

- ・平成18年度よりアドバンストコースを3年次終了までに「4コース（120時間）以上履修」「2コース（60時間）以上履修」することに変更。
- ・平成20年度よりアドバンストコースを4年次に「2コース（60時間）以上履修」「4年次前後期でそれぞれ1コース（30時間）以上履修」することに変更

看護学科 教育内容全般の向上・改善

- ・平成20年度より看護学科教育課程表の改正（旧教育課程表 新教育課程表）

授業方法及び授業内容の改善 【随時】

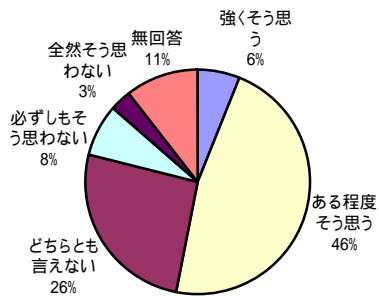
- ・授業評価アンケート結果を教員に周知し、随時授業方法、教材の工夫などの改善。

（事務局資料）

評価結果の教員へのフィードバック【資料 1-2-4】、優秀教員による公開授業の開講【資料 1-2-5 : P11 ~ 12】や F D の定期的実施【資料 1-2-6 : P13】等によって、教員は教育内容・方法を随時改善している。

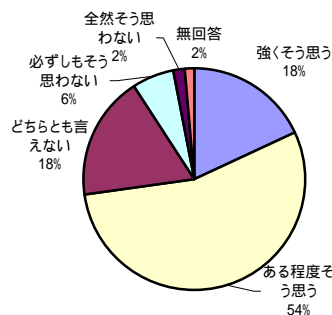
資料 1-2-4 授業評価の適切なフィードバック

設問：前年の評価アンケート結果を参考に、授業方法の改善を試み、学生へのフィードバックができた。



	回答者数
強くそう思う	4
ある程度そう思う	31
どちらとも言えない	17
必ずしもそう思わない	5
全然そう思わない	2
無回答	7
合計	66

設問：今回の評価結果を受け、次の講義を改善する予定である。



	回答者数
強くそう思う	12
ある程度そう思う	36
どちらとも言えない	12
必ずしもそう思わない	4
全然そう思わない	1
無回答	1
合計	66

(回収率64%)

授業評価のフィードバックによる改善例 (アンケートより一部抜粋)

- ・ プリントを B4 A3orA4 に (学生の要望)。プリントに空きスペースを (学生の要望)。早口になるので内容を圧縮。一昨年に比べ昨年の学生達には好評で、基礎系教官 5 人のうちの 1 人に入った。
- ・ スライドを使って授業をしたが、内容を印刷したプリントを配布しなかったところ、配布してほしいという要望があったので、次年度配布した。
- ・ 板書で行っていたところ、わかりづらいなどの評価だったので、全てパワーポイントに変更しました。パワーポイントで時々インターネットの関連サイトやビデオを見せるなど、「飽きさせない」「眠らせない」ように工夫しました。配付資料をパワーポイントのプリントアウトで穴埋め式に変更しました。その結果、真剣に前を向いて授業を聞くようになりました。学生の反響は好評のようです。
- ・ 配布するプリントに、記入スペースが少ないという指摘あり。 記入スペースを増やした。
- ・ 進行スピードが速いとの指摘を受け、進行をゆっくりとし、補講講義を 1 コマ追加した。
- ・ 英語のプリントはイヤだといわれた 日本語にした。 板書も英語はイヤだといわれた 日本語にした。 学生は良かったと
- ・ パワーポイントのスライドが早いとのコメントがあったので、メモが必要なスライドは、時間を十分とるように今年はしている。
- ・ 教材として映画を活用するさいに解説を丁寧に行うように改善した。分かり易かったと好評であった。
- ・ 学生が参加する講義になるよう実習の要素も取り入れた。反響は悪くなかったと思う。

(資料「平成 19 年度「学生による授業評価」のフィードバックに係るアンケート調査結果」より抜粋)

資料 1-2-5 公開講義の実施と適切なフィードバック

目的：学生により授業評価で「優れている」と高く評価された講義を教員に広く公開し、優秀教員の行っている教授法を参考にして、もって教員の教育法の向上を図る。これは学生による評価を教員にフィードバックする一環として実施される。

対象授業：学生による授業評価に基づき、総得点の高いものから上位10～20%以内の授業

公開講義実施状況(平成19年度より実施)

実施年度	学科	公開講義実施コマ数				参加教員数
		教養・準備教育	基礎医学系	臨床医学系	専門教育	
平成19年度	医学科 看護学科	7コマ	10コマ 6コマ	33コマ		延べ50名

公開講義の一例

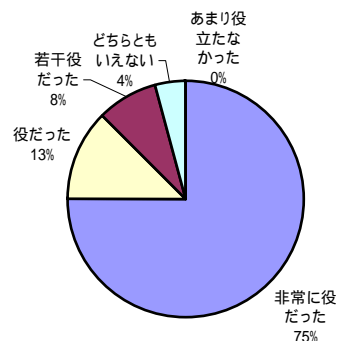
平成18年度「学生による授業評価アンケート」評価上位教員による公開授業について(後期分)

標記のこのことについて、ご協力いただける授業の公開は下記のとおりです。参観された教員方からは講義の導入法、学生を引きつける方法や、教材の工夫等大変参考になったと好評です。是非、多数の若手教員方の参観をお待ちしております。参観ご希望の方は、下記まで随時お申し込み下さい。(学生の通常授業の参観となりますので、教室の関係上人数に制限があります。資料の準備もありますので、必ず事前に学務室までご連絡願います。)

	教員名	授業科目・講義室	日 程			コメント
基礎系	飯野 哲 (人体解剖学・神経科学)	人体解剖学1 (第2中講義室)	9月25日(火)3限目	9月25日(火)4限目	9月26日(水)2限目	医学科2年生対象 後期科目のため日程の変更有り
	佐藤 真 (組織細胞形態学・神経科学)	人体解剖学2 (第2中講義室)	1月9日(水)3限目	1月10日(木)3限目	1月11日(金)3限目	医学科2年生対象 人数制限有り
臨床系	伊藤 春海 (副学長)	ドクトルコース11 (画像診断-基礎から応用へ) (合併講義室)	12月11日(火)1限目	12月11日(火)2限目	12月12日(水)1限目	医学科4年生対象 3回の一連の内容ですが、一回毎にバージョンアップしていきます。いつ来られてもよろしいです。
	宇随 弘泰 (内科学(1))	循環器系 (第3中講義室)	10月2日(火)2限目	10月3日(水)5限目		医学科3年生対象
	大嶋 勇成 (小児科学)	免疫と生体防御 (第2中講義室)	11月7日(水)1限目	10月24日(水)1限目		医学科2年生対象
	片山 寛次 (外科学(1))	基本的診療知識 (合併講義室)	11月2日(金)3限目	11月2日(金)4限目	11月8日(木)2限目	医学科4年生対象 11/8(金)変更予定
	栗山 勝 (内科学(2))	臨床実習0-1 (病棟5Fカカリスルーム)	8月31日(金) (14:00-17:00)	9月21日(金) (14:00-17:00)	10月5日(金) (14:00-17:00)	4年生対象の神経内科の講義は4～5月に終了したため、5年生対象の臨床実習中にロールプレイ実習を行っているものを公開いたします。

公開講義の適切なフィードバック

設問 当該公開授業は先生の講義方法の向上に役立ちましたか？



	回答者数
非常に役立った	18
役立った	3
若干役立った	2
どちらともいえない	1
あまり役立たなかった	0
合計	24

公開講義により向上した教育方法等改善への意欲（アンケートより一部抜粋）

- ・以下の点が大いに参考になりました。
 - 学生に理解させるための時間を持たせるように余裕を持った授業の進め方
 - 多くのことを教えすぎず，ポイントを絞り教示する授業の立て方
 - 「演習」を取り入れ，学生の参加を促す授業の形態
 - 書き込みができる配布資料の作成法
- ・授業の基本に忠実で，教育に熱意があり，時間をかけて講義の準備をしていることがわかった。
- ・わかりやすい講義プリントの作製，質問に対する丁寧な応答など準備に十分時間をかけ理解の向上に努めている姿勢に感銘を受けました。
- ・ 1．講義内容や疾患・病態の全体像や全体のイメージを持たせていること。 2．講義の説明が丁寧で，ビニール袋やナツメグを用意して分かりやすく説明されていること。 3．特に重要なポイントを強調していること。 4．OHPを用いて書き込みを行い，適度な「間」をとって，学生の理解をはかっていること。等，講義に対して十分に準備されており，洗練された講義と感じました。これらのことは，私にとりまして，今後の講義方法の向上に役立つと思いました。
- ・次の点が参考になった。
 - 1) 授業の展開
 - ・ 授業の目的を最初（導入部分）に明確に示し，学生の motivation を up させている。
 - ・ 適宜，学生に質問し，教員・学生との間の相互作用が行われている。
 - ・ 重要な point は何度も repeat して強調しているのが大変良かった。
 - 2) 教材の使い方
 - ・ power point，OHP，配布資料が豊富である。
特に OHP に hand で記載して説明する方法が学生の集中力を高めている。
 - ・ 息抜きの工夫
 - ・ 本日の授業の目標が最初に明確に提示され，何を学ぶのか伝えることは大切と再確認できた。
 - ・ 講義前に今回の内容・目的を明確に説明されていて，講義に参加しやすかったです。非常に丁寧に話をされていて，ポイントや強調する部分の声のトーンもわかりやすく聞きやすかったです。また，具体例も印象的であり，考えさせられる内容でした。一つ一つを丁寧に説明したいとは思っていても，なかなか私はできていませんでしたが，今回の講義を聴けて，方法を勉強できました。
 - ・ 公開授業の評価ではなく，あくまでも卓越した授業方法の公開を目的とする。
 - ・ このような公開授業（講義）は，新たな基準（スタンダード・目標）をもつことができ，大変参考になりました。
 - ・ 公開授業の授業数（科目数）を増やしていただけると，多くの教員が参加できると思います。
 - ・ 実施日・実施内容を学期開始頃にあらかじめアナウンスしていただけると，参加できる日の予定が組みやすいと思う。

（資料「平成 19 年度受講教員による公開講義に対するアンケート調査結果」より抜粋）

資料 1-2-6 F Dの積極的な実施；F Dの実施状況一覧

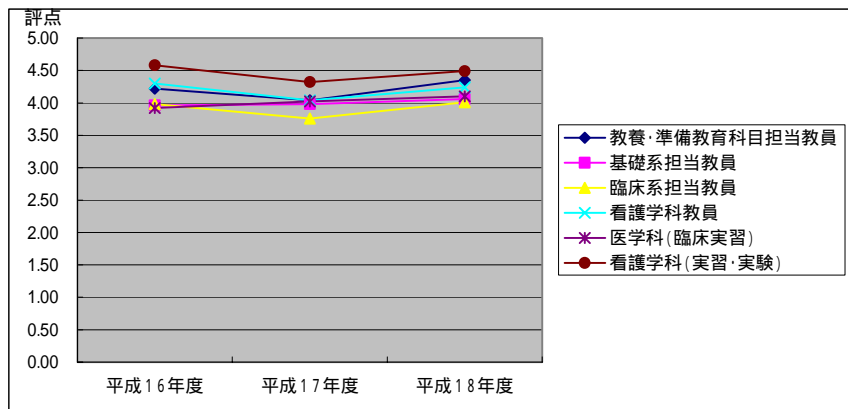
年度	内 容	実施日時		参加人数
16	問題作成(CBT)作成についてのワークショップ	H16.7.2	13:00～17:00	35名
	福井大学医学部テューター養成ワークショップ	H16.8.4	13:30～18:00	47名
	看護学科FD専門委員会主催「FDを知る会」	H16.7.21	16:15～17:15	25名
	FD講演会(工学部のFDの取組の現状と課題)	H16.9.28	17:30～18:30	29名
	授業改善のためのFD講演会	H16.12.21	16:00～18:00	26名
	クリニカルクラークシップにかかる講演会	H17.3.9	16:00～18:00	57名
17	問題作成(CBT)作成についてのワークショップ	H17.6.27	13:00～17:00	35名
	授業改善のためのセミナー	H17.9.8	10:00～12:00	17名
	福井大学医学部テューター養成ワークショップ	H17.10.3	14:00～17:00	54名
	看護学科FD専門委員会セミナー「実習に関するセミナー」	H17.12.21	16:30～18:00	21名
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会(授業評価は本当に教育改善につながるのか?)	H18.3.6	14:00～16:00	34名
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会(大学におけるカリキュラム改革ー看護学に焦点をあてて)	H18.3.8	13:30～15:30	25名
18	クリニカルクラークシップにかかる講演会	H18.3.14	16:00～17:30	45名
	看護学科FD専門委員会セミナー「課題と取組に関する意見交換会」	H18. 7.12	16:30～17:50	22名
	福井大学医学部テューター養成ワークショップ	H18.10.2	14:00～18:00	42名
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会(グループワークでのファシリテーション技術)	H18.12.20	16:00～18:00	27名
	卒後臨床研修指導医講習会	H19.1.27～28	9:00～18:00	34名
19	全学FDフォーラム	H19.3.9	13:00～16:30	100名
	福井大学医学部テューター養成ワークショップ	H19.10.12	14:00～18:00	42名
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会(初年次教育について)	H19.12.21	16:30～18:00	32名
	公開授業「H18年度授業評価上位教員による公開授業」	前・後期	適 宜	50名
19	全学FDフォーラム	H20.3.4	13:00～16:30	100名

(事務局資料)

学生による教員の教育内容・方法等に対する評価結果は概ね向上または高い水準で維持されており【資料 1-2-7】，これは教員の教育内容・方法等が常時改善・向上していることの証左である。

資料 1-2-7 教員の教育方法・内容等に対する学生の高い評価；学生による授業評価結果

		平成16年度	平成17年度	平成18年度
講義・演習	教養・準備教育科目担当教員	4.22	4.04	4.35
	基礎系担当教員	3.96	3.98	4.06
	臨床系担当教員	3.98	3.76	4.01
	看護学科教員	4.30	4.04	4.24
臨床実習	医学科(臨床実習)	3.92	4.02	4.10
実習・実験	看護学科(実習・実験)	4.58	4.32	4.49



評点 きわめて良い(強く思う) 5点
 かなり良い(ある程度思う) 4点
 普通である(どちらとも言えない) 3点
 あまり良くない(必ずしも思わない) 2点
 まったく良くない(全然思わない) 1点

学生による授業評価アンケートは全ての科目および担当教員ごとに実施している。数字は各担当分野における学生からの授業評価(問2~5)の評点の平均値であるが、全ての分野において学生から「きわめて良い」~「かなり良い」の評価が得られている。さらに、評点の平均値の年次推移も概ね向上している。なお、平成19年度分は集計中のため今回の資料には加えなかった。

学生による授業評価アンケート様式

学生による授業評価アンケート(講義・演習用)

このアンケートは、学生の皆さんが各教員の授業をどのように評価しているかを把握し、その結果を踏まえてそれぞれの授業をさらに充実させる目的で実施されます。当該の授業をよく振り返って手紙に答えてください。
 なお、このアンケートは統計的に処理され、その結果の一部が皆さんにもフィードバックされます。この回答が皆さんに対する成績評価に影響することは一切ありませんので、思ったとおりに答えてください。
 それでは、以下の問1~問5について、皆さんの評価を次の5段階の記号(A~E)で示してください。当該の授業に当てはまらない質問があれば、空欄のままにしておいてください。

1. 傷紙で読み取り集計するので、枠からはみださないように記入して下さい。
 2. 評価マークを黒でぬりつぶして下さい。
 3. アンケート用紙は講義室等に設置してある専用ポストに入れて下さい。

◎評語 = A きわめて良い (強く思う)
 B かなり良い (ある程度思う)
 C 普通である (どちらとも言えない)
 D あまり良くない (必ずしも思わない)
 E まったく良くない (全然思わない)

平成19年度前期
 21458 - 1

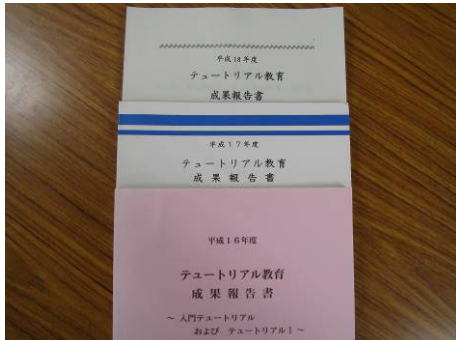
授業科目： 実用医学英語 担当教員： 春木 麻衣子

	A	B	C	D	E
問1 この講義に対するあなたの出席状況はどうでしたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問2 講義内容は適切でしたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問3 教員の授業に対する熱意や工夫は感じられましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問4 教員の説明は明瞭で分かりやすかったですか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問5 教材(教科書、プリント、板書、視聴覚機器等)は適切でしたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

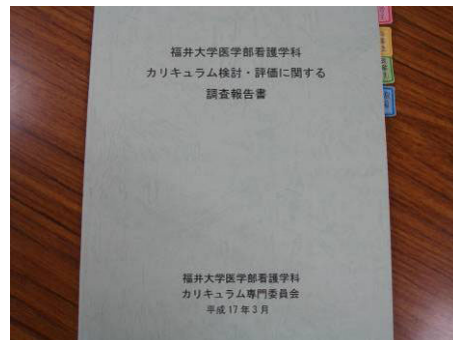
(事務局資料)

これら評価結果等は随時報告書として公表し【資料 1-2-8】 教員への周知を図っている。

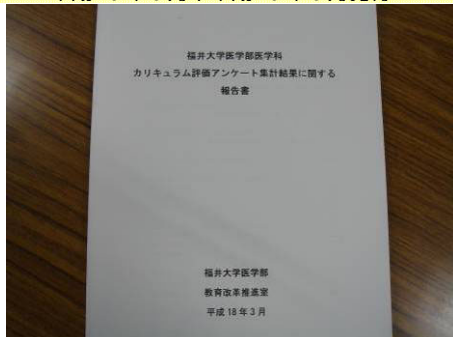
資料 1-2-8 評価結果の積極的な周知；公表した報告集一覧



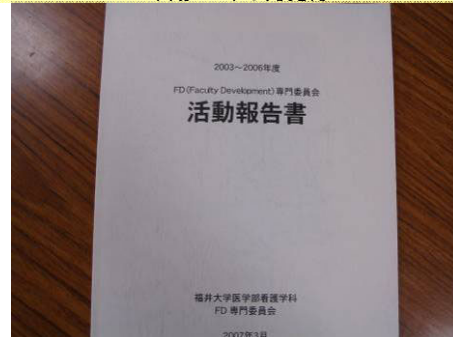
テュートリアル教育成果報告書の作成
 (テュートリアル教育専門委員会)
 平成 17 年 3 月, 平成 18 年 3 月
 平成 19 年 3 月, 平成 20 年 3 月発行



福井大学医学部看護学科カリキュラム検討・評価
 に関する調査報告書の作成
 (看護学科カリキュラム専門委員会)
 平成 17 年 3 月発行



福井大学医学部医学科カリキュラム評価アンケート集計結果に関する報告書
 (医学部教育開発推進センター)
 平成 18 年 3 月, 平成 20 年 3 月発行



看護学科 F D 専門委員会活動報告書
 (看護学科 F D 専門委員会)
 平成 18 年 3 月発行

(事務局資料)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

教育目的達成に適した、適切な教員組織の構成や専任教員の配置及び地域教育力の活用等がなされており、さらに学生定員に基づく適切な現員数が維持されている¹⁾。

¹⁾ 資料 1-1-2：教員組織の構成一覧:P5

資料 1-1-3：適切な学生現員数:P6

資料 1-1-4：地域教育力の積極的活用 1 :P7

資料 1-1-5：地域教育力の積極的活用 2 :P7

教育内容・方法や教育課程の点検・評価・改善に向けた組織的な体制が整備され、かつ関連した取組が継続かつ積極的になされており、さらに教員のFD活動に対する意欲も高い。また、教育課程及び全科目・全教員に対する評価アンケートの組織的实施はFD活動の基盤をなすものとして特記できる²⁾。

²⁾ 資料 1-2-1：組織的FD体制の適切な整備:P8

資料 1-2-2：教員のFD活動に対する高い意欲:P8

資料 1-2-3：定期的な教育課程・内容等に対する評価の実施:P9

資料 1-2-5：公開講義の実施と適切なフィードバック:P11～12

資料 1-2-6：FDの積極的な実施:P13

資料 1-2-8：評価結果の積極的な周知:P15

教育内容・方法の改善に向けた取組によって教員の教育内容・方法等が改善されており、かつ学生からも高く評価されている。これは学生の期待「医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養」等に応えるための基盤をなすものである。また、公開講義の実施は学生による評価結果をフィードバックする取組として特記できる³⁾。

³⁾ 資料 1-2-4：授業評価の適切なフィードバック:P10

資料 1-2-5：公開講義の実施と適切なフィードバック:P11～12

資料 1-2-7：教員の教育方法・内容等に対する学生の高い評価:P14

以上のように、関係者の期待に応えるための基盤となる適切な教育実施体制が整備されており、期待の水準を大きく上回る。

分析項目 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点2-1 教育課程の編成

(観念に係る状況)

医学科では本邦における医学教育の指針である「医学教育モデルコアカリキュラム教育内容ガイドライン」に準拠した教育課程を平成15年から学年進行で導入している【資料2-1-1】。

資料2-1-1 医学教育モデルコアカリキュラムに準拠した医学科教育課程

(平成19年度)												
	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	7週	8週
1	英語1	英語3	医学英語1	医学英語2	医学英語3	医学英語4	医学英語5	実用医学英語				
2	英語2	英語4	細胞の基本構造と機能 (19)	遺伝と遺伝子 (27)	原因と病態 (42)	血液・造血器・リンパ系 (22)	感染症 (19)	免疫・アレルギー疾患 (17)				医学・医療と社会3 (20)
3	独語1・仏語1 中国語1	独語2・仏語2 中国語2	個体の発生 (11)			腎臓内科 (15)	神経系 (42)	物理・化学的因子による疾患 (7) 加齢と老化 (8)				
4	運動スポーツ科学実習	人の行動と心理 (15)						成長と発達 (12)				
5	数学基礎	健康科学 (15)	組織と各臓器の構成 (65)	生体と微生物 (40)	生体と薬物 (41)	泌尿器系 (21)	神経系 (12)	死と法 (20)				
6	物理現象と物質の科学 (34)					皮膚系 (15)		症候・病態からのアプローチ (10)				
7						内分泌・栄養・代謝系 (25)	運動器系 (20)					
8	生命現象の科学 (46)		免疫と生体防御 (12)	生体と放射線 (7)		眼・視覚系 (10)		基本的診療知識 (60)				
9	情報の科学1 (15)	情報の科学2 (20)	個体の調節機構とホメオスタシス (47)	生体と動物 (27)	女性生殖機能・乳房 (31)	耳鼻咽喉・口腔系 (23)						
10	医学のための物理学入門	体力作りの科学										
11	医学のための生物学入門	現代物理学	人体解剖学1 (80)	生体と動物 (27)	循環器系 (34)	精神系 (16)		基本的診療技能 (45)				
12	総合教養ゼミナール	倫理の基礎から応用へ	生体物質の代謝 (34)	研究室配属 (60)	呼吸器系 (20)	消化器系 (31)	医学・医療と社会1 (40)	医学・医療と社会2 (36)				
13	心理行動科学入門	医療分野のドイツ語	医科学基礎実習 (54)	人体解剖学2 (40)	アドバンストコース ホルモンの情報	アドバンストコース 消化器系 (12)						
14	生命倫理学入門	応用数学			アドバンストコース 分子細胞情報学	アドバンストコース 分子免疫学						
15	歴史学	文化人類学			アドバンストコース 医科学特論	アドバンストコース 神経疾患						
16	文学	社会学				アドバンストコース 高嶺診断がん						
17	法学	芸術学										
18	医療経済学入門	教養特別講義2										
19	哲学的人間学	コミュニケーションとチーム医療 (7)										
20	教養特別講義	入門テュートリアル (30)	試験	試験	試験	試験	試験	試験				
21	経済学											
22	医学入門 (15)				医学導入	A項目	D項目					
23	医学概論 (15)				準備教育	B項目	E項目					
24					選択科目	C項目	F項目					
25	試験	試験			必修科目	選択必修科目	アドバンストコース	テュートリアル				

1年次生の1枠は1コマを表す

科目名横の()内数字はコマ数を表す

* 学外関連病院及び基礎医学講座研修など選択制をとる。

医師として社会から求められている人格の涵養と資質等の向上に対応する科目の開講

(高い倫理観を涵養するための科目)

医学入門, 生命倫理学入門, 倫理の基礎から応用へ (1年) 医の原則 (4年) 医学・医療と社会3 (6年)

(医療における安全管理能力を涵養するための科目)

医療における安全性への配慮と危機管理 (4年) 医学・医療と社会3 (6年)

(コミュニケーション能力の向上を図るための科目)

医学入門 (1年), コミュニケーションとチーム医療 (1年・3年・4年), 基本的診療知識 (4年)

(課題探求・解決能力の向上を図るための科目)

入門テュートリアル (1年), テュートリアル1 (3年), 循環器系 (3年), 消化器系 (3年), 神経系 (4年)

看護学科では文部科学省（平成 15 年）及び厚生労働省（平成 14 年）報告による看護学教育指導指針に準拠した教育課程を平成 20 年から学年進行で導入している【資料 2-1-2, 別添資料 2-1-2(2) : P103】。この教育課程再編は社会ニーズである「より高い看護実践能力の涵養」に対応したものである。なお、この再編を施行期日の 1 年前倒として実施したことは特記できる。（別添資料 2-1-2(3) : P104）

資料 2-1-2 看護学教育指導指針に準拠した看護学科教育課程

区分	1年		2年		3年		4年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	人間理解	文学 法学 教養特別講義	芸術学 社会学 文化人類学 心理学 哲学 生命倫理学 教養特別講義	教育学				哲学	
	情報処理	情報科学		統計学					
	語学	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	英語	英語	英語			英語
		体育	健康・スポーツ科学						
専門基礎科目	生命基礎科学	生命基礎科学(化学) 生命基礎科学(生命科学) 生命基礎科学実験(化学) 生命基礎科学実験(生命科学)	生命基礎科学(物理学) 生命基礎科学実験(物理学)						
	健康科学	健康科学論 形態機能論	形態機能論 形態機能論実習 生体反応論 生体反応論実習	疾病論 健康管理論 薬理作用論 成長発達論	疾病論 人間行動論	心理測定論			
	環境科学	生活科学論 環境科学論		疫学・保健統計論	保健医療福祉論 保健医療福祉論				
	看護学	看護学入門 看護学概論	日常生活援助論	看護過程論 看護コミュニケーション論 療養生活援助論	ヘルパースト論	看護倫理 リスク・マネジメント論		看護管理	
専門科目	健康時の看護		地域看護学概論	地域看護活動論	地域看護活動論 ケア提供システム論 育児援助論		学校保健論 産業保健論 国際保健論 助産学概論 助産論 助産論		
	健康障害時の看護		成人看護学概論 老年看護学概論	急性期看護活動論 慢性期看護活動論 リハビリテーション看護活動論 母子看護学概論 精神看護学概論 老年看護活動論	災害看護論 がん看護論 ターミナル看護活動論 小児看護活動論 母性看護活動論 精神看護活動論 感染予防看護論 発達障害看護論 在宅看護活動論				
	臨床実習	基礎看護学実習		基礎看護学実習		成人看護学実習 成人看護学実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 地域看護学実習	助産学実習		
	卒業研究						卒業研究		

保健師国家試験受験に履修が望ましい選択科目

助産師国家試験受験資格取得に必要な選択科目

看護職として社会から求められている人格の涵養と資質等の向上に対応する科目の開講

(社会のニーズに対応した科目)
がん看護論（3年）、災害看護論（3年）

(学生像の変化に対応した科目)
看護学入門（1年）

(高い倫理観を涵養するための科目)
生命倫理学（1年）、哲学（1年）、哲学（4年）、
看護倫理（3年）、看護管理（4年）

(より高い看護実践能力の向上のための科目)
全ての活動論科目（2～3年）、全ての実習科目（1～4年）

(実践的看護英語能力の向上のための科目)
英語（2年）、英語（3年）、英語（4年）

医学科では学生が修得すべき基本となる教育内容は必修科目として、高度な教育内容はアドバンスコース等の選択科目として配置している【資料2-1-3】。看護学科では国家試験受験資格要件となる科目等を選択科目として配置している【資料2-1-2：P18】。

資料2-1-3 選択専門科目一覧

医学英語科目（実践的医学英語教育）		
開講年次	科目名	履修要件
医学科4年	医学英語 5	自由選択
医学科4年	実用医学英語	自由選択
アドバンスコース科目（高度な医療・医学に関する教育）		
開講年次	科目名	履修要件
医学科3年	アドバンスコース1 （ホルモンの情報伝達と生殖内分泌）	3年次終了までに2コース以上履修すること
医学科3年	アドバンスコース2 （分子細胞情報学）	
医学科3年	アドバンスコース3 （分子免疫学）	
医学科3年	アドバンスコース4 （医科学特論）	
医学科3年	アドバンスコース5 （先端医学生物工学実習コース）	
医学科4年	アドバンスコース6 （整形外科・リハビリテーション・救急外傷外科）	4年次終了までに2コース以上履修すること
医学科4年	アドバンスコース7 （熱帯医学（旅行医学，新興感染症含む））	
医学科4年	アドバンスコース8 （神経疾患の診断と治療）	
医学科4年	アドバンスコース9 （画像診断 - 基礎から応用へ）	
医学科4年	アドバンスコース10 （がん）	

(事務局資料)

教養準備教育の目的・目標【資料2-1-4：P20～21】に沿うよう、教養教育は医学部長を含む教養準備教育運営委員会によって全学部的な視点から実施されており、医学教育の一環として位置付けられている。なお、教養教育は平成14年度実施の大学評価・学位授与機構による「全学テーマ別評価（教養教育）」において高い評価（上位4校）を受けた旧福井医科大学の教養教育を発展的に踏襲したものである。医学科では、準備教育モデルコアカリキュラムに準拠した医学準備教育課程【資料2-1-1：P17】と密接に連携した教養教育が編成されている。

福井大学医学部における教養教育の目的・目標

福井大学医学部医学科では専門教育科目に先立って、あるいは併行して教養教育（導入、準備教育を含む）科目が開講されており、その目指すところは以下の通りです。

目的

将来の医療従事者にふさわしい倫理観、総合的判断力や良識を養い、専門教育の履修に不可欠な基礎的な知識と技能や方法論を身につけた学生の育成を目的とする。

目標

1. 医学・看護学を学ぶことへの動機付けを行い、学ぶことへの主体的意欲を高める。
2. 医学研究者・医療従事者としての倫理観を養う。
3. 専門教育の履修に必要な基礎学力と基礎的技能を身につける。
4. 医療・医学をめぐる人間や社会、思想等についての諸問題に関心を持つ。
5. 人間理解とコミュニケーションの能力を培い、将来の医療人としての幅広い教養と自己の心身を豊かにするための素養を身につける。

「教養教育の目的・目標」はシラバスへの掲載やオリエンテーション時におけるアナウンス等によって学生に周知している。さらに、「教養特別講義1」「教養特別講義2」として、社会ニーズ等に対応した教育内容の科目を随時開講している(平成19年度は「環境論」及び「メディア論」を開講)。

医学科 教養・準備教育科目一覧

区分	授業科目名						
総合教育科目 (右記より14単位以上履修)	総合教養ゼミナール	倫理の基礎から応用へ	生命倫理学入門	心理行動科学入門	経済学	医療経済学入門	歴史学
	文学	哲学的人間学	芸術学	法学	社会学	文化人類学	医療分野のドイツ語
基礎教育科目 (右記より15単位以上履修)	体力作りの科学	応用数学	現代物理学	教養特別講義1	教養特別講義2	(14単位以上を履修すること。)	
	数学基礎	医学のための物理学入門	医学のための生物学入門	運動スポーツ科学実習	英語1	英語2	英語3
医学導入教育 (必修60時間)	医学概論	医学入門					
医学準備教育 (必修392時間)	人の行動と心理	物理現象と物質の科学	生命現象の科学	医科学基礎実習	情報の科学1	情報の科学2	健康科学

準備教育モデルコアカリキュラムに準拠した医学教育課程科目 は必修科目

看護学科 基礎教育科目一覧

区分	授業科目名						
基礎科目 (右記より17単位以上履修)	哲学	倫理学	文学	芸術学	左記より2単位以上履修すること		
	法学	文化人類学	社会学	左記より2単位以上履修すること			
	心理学	教育学	統計学	情報科学	英語	英語	英語
	ドイツ語	フランス語	中国語	体育			

は必修科目

教養・準備教育科目の一例

医学科の「総合教養ゼミナール」は、少人数教育として10名程度の学生が主体的に自ら学ぶ対話型授業を目指し、選択科目として開講されている。平成19年度では9コースのゼミが実施された。学生は自らの興味と関心に応じてテーマを選び受講している。

「総合教養ゼミナール」の科目例
「ロボットとコンピュータ」授業風景



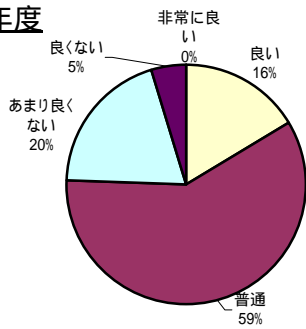
教養・準備教育課程に対する学生からの評価

教養・準備教育課程の構成について、「あまり良くない(満足していない)」～「良くない(満足していない)」と回答した学生は少なく、教養・準備教育課程は関係者の期待に相応に答えている。

医学科

設問：1年次のカリキュラム全体の構成はいかがでしたか？

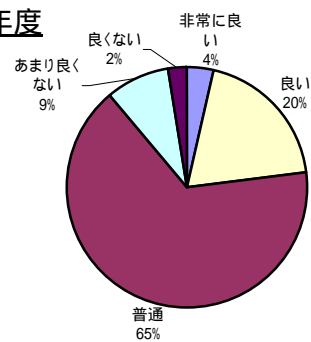
18年度



平成18年度	回答者数
非常に良い	0
良い	14
普通	51
あまり良くない	17
良くない	4
合計	86

(回収率82.0%)

19年度



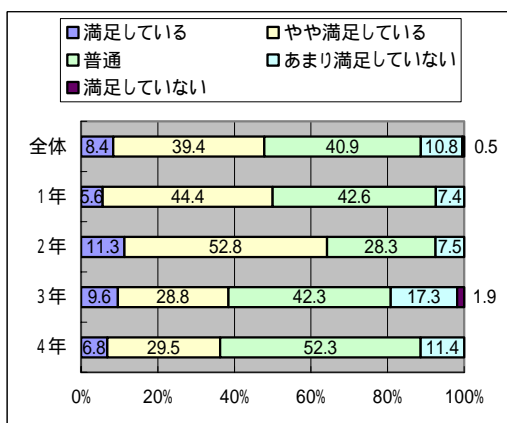
平成19年度	回答者数
非常に良い	3
良い	16
普通	54
あまり良くない	7
良くない	2
合計	82

(回収率86.9%)

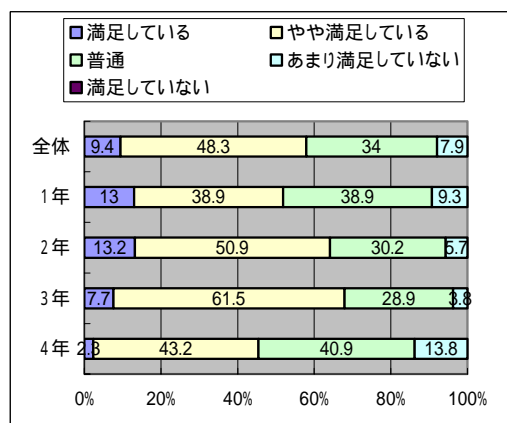
看護学科

設問：基礎科目群及び専門基礎科目群に満足していますか？

基礎科目群



専門基礎科目群



数字は回答者数の割合 (%) を表す。

(注)看護学科では基礎科目群及び一部の専門科目群が教養準備教育科目に相当する。

(資料「平成18年度医学科1年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

(資料「平成19年度医学科1年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

(資料「平成17年度福井大学医学部看護学科カリキュラム検討・評価に関する調査報告書」より改編)

教育課程の編成は学生から良い評価を得ており、関係者の期待に十分応えている【資料 2-1-5:P22～26】。

資料 2-1-5 学生の教育課程全般に対する高い評価；学生による評価結果

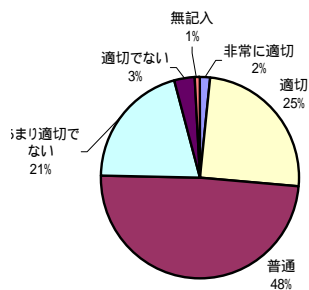
旧教育課程履修の卒業生と新教育課程履修の学生(4年生)を比較すると、教育課程全般に対して「非常に適切」～「適切」と回答したものが26%から48%の増加している。単純な比較は難しいが、少なくとも新教育課程の導入は関係者の期待に応えていることが示唆される。

医学科

卒業生対象

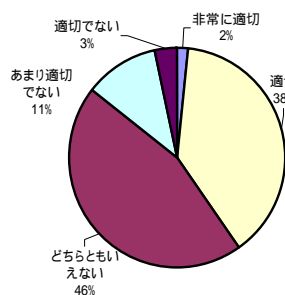
臨床現場に臨んでいる現時点で、あなたの履修した医学教育カリキュラム全般についてお尋ねします。

設問：医学教育カリキュラム全体（科目構成、開講時期など）は適切なものでしたか？



	回答者数
非常に適切	2
適切	29
普通	57
あまり適切でない	24
適切でない	4
無記入	1
合計	117

設問：臨床実習等の医学教育カリキュラムは臨床研修の前提となる基礎的な診療技術・知識を習得する上で適切なものでしたか？



	回答者数
非常に適切	2
適切	45
どちらともいえない	53
あまり適切でない	13
適切でない	4
合計	117

(385枚配布/117枚回収)

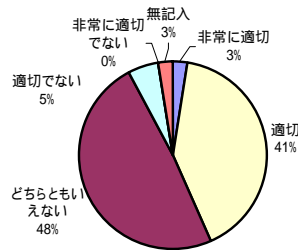
(注)平成16～19年度卒業生を旧医学科教育課程履修者として調査対象とした。

(資料「卒業生対象 平成19年度福井大学医学部医学教育カリキュラムに関するアンケート集計結果」より抜粋)

4年生

設問：1年次以降の臨床前医学教育カリキュラム全体（科目構成、開講時期など）は臨床実習に臨む上で適切なものでしたか？

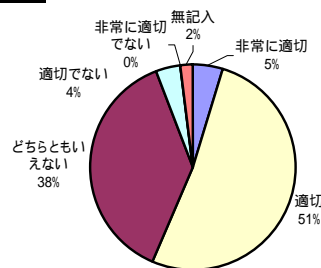
18年度



	回答者数
非常に適切	2
適切	31
どちらともいえない	37
適切でない	4
非常に適切でない	0
無記入	2
合計	76

(回収率84.3%)

19年度

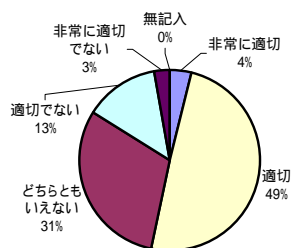


	回答者数
非常に適切	5
適切	53
どちらともいえない	39
適切でない	4
非常に適切でない	0
無記入	2
合計	103

(回収率100%)

設問：臨床前医学教育カリキュラム全体はCBTおよびOSCEを受験する上で適切なものでしたか？

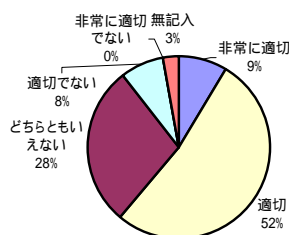
18年度



	回答者数
非常に適切	3
適切	37
どちらともいえない	23
適切でない	10
非常に適切でない	2
無記入	0
合計	75

(回収率84.3%)

19年度



	回答者数
非常に適切	9
適切	54
どちらともいえない	29
適切でない	8
非常に適切でない	0
無記入	3
合計	103

(回収率100%)

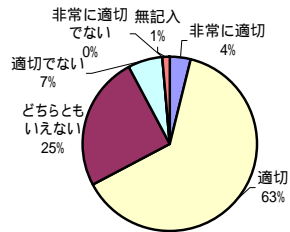
(資料「平成18年度医学科4年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

(資料「平成19年度医学科4年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

3年生

設問：2年次・3年次前期における基礎医学教育カリキュラム全体（科目構成、開講時期など）は基礎医学を学ぶ上で適切なものでしたか？

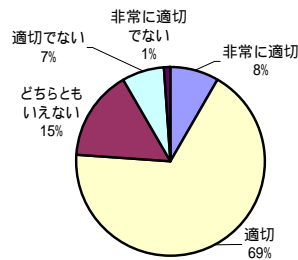
18年度



	回答者数
非常に適切	3
適切	48
どちらともいえない	19
適切でない	5
非常に適切でない	0
無記入	1
合計	76

(回収率74%)

19年度



	回答者数
非常に適切	7
適切	57
どちらともいえない	13
適切でない	6
非常に適切でない	1
合計	84

(回収率85.7%)

(注) 3～4年生を新医学教育課程履修者として調査対象とした。

(資料「平成18年度医学科3年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

(資料「平成19年度医学科3年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

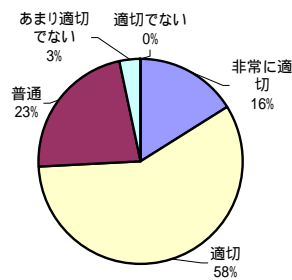
看護臨床実習を履修した卒業生や高学年生では教育課程に対して「適切（良い）」～「非常に適切（良い）」と回答した学生の数が増加しており、これは看護学科の教育課程が実践的臨床看護能力の涵養について関係者の期待に十分応えていることを示唆している。さらに、実践的臨床看護能力涵養のさらなる向上を目的として、平成 20 年度から新教育課程を導入する。

看護学科

卒業生対象

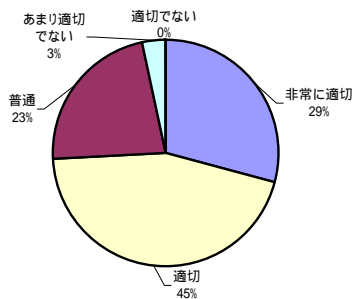
看護臨床現場に臨んだ経験を踏まえ、あなたの履修したカリキュラム全般についてお尋ねします。

設問：カリキュラム全体（科目構成、開講時期など）は適切なものでしたか？



	回答者数
非常に適切	5
適切	18
普通	7
あまり適切でない	1
適切でない	0
合計	31

設問：看護実習等の教育カリキュラムは基礎的な看護技術・知識を習得する上で適切なものでしたか？



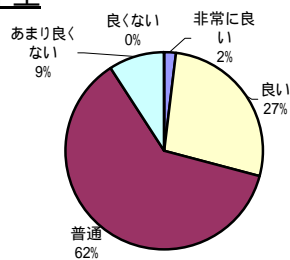
	回答者数
非常に適切	9
適切	14
普通	7
あまり適切でない	1
適切でない	0
合計	31

(回収率53.4%)

(資料「卒業生対象 平成 19 年度看護学教育カリキュラム・看護基本技術の記録に関するアンケート集計結果」より抜粋)

設問：カリキュラム全体の構成はいかがでしたか？

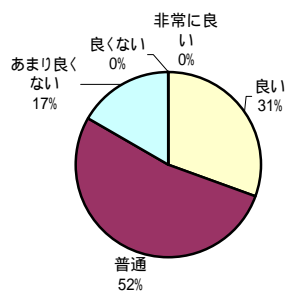
1年生



平成19年度	回答者数
非常に良い	1
良い	15
普通	34
あまり良くない	5
良くない	0
合計	55

(回収率92%)

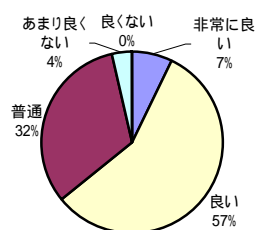
2年生



平成19年度	回答者数
非常に良い	0
良い	11
普通	19
あまり良くない	6
良くない	0
合計	36

(回収率59%)

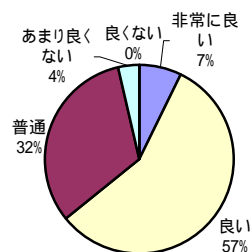
3年生



平成19年度	回答者数
非常に良い	2
良い	16
普通	9
あまり良くない	1
良くない	0
合計	28

(回収率44%)

4年生



平成19年度	回答者数
非常に良い	2
良い	20
普通	25
あまり良くない	4
良くない	0
合計	51

(回収率76%)

(資料「平成19年度看護学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

観点2 - 2 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

県内大学との単位互換制度や双方向遠隔授業システムの活用【資料2-2-1】によって、履修科目の拡大を図っている。

資料2-2-1 県内大学間での単位互換制度と適用状況

福井県内大学間での単位互換制度

「福井県内大学等間単位互換に関する協定についての申合せ」平成16年4月1日施行
(福井大学、福井県立大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井工業高等専門学校
の福井県内6大学等間で協定を締結している。)

福井県内大学間単位互換制度の適用状況

医学部

協定大学等名	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	履修者数	単位修得者数	履修者数	単位修得者数	履修者数	単位修得者数	履修者数	単位修得者数
福井県立大学	15	14	13	13	10	10	3	3
仁愛大学	3	3	2	2	-	-	-	-
仁愛女子短期大学	-	-	5	5	-	-	-	-
敦賀短期大学	-	-	-	-	-	-	-	-
福井工業高等専門学校	-	-	-	-	-	-	-	-

双方向遠隔授業システムの活用による授業実施状況

	授業科目名	発信大学	授業科目名	発信大学	授業科目名	発信大学
平成18年度	法学 (医事法入門)	金沢大学 (共通教育)				
平成19年度	法学 (医事法入門)	金沢大学 (共通教育)	社会学	文京キャンパス (共通教育)		
平成20年度 (予定)	法学 (医事法入門)	金沢大学 (共通教育)	社会学	文京キャンパス (共通教育)	教養特別講義1 (地球環境工学)	文京キャンパス (共通教育)

両学科とも進級および卒業要件となる科目数が多く、さらに医学部キャンパスが遠隔地にあることなどから、単位互換制度適用者は若干少ないのが現状である。他方、平成18年度より双方向遠隔授業システムの運用が開始され、開講時間および内容が適した科目を履修できるように図っている。

(事務局資料)

編入学生の履修を可能とした柔軟な教育課程の編成【資料2-1-1:P17, 資料2-1-2:P18】がなされている。看護学科では学生が将来目指すべき職種(看護師, 保健師, 助産師及び養護教諭2種)を選択できる教育課程が編成されている。

平成16年度現代G P「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」の実施プログラム【資料2-2-2:P28】に基づく「医学英語」教育の導入によって社会からの要請(医療現場で活用できる英語力を持った医療人の育成による医療の国際化)に積極的に対応している。この取組の導入によって医学英語教育に対する学生の評価は向上した【資料2-2-3:P29~30】。

資料 2-2-2 「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」(平成 16 年度現代 G P 採択)の概要

社会的要請の強い政策課題に対応した特に優れた教育プロジェクト(取組)として、平成 16 年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代 G P)」に採択され

平成 16 年度現代 G P 採択理由 抜粋

医療領域において必要な英語を意識した上でのプログラムであり、テュートリアルやシミュレーション発表等、受信だけでなく英語で発信することもよく考えられており、病院勤務経験のある外国人教員による医療現場会話演習など応用医学英語の専門性の高いレベルで導くものと考えられます。また専門職に特化した英語教育であるので学生のモチベーションを高める点においても高く評価できる。

テーマ 仕事で英語が使える日本人の育成

取組 医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育

本プログラムの目標と基本構成

1. 医師・看護師が医療現場で必要とする英語能力を身につけさせる。
2. なぜ医学英語が必要かを理解させる。
3. 英語を使える喜びを実感させる。

具体的な取組内容



外国人模擬患者による英語による医療面接実習風景



海外のスペシャリストによる特別講演会風景

医学英語 G P 広報活動の一例



ECLNC(医学英語演習室)パンフレット
医学英語 G P ホームページの作成

資料 2-2-3 医学英語教育に対する学生の高い評価；学生による評価結果

医学科新教育課程における英語科目のうち、1年次配当科目は旧課程の内容をほぼ踏襲している。一方、新教育課程は、2～4年次に英語科目を6科目（必修4科目・選択2科目）開講しており、2年次に3科目（選択3科目）のみを開講していた旧教育課程を大幅に充実させたものとなっている。ここでは、新旧教育課程において対応する英語科目に対する学生評価を比較した。（旧課程の評価は最終年度である平成15年度のものを使用）

必修科目

【カリキュラム変遷】

旧教育課程相当科目		新教育課程科目	
英語7（医学科2年）	選択	医学英語1（医学科2年）	必修
英語8（医学科2年）	選択	医学英語2（医学科2年）	必修
		医学英語3（医学科3年）	必修
		医学英語4（医学科3年）	必修

設問1：講義内容は適切でしたか

設問2：教員の授業に対する熱意や工夫は感じられましたか

設問3：教員の説明は明瞭で分かりやすかったですか

設問4：教材（教科書、プリント、板書、視聴覚機器等）は適切でしたか

各科目に対する学生の授業評価結果

	科目名	設問1	設問2	設問3	設問4
旧課程	英語7	3.53	3.68	3.45	3.39
	英語8	3.2	3.8	2.6	3.4
	旧課程 平均	3.37	3.74	3.03	3.4
新課程	医学英語1	3.74	3.84	3.8	3.64
	医学英語2	3.89	4.01	3.77	3.81
	医学英語3	3.69	3.81	3.75	3.64
	医学英語4	4.12	4.25	4.05	4.03
	新課程 平均	3.86	3.98	3.85	3.78

（注）それぞれの設問に対する学生による評点の平均として評価結果を表した。

選択科目

【カリキュラム変遷】

旧教育課程相当科目		新教育課程科目	
英語 6 (医学科 2 年)	選択	医学英語 5 (医学科 4 年)	選択
(新設科目)		実用医学英語 (医学科 4 年)	選択

設問 1 : 講義内容は適切でしたか

設問 2 : 教員の授業に対する熱意や工夫は感じられましたか

設問 3 : 教員の説明は明瞭で分かりやすかったですか

設問 4 : 教材 (教科書, プリント, 板書, 視聴覚機器等) は適切でしたか

各科目に対する学生の授業評価結果

	科目名	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4
旧課程	英語 6	4.6	4.7	4.6	4.1
新課程	医学英語 5	4.69	4.62	4.76	4.54
	医学英語 6	4.72	4.75	4.69	4.64
	新課程 平均	4.71	4.69	4.73	4.59

(注) それぞれの設問に対する学生による評点の平均として評価結果を表した。

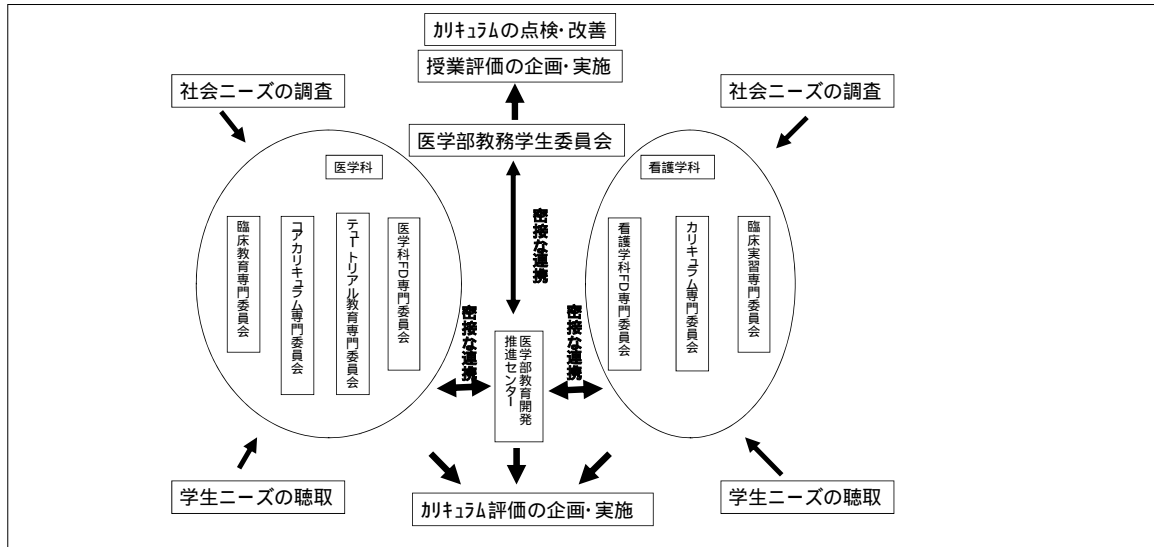
評点基準	きわめて良い (強くそう思う)	5 点
	かなり良い (ある程度そう思う)	4 点
	普通である (どちらとも言えない)	3 点
	あまり良くない (必ずしもそう思わない)	2 点
	まったく良くない (全然そう思わない)	1 点

必修および選択科目に対する学生による評価アンケートのほぼすべての設問において, 新教育課程科目の評価が旧課程科目を一貫して上回っている。評点の高さも合わせ, 「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」プログラムに基づく新規な医学英語教育課程の導入に対する学生の評価は満足すべき水準にあるといえる。学生に涵養された医学英語能力を客観的に評価することは難しいが, これは本学部の医学英語教育は関係者の期待に十分応えていることの証左である。

(資料「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育実施報告書 (平成 16 ~ 19 年度)」より改編)

学生や社会からの要請に柔軟に対応できる体制【資料2-2-4】を整備している。各種評価の実施【資料1-2-3:P9】，や学年代表連絡会(年間8回開催)や「カリキュラムに関する学生との懇談会」(年間1回開催)の定期的実施等により教育課程等に対する学生の要望を随時聴取し積極的に改善を図っている【資料2-2-5】。

資料2-2-4 学生や社会からの要請に柔軟に対応できる体制の整備



(事務局資料)

資料2-2-5 学生の要望に対する改善例

学生からの要望によるカリキュラムの改善例	
(要望)	医学科2年後期の過密スケジュールを緩和してほしい。
(対応策)	医学科教育課程表の改正(医学科2年の過密スケジュールを緩和した。) 「生体と医動物(54時間)」の開講時期を2年後期 3年前期に変更 「生体と微生物(106時間)」の授業時間数を106時間 80時間に変更
(要望)	免疫の授業が少ないので増やしてほしい。
(対応策)	「免疫と生体防御」の授業コマ数を1コマ増やして開講する。 「生命現象の科学」に免疫学関連の2コマを追加した。
(要望)	「入門テュートリアル」での課題数が多すぎる。
(対応策)	「入門テュートリアル」での課題数を3 2課題に減らした。
学生からの要望による施設・設備の改善例	
(要望)	情報処理演習室のパソコンが足りない。
(対応策)	情報処理演習室の拡張工事,パソコンの設置台数を医学科70台 105台,看護学科60台 65台に増設した。
(要望)	医学図書館の利用時間を延長してほしい。
(対応策)	医学図書館を24時間利用できるようにした。
(要望)	医学図書館の利用者が満杯なので試験勉強できる自習室がほしい。
(対応策)	テュートリアル室,演習室(16室)の貸し出し,講義室の時間外解放を行っている。
(要望)	大講義室の空調(冷房・暖房)の温度調整ができない。
(対応策)	合併講義室に空気の循環がよくなる装置を設置し,改善を行った。
など	

(事務局資料)

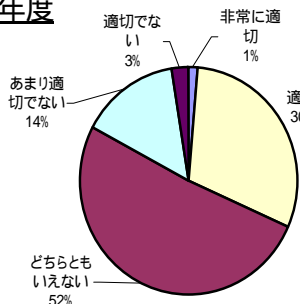
社会から求められている高い倫理観や医療における安全管理能力の涵養，コミュニケーション能力の向上に係る科目を適切に配置している【資料 2-1-1：P17，資料 2-1-2:P18】。これら取組は学生から概ね良好な評価・成果を得ている【資料 2-2-6：P32～33】。

資料 2-2-6 倫理教育等に対する学生の良好な評価；学生からの評価結果

医学科

設問：今後の医療人に必要な倫理観を涵養するため「医の原則」や「医療における安全性への配慮と危機管理」を開講しましたが、開講時期や内容等はいかがでしたか？

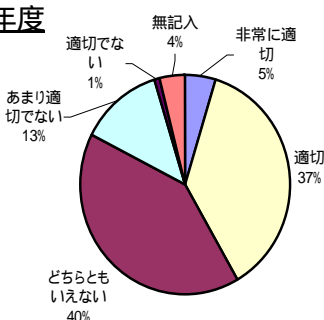
18年度



平成18年度	回答者数
非常に適切	1
適切	23
どちらともいえない	39
あまり適切でない	11
適切でない	2
合計	76

(回収率85.4%)

19年度

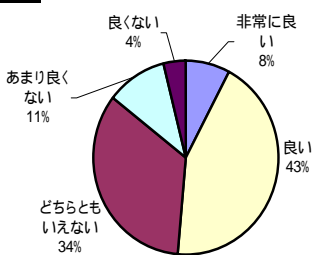


平成19年度	回答者数
非常に適切	5
適切	38
どちらともいえない	42
あまり適切でない	13
適切でない	1
無記入	4
合計	103

(回収率100%)

設問：患者様への十分な配慮をもって臨床実習を適切に履修するため4年次生後期において「基本的診療知識」「基本的診療技能」を旧来のカリキュラムに比べさらに充実させたものとしましたが、その内容等はいかがでしたか？

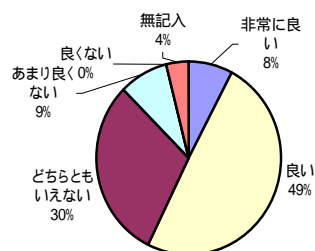
18年度



平成18年度	回答者数
非常に良い	6
良い	33
どちらともいえない	26
あまり良くない	8
良くない	3
合計	76

(回収率85.4%)

19年度



平成19年度	回答者数
非常に良い	8
良い	51
どちらともいえない	31
あまり良くない	9
良くない	0
無記入	4
合計	103

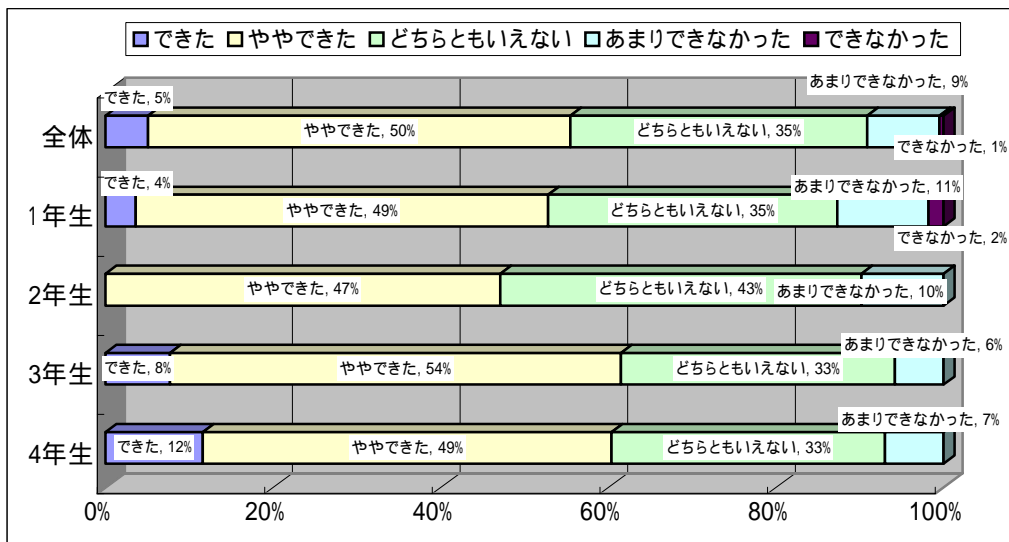
(回収率100%)

医療倫理教育等に対して「適当でない」～「あまり適当でない」と回答した学生も散見されるが、平成20年度に採用される「医療倫理・医療安全学」担当教員を中心として、学生による評価結果等を基に、教育内容・連携等の改善を推進する予定である。

看護学科

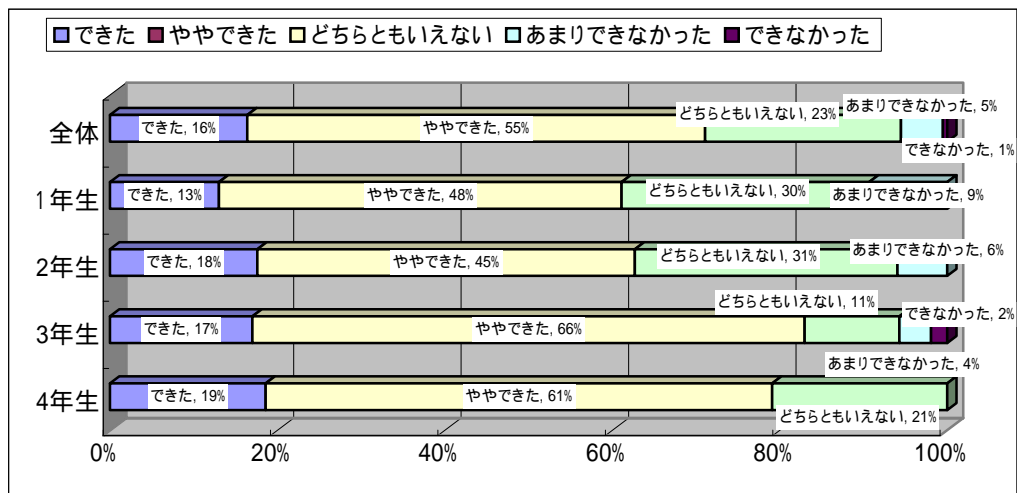
設問：倫理的な問題を考える能力や対人関係の能力を修得できましたか？

倫理的な問題を考える能力



(注) グラフ内数字は回答者数の割合(%)を表す

対人関係の能力



(注) グラフ内数字は回答者数の割合(%)を表す

- (資料「平成18年度医学科4年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)
- (資料「平成19年度医学科4年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)
- (資料「平成17年度 福井大学医学部看護学科カリキュラム検討・評価に関する報告書」より抜粋)

看護学科では、平成19年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に「潜在看護師と就業看護師の相互学習を基盤とした臨床看護実践能力獲得プログラム」が採択され【資料2-2-7：P34～35】、社会ニーズに適切に対応している。

資料2-2-7 潜在看護師と就業看護師の相互学習を基盤とした臨床看護実践能力獲得プログラムの概要

プログラムの概要

このプログラムは、子育て等により就業を中断している看護師（潜在看護師）で職場復帰を検討している方、病院・診療所等に就労中の看護師（就業看護師）で新しい看護の課題の学習やキャリアアップを考えている方の双方を対象としています。

日進月歩の医療現場に必要な最新の看護知識・技術・技能の修得というこれら看護師の共通のニーズに応えるため、看護師養成教育を担当している看護学科教員による最新かつ重要事項の基本的教育内容だけでなく、最先端の医療を展開している大学病院の認定看護師の講義や演習等もプログラムに組み込んでいます。

また、潜在看護師と就業看護師の学び合いによる学習効果も期待されています。

教育内容

学習時間： 毎週水曜・土曜日 [1日3時間×15日、8時間（病院実習）×1日]

受講者定員： 20名

教育内容（主なテーマ）

- A 医療を取り巻く現状と課題
- B 急性期（救急・災害を含む）の看護
- C 慢性期・リハビリテーション看護
- D 医療事故防止と感染予防
- E がん患者の看護
- F 最近の看護課題とケア
- G 看護診断と電子カルテ

福井大学医学部
看護学科 School of Nursing

「潜在看護師と就業看護師の相互学習を基盤とした臨床看護実践能力獲得プログラム」が文部科学省の平成19年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択されました！！

このプログラムは、子育て等により就業を中断している看護師（潜在看護師）で職場復帰を検討している方、病院・診療所等に就労中の看護師（就業看護師）で新しい看護の課題の学習やキャリアアップを考えている方の双方を対象としています。日進月歩の医療現場に必要な最新の看護知識・技術・技能の修得というこれら看護師の共通のニーズに応えるため、看護師養成教育を担当している看護学科教員による最新かつ重要事項の基本的教育内容だけでなく、最先端の医療を展開している大学病院の認定看護師の講義や演習等もプログラムに組み込んでいます。また、潜在看護師と就業看護師の学び合いによる学習効果も期待されています。このプログラム終了者が県内の医療機関の看護人材となるように、常に評価・改善を重ねる最新・最高のプログラムの構築を目指しています。

- プログラム日程等
 - ・ 平成19年度第1クール：平成19年10月17日（水）～12月8日（土）予定
 - ・ 学習時間：毎週水曜・土曜日 [1日3時間×15日、8時間（病院実習）×1日]
 - ・ 受講者募集締切：平成19年10月10日（水）（第1クール分）
 - ・ 受講料：5,000円

（看護学科ホームページより）

○ プログラム実施スケジュール

週	第1クール（定員20名程度）	
	水曜日14:00～17:00	土曜日9:00～12:00
1	10/17 履修ガイダンス A①保健医療及び看護の現状、 ②看護情報処理とICT・ユーザー	10/20 C①脳血管障害患者のケア、 ②リハビリテーション看護の技術演習
2	10/24 E①②がん患者の特徴	10/27 D①感染防止と技術演習、 ②ヒューマンエラーと医療事故防止
3	10/31 E③がんの治療を受ける患者の看護、 F①小児の発達と課題および看護	11/3 E④症状緩和とパリアティブケア、 F②高齢者の特徴と看護ケア
4	11/7 G①②看護診断の基本	11/10 F③④スキンケア
5	11/14 C③糖尿病患者の特徴とケア、 ④慢性期看護の技術演習	11/17 B①救急看護②災害看護
6	11/21 B⑤手術前の看護 術後回復期の看護 と患者教育、 ⑥手術中、術直後の看護	11/24 B⑤⑥周手術期看護・救急看護 の技術演習
7	11/28 F⑤⑥看護における倫理	12/1 G③④電子カルテ
8	12/3～7 附属病院実習（8時間）	
		12/8 まとめ
		↓ 修了認定・履修証明

× 講義・演習の講師は、医学部看護学科教員、医学部附属病院の認定看護師が行います。
 × 平成19年度第2クールは、平成20年1月12日（水）～3月5日（土）（毎週水曜・土曜日）に第1クールと同様の内容で実施する予定です。
 × 各年度ごと2クール実施する予定です。第1クールと第2クールに併せての履修も可能です。（事前にご相談ください。）

「看護師の学び直しプログラム」に関する報道記事

潜在看護師

県看護協会、福井大、地域の病院も…

生涯学習の観点から、福井大学の潜在看護師養成講座は、今年度（平成20年度）より、県看護協会、福井大学、福井県内の病院が連携して実施される。県看護協会が中心となり、福井大学が講師を務め、福井県内の病院で実習を行う。潜在看護師とは、看護士としての経験があり、現在は別の職業に就いているが、看護士としてのスキルを活かして、看護士として働くことを目指している人々を指す。

潜在看護師の養成講座は、今年度より、県看護協会、福井大学、福井県内の病院が連携して実施される。県看護協会が中心となり、福井大学が講師を務め、福井県内の病院で実習を行う。潜在看護師とは、看護士としての経験があり、現在は別の職業に就いているが、看護士としてのスキルを活かして、看護士として働くことを目指している人々を指す。

求職80人に200件超の求人

講習で現場復帰後押し

『発掘』に腐心

「潜在看護師の養成講座」は、今年度より、県看護協会、福井大学、福井県内の病院が連携して実施される。県看護協会が中心となり、福井大学が講師を務め、福井県内の病院で実習を行う。潜在看護師とは、看護士としての経験があり、現在は別の職業に就いているが、看護士としてのスキルを活かして、看護士として働くことを目指している人々を指す。

「潜在看護師の養成講座」は、今年度より、県看護協会、福井大学、福井県内の病院が連携して実施される。県看護協会が中心となり、福井大学が講師を務め、福井県内の病院で実習を行う。潜在看護師とは、看護士としての経験があり、現在は別の職業に就いているが、看護士としてのスキルを活かして、看護士として働くことを目指している人々を指す。



中心診療科の発掘を進行中。水島先生、久しく現場を離れていたドクターが、患者さんのベドを離れたいと強く切望している。福井大附属病院

(福井新聞記事 H20.2.15)

「看護師の学び直しプログラム」紹介記事

今週の気になるトピ

「看護師学び直しプログラム」第1クール終了

県内初の試み 「看護師学び直しプログラム」

看護士として職場復帰したい、もっとキャリアアップしたい、と考える看護士さんを対象に、福井大学医学部で行われた、看護師学び直しプログラム。10月から始まった第1クールのプログラムが、このほど無事に終了し、12月8日プログラムのまとめと修了書の授与が行われました。

ディスカッション
グループに分かれ、今まで約3ヶ月間学んだプログラムに関する感想と、これからのそれぞれの展望を話し合いました。

受講者の声
今回のプログラムについて
○学生の時は受身だったが、今は積極的に参加したことで、講義の内容が素直に受け入れられた。
○看護は日々変化しているため、常に学んでいくことが大切だと実感した。
○家庭に入っていたので、今回受講生の方々と出会えたことが刺激になった。現在就業している人の話が聞けたり、不安な気持ちを語り合えたりしてよかった。

今後のについて
○このプログラムをひとつのきっかけ、ステップにした。
○復職しても肉体的精神的にやっていたける不安があったがこのプログラムで、実習も経験できたことで復職に自信が持てた。
○看護士になりたての気持ちを思い出して、もっと学びたいという意欲が出てきた。

担当講師から
最後にこのプログラムの講師をうめたグループの代表者が、全員の前でレポートを読み上げます。
修了証書授与プログラム中、8割以上、受講された方に、修了証書が授与されます。

発表
グループの代表者が、全員の前でレポートを読み上げます。

修了証書授与
プログラム中、8割以上、受講された方に、修了証書が授与されます。

『看護師学び直しプログラム』はあなたを支援します。

看護師として職場復帰をしたい!!

もっとキャリアアップしたい!!

このプログラムは、最新の看護実践能力を獲得できるものであると共に、就業看護師と同じ教室で学びあうことにより、現在の医療現場の情報を得られることも大きなメリットです。

対象
・子育て等により就業を中断している看護師
・中・小規模病院で就労中の看護師のキャリアアップ

【プログラム実施スケジュール】平成20年1月12日(土)～3月8日(土) 予定
【学習時間】毎週 水曜・土曜日 1日3時間×15日、8時間×1日
【受講定員】20名程度 【応募締切】平成20年1月8日(火)
【受講料】5,000円

福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI

【お問い合わせ先】松岡キャンパス総務室企画係
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
TEL 0776-61-3111 FAX 0776-61-8153
E-mail smkikaku@sec.iccc.fukui-u.ac.jp

(福井情報宅配マガジン「ファミリーNo.328(2007.12.19発刊)」掲載記事より)

学年主任・助言教員制度を整備しており【資料 2-2-8】，成績不良学生等への適切な修学・生活指導がなされている。

資料 2-2-8 学年主任・助言教員制度の概要

(1) 福井大学学生指導助言要項

(趣旨)

第1 この要項は、国立大学法人福井大学学生が学生生活をおくる上で、修学及び生活上起こる種々の問題解決のために教員が行う指導助言について必要な事項を定める。

(助言教員等)

第2 指導助言は、各学部学科・課程の指導方針に基づき、学年主任若しくは助言教員又は両者（以下「助言教員等」という。）で行う。

第3 助言教員等は、当該学部等の専任教員が当たるものとする。

(職務)

第4 助言教員等の職務は、次のとおりとする。

(1) 担当する学生と個人又は集団で面談を行い、修学上及び生活上の相談に応じ、指導助言を行う。

(2) 学生の指導助言に当たっては、必要に応じ関係の機関、委員会及び教職員と互いに密接な連絡を行い、最善の方法を導き出すよう努力するものとする。

(3) 本学で定められた提出書類で助言教員の承認印が必要な場合には、学生と面談の上

諾否について指導助言する。

(担当)

第5 各学部においては、全ての学生に対し、当該学科・課程等の教員が分担して助言教員等の任に当たるものとする。

(選定方法等)

第6 教育地域科学部学生は、毎年度始めに、学生が所属する課程（コース）等で予め指定された教員から、助言教員1名を選び学部長に届け出るものとする。

第7 工学部学生には、学生が所属する学科で予め助言教員を指定する。

第8 医学部医学科学生には、各学年に学年主任（主として修学面を担当）1名を指定し、かつ、助言教員（主として生活面を担当）を予め指定する。

第9 医学部看護学科学生には、各学年に学年主任2名を予め指定する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

学年主任の修学・生活指導の一例

平成 18 年度

- ・留年による再履修についての相談（多数回；保護者からの相談も含む）
- ・留年生からの修学・生活相談
- ・試験についての相談
- ・病気休学と在学期間延長についての相談（多数回；保護者同席も含む）

平成 19 年度

- ・休学中の授業料支払いについての相談
- ・留年生からの修学・生活相談（10 回以上）
- ・試験についての相談
- ・学生同士のトラブルについての相談

その他、推薦状の交付、休学願や欠席届などに関する学生との面談・押印（多数回）

（資料「平成 19 年度学生主任としての業務に関する調査」結果より）

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

両学科とも、本邦における中心的な医学・看護学教育内容・指導に準拠した教育課程が整備されており、社会的要請や最近の関連学問の進歩に対応する教育課程の編成として適切である。これら教育課程は学生からの評価も良好であり、関係者の期待「医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養」に十分応えるものである。看護学科における新教育課程の導入は施行期日に先立ち実施され、社会ニーズへの敏速な対応として特記できる¹⁾。

¹⁾ 資料 2-1-1: 医学教育モデルコアカリキュラムに準拠した医学科教育課程:P17

資料 2-1-2: 看護学教育指導指針に準拠した看護学科教育課程:P18

資料 2-1-5: 学生の教育課程全般に対する高い評価:P22～26

資料 2-2-3: 医学英語教育に対する学生の高い評価:P29～30

資料 2-2-6: 倫理教育等に対する学生の良好な評価:P32～33

現代GPや「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」への応募・採択、編入学生の受け入れ等、積極的に社会からの要請に対応している²⁾。特に、前2者は当該学部の教育の質の向上を図る取組が高く評価されたものとして特記できる。

²⁾ 資料 2-2-2: 「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」(平成16年度現代GP採択)の概要:P28

資料 2-2-7: 潜在看護師と就業看護師の相互学習を基盤とした臨床看護実践能力...:P34～35

学生による教育関連評価の継続的实施や学生の要望等の随時聴取など学生の要請等に柔軟に対応できる体制が整備され、学生からの要請等に留意し随時教育課程の改善等がなされている³⁾。

³⁾ 資料 1-2-3: 定期的な教育課程・内容等に対する評価の実施:P9

資料 2-2-4: 学生や社会からの要請に柔軟に対応できる体制の整備:P31

資料 2-2-5: 学生の要望に対する改善例:P31

以上のように、教育内容の整備・改善が適切になされており、さらに学生や社会からの要請にも十分に対応しており、期待の水準を大きく上回る。

分析項目 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点3 - 1 授業形態の組合せと学習指導方法の工夫

(観点に係る状況)

チューリアル室, ECLNCや情報処理室等の設置・改修により様々な授業形態に対応するインフラを適宜整備している【資料3-1-1: P38~39】。

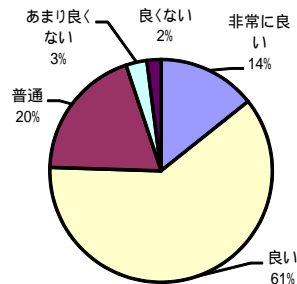
資料3-1-1 教育目的に適したインフラの整備

医学部における教室設備等の整備・活用状況	
教室名	主な活用状況
 <p>(平成17年度整備)</p>	<p>授業科目: 英語1~4、医学英語1~4(医学科) 英語 ~ (看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シミュレーション教育(病室、病棟、検査室、外来、在宅医療などの現場を再現。) 2. 外国人や学生同士での英会話、グループコミュニケーションの練習 3. 英語によるチューリアル教育(英語によるディスカッション、プレゼンテーション) 4. ラーニングセンターとしての活用(図書、DVD、ソフト等を整備) 5. 外国人模擬患者の導入し、英語でのコミュニケーション学習 <p>【主な設備】 無線LANノートパソコン、液晶プロジェクター、大型スクリーン、DVD、医療書籍、医療用ベッド、医学教育シミュレーター、各種医療用具など</p>
 <p>(平成18年度整備)</p>	<p>授業科目: 実用医学英語、基本的診療技能(医学科) 大学院セミナー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人模擬患者(SP)による英語での医療面接(インタビュー) 2. シミュレーション装置を利用した基本的診療技能を修得するための診断学実習 3. OSCE(客観的臨床能力試験)自習室 <p>【主な設備】 液晶プロジェクター、DVDプレーヤー、ストレッチャー、AEDリトリアルトレーニングシステム、採血静注シミュレータ、導尿トレーナー、前立腺触診トレーナー、注射シミュレーター、検眼・耳鏡セット、その他各種医療用具、テーブル付き椅子など</p>
 <p>(平成14~19年度整備)</p>	<p>授業科目: 入門チューリアル、チューリアル1、循環器系・消化器系・神経系チューリアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チューリアル教育(少人数グループ学習) 2. 診断学実習やOSCEの練習 3. 自主学習室(グループ学習など、学生の自主的学習に利用できるよう可能な限り便宜を図っている。) 4. 国家試験準備に係るグループ学習 <p>【主な設備】 コピーボード、ビデオ付きテレビ、デスクトップ型パソコン、レーザープリンター、医学書籍など</p>
 <p>(平成18年度整備)</p>	<p>授業科目: 情報の科学1・2、情報科学ほか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報処理教育 2. 自主学習(課題レポート作成、文献検索など) 3. CBT試験の受験 <p>【主な設備】 (情報処理演習室) デスクトップパソコン 105台、レーザープリンター、液晶プロジェクター、大型スクリーン、教育用ソフトなど (統計情報処理演習室) 学生用デスクトップ型パソコン 65台、レーザープリンター、液晶プロジェクター、大型スクリーン、教育用ソフトなど</p>
 <p>(平成18年度整備)</p>	<p>授業科目: 組織・各臓器の構成、位置関係、原因と病態、病理学実習ほか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハイビジョンマルチモニターリングシステムによる組織・病理教育(双方向対話可能型顕微鏡画像配信・画像データ個人学習システム) <p>【主な設備】 ハイビジョンカラーカメラ、イメージファイリングシステム、液晶ペンタブレットPC、液晶ハイビジョンカラーテレビ、ビデオミキサー、液晶プロジェクター、大型スクリーンなど</p>
 <p>(平成15~18年度整備)</p>	<p>授業科目: 法学(金沢大学)、社会学(文京キャンパス)ほか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 双方向遠隔授業システムを利用したキャンパス間での遠隔授業 <p>【主な設備】 プラズマディスプレイ、液晶プロジェクター、大型スクリーン、出席管理端末、ハードディスクレコーダー、DVDプレーヤー、VHSビデオ、電子黒板、発言者ズームアップカメラなど</p>

教室設備等の整備に関する学生からの評価一例（ECLNCに対する学生の評価）

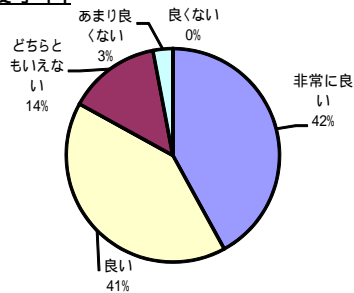
設問：ECLNCの学習環境はいかがですか？

医学科



	回答率 (%)
非常に良い	14
良い	60
普通	19
あまり良くない	3
良くない	2

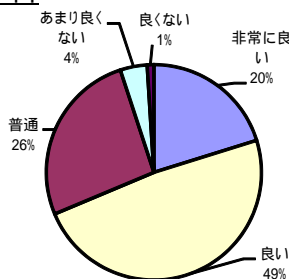
看護学科



	回答率 (%)
非常に良い	42
良い	41
どちらともいえない	14
あまり良くない	3
良くない	0

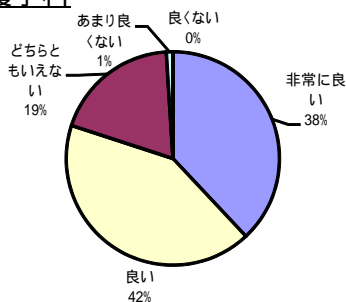
設問：ECLNCの設備はいかがですか？

医学科



	回答率 (%)
非常に良い	20
良い	48
普通	26
あまり良くない	4
良くない	1

看護学科

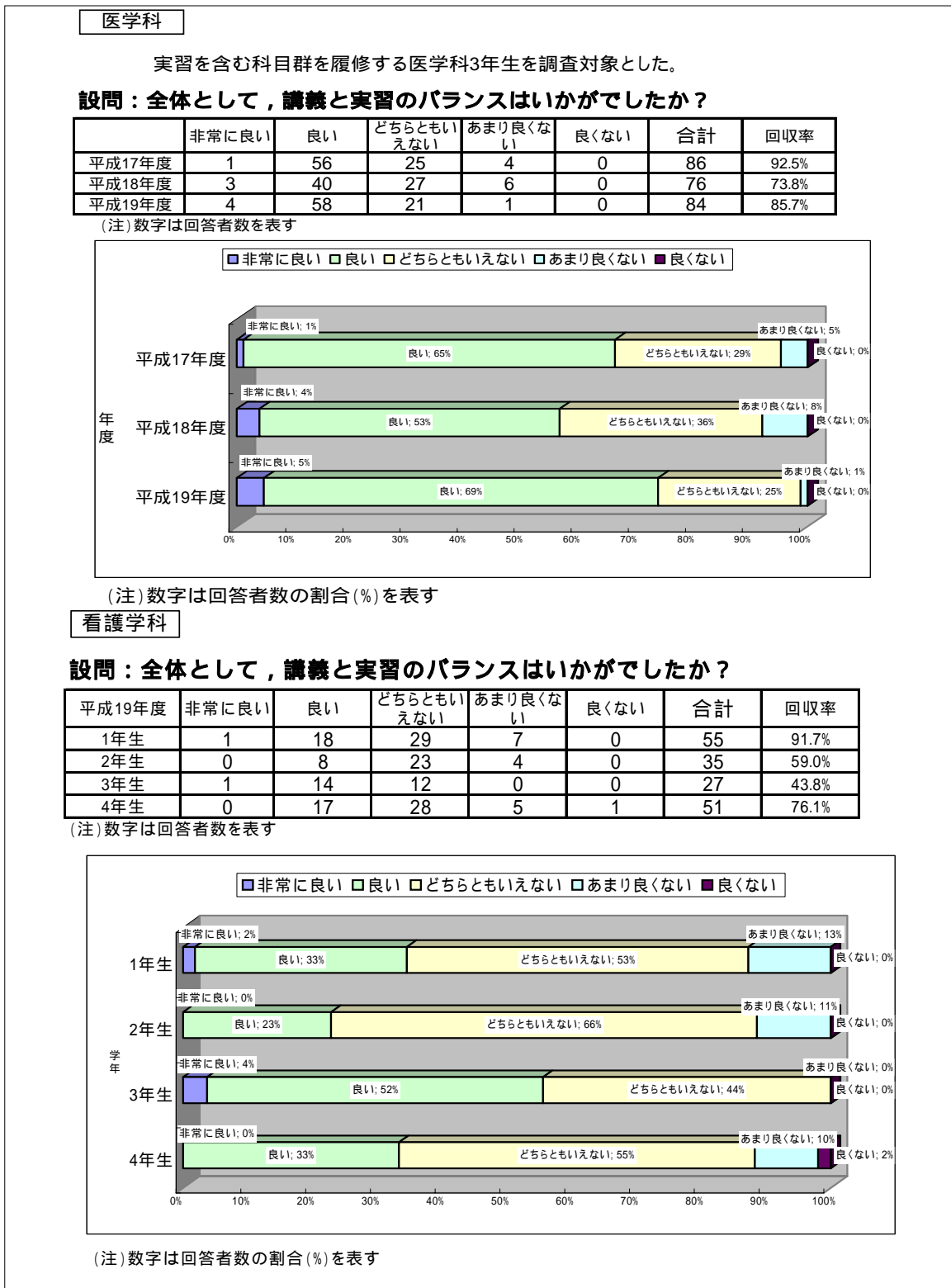


	回答率 (%)
非常に良い	38
良い	42
どちらともいえない	19
あまり良くない	1
良くない	0

(資料「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育実施報告書」より抜粋)

医学知識・技能の効率的な習得・確認のため「実習・実験」等を積極的に導入しており、これら授業形態等の組合せに関する学生の評価は概ね良好である【資料3-1-2】。医学科では臨床前教育課程において科目内容に最も相応しい研究・診療活動を実施している教員が領域の枠を超えて横断的に担当する「統合型」講義方式が導入され、学生から高く評価されている【資料3-1-3：P41】。

資料3-1-2 授業形態等の組合せに対する学生の評価；学生による評価結果



(資料「平成17年度～平成19年度医学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

(資料「平成19年度看護学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

学生の課題探求・解決能力形成のため、医学科では「チュートリアル教育」の積極的な導入、看護学科では「自己主導型学習」の展開によって学習指導方法を適切に工夫した【資料 3-1-4：P42～44，資料 3-1-5：P45～46】。これら授業形態は学生及び教員から高く評価されている。

資料 3-1-4 チュートリアル教育の概要；学生及び教員からの高い評価

医学科チュートリアル教育

学習目標

- 1．自分の力で課題を発見し，自己学習およびグループ学習によってそれらを解決する能力を身に付ける
- 2．多くの情報の中から，重要で必要なものを選び出し，理論的にまとめ，自分の考えと共に，分かりやすくプレゼンテーション・コミュニケーションする能力を身に付ける
- 3．修得した医学知識の確認・深化をはかる。

チュートリアル教育課題一覧（平成 19 年度）

対象学年	科目名	課題テーマ	課題担当講座
医学科 1 年	入門チュートリアル	食について	応用言語学
		原子力	生命物質科学
医学科 3 年	チュートリアル	活動電位発生機構	分子生理学
医学科 3 年	循環器系チュートリアル	急性心筋梗塞（下壁梗塞）	内科学 1
	消化器系チュートリアル	大腸疾患	外科学 1, 内科学 2
医学科 4 年	神経系チュートリアル	パーキンソン病	内科学 2, 脳外

実施概要

入門チュートリアル(第 1 学年後期)，チュートリアル（第 3 学年前期）及びチュートリアル（第 3 学年後期～第 4 学年前期；循環器系，消化器系，神経系）の 3 回に分けて行われる。入門チュートリアルはチュートリアル 及び のための準備教育として位置づけられ，チュートリアル教育の進め方・学び方の習得，自学自習の態度・技術の習得，グループ内での討論・発表の能力・技術の習得が主たる目標である。チュートリアル では，基礎医学的な課題が与えられ，さらに，チュートリアル では，将来実際に経験するであろう臨床的な課題が学生に提示される。学生は，この時までには学んだ基礎医学の知識を十分生かして臨床的な課題に取り組む。この過程を通して基礎医学知識の応用展開能力が培われ，臨床医学の学習への強い動機づけがなされることになる。なお，チュートリアルは従来型の講義形式と組み合わせた統合型科目となっている。

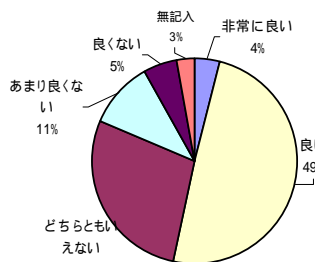
実施方法

- ・構成人数・グループ数： 13 グループ
(各グループ 7 または 8 名)
- ・使用チュートリアル室： 13 室
- ・課題数： 2 課題(入門チュートリアル)，
1 課題(チュートリアル I および)
- ・チューター数：延べ 78 名(13 グループ×6 課題)
- ・評価方法：ポートフォリオ評価，レポート評価，
学習態度等の総合評価



設問：「循環器系」、「消化器系」などでは「チュートリアル」が導入されていましたが、それらの授業を全体的に理解するうえで「チュートリアル」は適切でしたか？

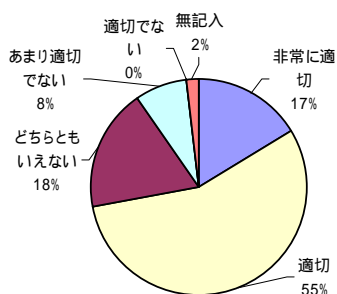
平成18年度



	回答者数
非常に良い	3
良い	37
どちらともいえない	21
あまり良くない	8
良くない	4
無記入	2
合計	75

(回収率84.3%)

平成19年度

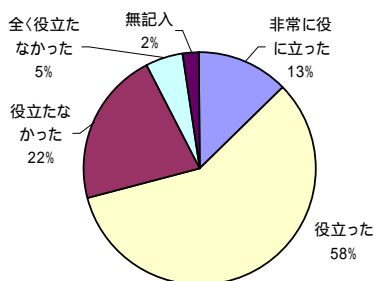


	回答者数
非常に適切	17
適切	57
どちらともいえない	19
あまり適切でない	8
適切でない	0
無記入	2
合計	103

(回収率100%)

設問：これまでに履修してきた入門チュートリアルおよび基礎系課題のチュートリアルは、学習法の観点からみて役立ったと思いますか？

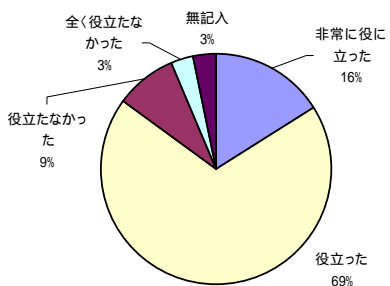
「循環器系」チュートリアル



	回答者数
非常に役に立った	12
役立った	54
役立たなかった	20
全く役立たなかった	5
無記入	2
合計	93

(回収率100%)

「消化器系」チュートリアル



	回答者数
非常に役に立った	15
役立った	64
役立たなかった	8
全く役立たなかった	3
無記入	3
合計	93

(回収率84.3%)

(資料「平成18年度医学科4年カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

(資料「平成19年度医学科4年カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

(資料「平成17年度チュートリアル 循環器系」アンケート(学生用)集計結果」より抜粋)

(資料「平成17年度チュートリアル 消化器系」アンケート(学生用)集計結果」より抜粋)

学生からのコメントの一例

- ・ 非常によかったと思います。討論することに慣れることは貴重な経験だと思います。
- ・ 医師になった気分で、しっかりと学習できとても興味深く、有意義に学習できました。ほんとうによいテュートリアルだったと思います。
- ・ みんなで話しあうことで、いろいろな考えや、自分の考えが浅かったことなどがわかってよかった。教えあうことで身になったと思う。
- ・ 授業と直接関係ある内容だったので勉強していても楽しかったし、やるだけ身につくのでよかったです。1・2年生のとき、特に1年生のテュートリアルは、3年生でのテュートリアルのやり方を学んだと思いました。1年生・2年生のときのテュートリアルはやり方を学べば、良いと思うので、もう少し回数を減らしてもいいと思いました。
- ・ 課題シート2の配る時期がやや早かったように思えましたが、とても勉強になりました。今までの課題と違い、調べる方向が全員同じになったので、グループ学習で知識を深めることができたと思います。
- ・ 7人の班員でそれぞれ学習することでお互いの知識が増えて良いと思います。カリキュラムの面では、時間的余裕がなかったので、テスト日程を見込んで予定を立ててほしいと思います。
- ・ 典型的な例をやることで、取り組みやすかったし、授業の項目として学んだ事項が、一人の患者にまつわるさまざまにつながった事項として学べて、ちょっと違った考え方ができたので良かったです。
- ・ 1,2年のころのテュートリアルは何のためにやっているのかわからないところもあったが、3年になって実際に役立つテュートリアルになってきたように思う。自分の足りていないところがよく認識できてよい。

テューター（テュートリアル担当教員）からのコメントの一例

- ・ 講義に比べて、学習効果が大きく、知識の定着も良いように思う
- ・ 一方向性の講義に比べ、学生の学習への自主性を生み、断片的な知識の記憶のみならず、互いに教え、議論することを通じ、理解度を深める上で、とてもよい教育法と思われた。臨床現場に入ってから通用する医師が育つように思う。
- ・ 学生がとても意欲的に取り組んでいたのが印象的でした。準備もよくできていて、ポートフォリオに書いてある以上の内容の議論が展開できた。
- ・ 様々な臨床的キーワードを勉強していく点で非常に良いと思った。
- ・ 自由な発言の中から学習を進めていける点は、学生の自主性を高めるにはよいと思った。まだ、「個々の発言のしかた」が上手でないと思うので、その点は回数が必要かなと考えた。
- ・ 学生に予習・復習をさせて、それを習慣づけるには良い方法と考える。
- ・ 「自ら問題点を抽出する」方法については、学生は学んだと思われる
- ・ 課題があることで、自主的な学習を促せ、グループ学習することで、個々の学習レベルの向上につながっていると思います。

（資料「平成17年度テュートリアル 学習アンケート（学生用）集計結果」より抜粋）

（資料「平成17年度循環系・消化器系テュートリアルに係るテューターアンケート」から一部抜粋）

主な学習目的

1. 課題に関してグループワーク，資料作成，発表することにより，自己表現力の向上，課題解決能力を身につける。
2. シミュレーション学習により，看護実践の理論と方法を理解する。

看護学科では，以下の科目で自己主導型学習を行っている

1. 専門基礎科目のうち「健康管理論」「環境科学論」「医療福祉論」などで展開している。
2. 専門科目では，ほとんどの科目において，グループワークや学生参加により展開し，実習と連動させている。
3. 4年次には「卒業研究」を通して学生の課題探求・解決能力を涵養している。

学生からの評価

各科目で独自に行っている学生による評価では，「非常に理解できた」「理解できた」がほとんどであり，高い評価を得ている。

学生からのコメントの一例**環境科学論（1年生）**

- ・ 将来役立てられるように調査項目を班のみんなで協力して調べることができ，調査したり話しあったりする過程が重要だと感じた。
- ・ みんなと協力して調べる学習方法は，とてもやりがい感を感じた。
- ・ 一つの課題についてここまで時間をかけて調べ，考えたことは初めてだった。

健康管理論（2年生）

- ・ 他の授業に比べ，自分たちでも調べる時間が多いので頭に入りやすかった。将来現場に出たときも自分で調べて学ぶ姿勢が大切であることがわかった。
- ・ 自分たちで調べてレポートを仕上げ，発表するという授業は，講義を聞くだけの授業に比べると，自分たちが主体となることができるのでよい。
- ・ 1年のときより熱心に取り組むことができた。
- ・ 一方的に知識を与えられるのではなく，自分たちで調べることで知りたいことを知れるし，頭にも入りやすい。
- ・ 昨年度（環境科学論）に比べ，どの班もレポートの内容，調査内容が充実していた。1年間授業を受けてきて成長したことが表れていた。

医療福祉論（3年生）

- ・ 授業時間以外にも発表のため多くの時間をかけてとてもたいへんだったが，自分たちの調べたことについて，とても詳しいところまで理解することができよかった。
- ・ 自ら学習でき深い理解が得られた。

慢性期看護活動論（2年生）

- ・ グループメンバーで考えたり，調べたり，議論したり，とても時間がかかる作業だったが，グループで行うことでやる気も出た。
- ・ グループで一つの項目について話し合い考えて行くと，いろいろな見方ができてよい。

自己主導型学習の事例



慢性期看護活動論 の自己主導型学習の成果発表
(糖尿病の事例に対する運動療法の発表)

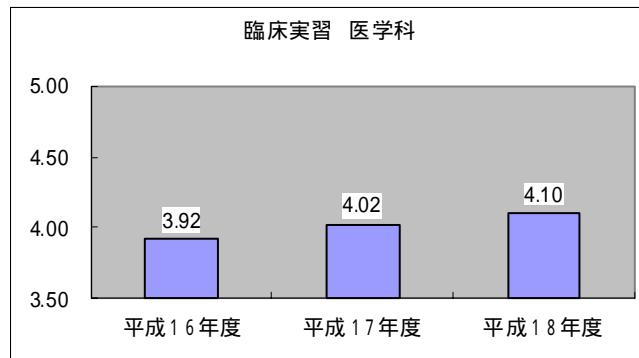


慢性期看護活動論 の自己主導型学習の成果発表
(発表をグループで評価)

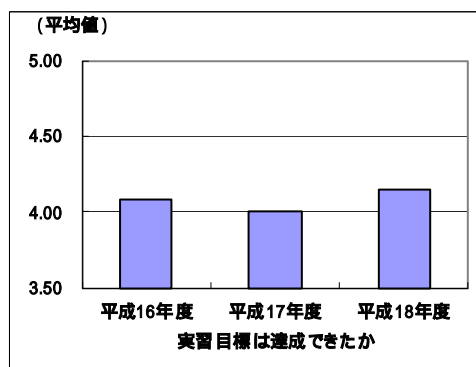
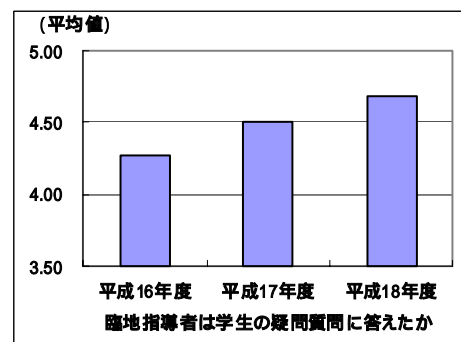
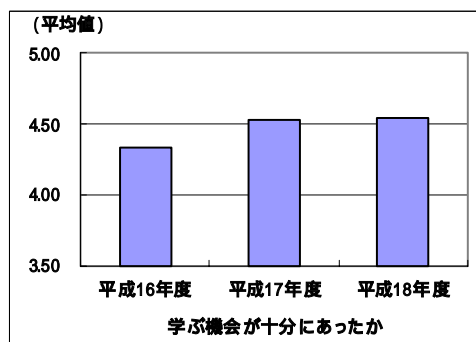
(資料「健康管理論，環境科学論，医療福祉論，慢性期看護活動論 授業評価アンケート集計結果」より
一部抜粋)

両学科の臨床実習科目は学生から高く評価されている【資料3-1-6】。看護学科では「看護基本技術の記録」による自己評価システム【資料3-1-7：P48～49】の導入によって、自己評価に基づき実践的看護能力が修得できるよう工夫されていることは特記できる。医学科では基本的な臨床能力のレベルアップを図るため、臨床実習を見学型から診療参加型へ順次変更している【資料3-1-8：P50】。

資料3-1-6 臨床実習および看護実習に対する学生の高い評価；学生による評価結果



看護学科



- 評点基準
- きわめて良い(強くそう思う) 5点
 - かなり良い(ある程度そう思う) 4点
 - 普通である(どちらとも言えない) 3点
 - あまり良くない(必ずしもそう思わない) 2点
 - まったく良くない(全然そう思わない) 1点

臨床実習科目について、医学科では「かなり良い」と評価されている。一方、看護学科においても看護実習科目に係る目標達成度は「かなり達成できた」と評価されている。さらに、評点の年次推移も増加傾向が認められる。このように、両学科の臨床実習科目は学生の期待に十分に応えている。なお、平成19年度分は集計中のため今回は記載しなかった。

(資料「学生による臨床実習科目に関する評価アンケート結果」より抜粋)

資料 3-1-7 「看護基本技術の記録」システムの概要

【学生への指導】

『看護基本技術の記録』は、学内演習及び看護学実習時における看護基本技術の修得状況や成果を整理するためのファイルです。

学内演習及び地域看護学実習、成人・老人看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習の各実習を通して看護基本技術がどのように積み重ねられているかを知るために技術の修得状況や成果を自分自身で記録します。この看護基本技術の記録は、全領域の看護学実習の期間に使用しますので、大切に保管してください。

尚、この記録は実習評価には関係しませんので、ありのまま記入してください。

【記入方法】

- ・『学内到達水準』は、学内演習(生体・生体モデル)の到達水準である。
- ・『臨地実習の到達水準』は、基礎看護学実習、地域看護学実習、成人・老人看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習の各実習を終了した時点で学生自身が記録する。
- ・看護基本技術一覧表に記載されている各技術項目の臨地実習の到達水準(1:学生は原則として看護師・医師の実施を見学 2:教員・看護師の指導・監督のもとで学生が実施 3:教員・看護師の助言・指導により学生が主体となり実施)のうち、該当する数字を注釈・説明および学習目標を考慮した上で空欄に記録する。
- ・『最終到達水準』は、すべての実習を修了した時点での最高の到達水準を学生自身が記録する。

< 記入例 >

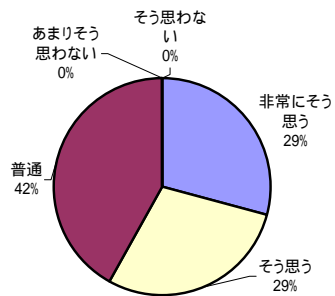
学習項目		学内到達水準	臨地実習での到達水準									
項目	学習を支える知識・技術	学内	基礎	地域	成人	成人	老人	小児	母性		精神	最終到達水準
									母	児		
生活を支える援助	環境調整											
	ベッドメイキング	3	3	1	3	3	1	3	1	2	1	3
	リネン交換	3	3	1	3	2	1	3	1	3	1	3
	自己評価自由記載											

- ・自己評価自由記載欄には、この欄の上記に記載されている項目について、体験したことを通じて感じたことや考えたこと、調べたことなどを自由に記載する。
- ・原則として各領域の実習が終了する時点で実習担当教員に提出する。

「看護基本技術の記録」システムは臨床看護実習を支援する医療機関の現役看護師からのアドバイスを受け、より実践的な実習ができるよう開発されたものである。

「看護基本技術の記録」の高い教育効果；学生による評価結果

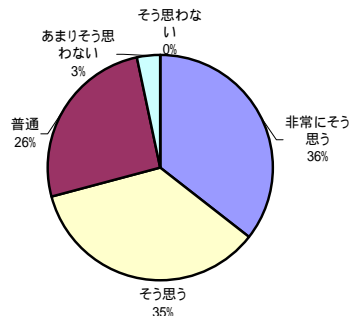
設問：「看護基本技術の記録」を使用することで、4年間で修得すべき看護基本技術の内容について明確にすることができましたか。



	回答者数
非常にそう思う	9
そう思う	9
普通	13
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
合計	31

(回収率53.4%)

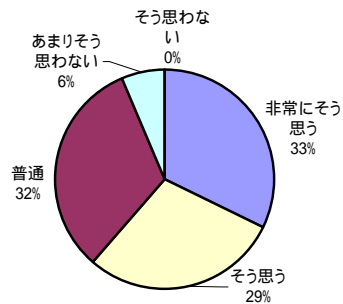
設問：「看護基本技術の記録」を使用することで、自分の看護基本技術の修得状況を整理するのに役立てることができましたか。



	回答者数
非常にそう思う	11
そう思う	11
普通	8
あまりそう思わない	1
そう思わない	0
合計	31

(回収率53.4%)

設問：「看護基本技術の記録」を使用することで、自分の看護基本技術の成果を整理するのに役立てることができましたか。



	回答者数
非常にそう思う	10
そう思う	9
普通	10
あまりそう思わない	2
そう思わない	0
合計	31

(回収率53.4%)

(資料「平成19年度卒業生対象 看護学教育カリキュラム・看護基本技術の記録に関するアンケート集計結果」より抜粋)

資料 3-1-8 診療参加型臨床実習の概要

福井大学医学部クリニカル・クラークシップ実施に伴う基本事項（抜粋）

1 臨床実習の教育目標（実習の手引から抜粋）

臨床実習の一般的な教育目標は、実際の患者に当たって、患者の有する身体的・精神的・社会的問題を適確に把握し、その各々について患者に適切な処置及び指導を与えることができるようになるための基本的な医学知識、技能及び医師として患者に接する態度を身に付けることです。

具体的目標としては、以下にあげる項目が実施できることです。

- (1) 医師としての基本的な態度、コミュニケーション能力
- (2) 病歴の聴取および作成
- (3) 医療診察による身体的・精神的所見の把握及び記載
- (4) 検査計画の作成及び主要検査の実施
- (5) 治療計画の作成及び基本的治療手技

2 本学医学部におけるクリニカル・クラークシップの範囲等

福井大学医学部クリニカルクラークシップにおける医行為の範囲（一部抜粋）

（平成19年12月20日 医学科会議承認）

【指導医の指導・監督のもとに実施が許容されるもの】

項 目	内科系	小児	精神	皮膚	放射	一外	二外	整形	脳外	麻酔	産科	泌尿	眼科	耳鼻	歯科	病理	薬剤
1. 診察																	
・全身の視診、打診、触診																	
・簡単な器具（聴診器、打鍵器、血圧計など）を用いる全身の診察																	
・耳鏡、鼻鏡、検眼器による診察 （学生同士の実習を中心とする）																	
2. 検査																	
生理学的検査																	
・心電図、心音図、心機図																	
・脳波																	
・呼吸機能（肺活量など）																	
・聴力、平衡、味覚、臭覚																	
・視野、視力																	
画像診断																	
・超音波																	
・MRI（介助）																	
放射線学的検査																	
・単純X線撮影（介助）																	
・RI（介助）																	
採血																	
・耳朶・指先など毛細血管、静脈（末梢） （学生同士の実習を中心とする）																	
その他																	
・アレルギー検査（貼付）																	
・発達テスト																	
3. 治療																	
看護的業務																	
・体位交換、おむつ交換、移送 （平成20年度から）																	
処置																	
・皮膚消毒、包帯交換																	
・外用薬貼付・塗布																	
・気道内吸引、ネブライザー （十分な指導後の実習とする）																	
外科的処置																	
・抜糸、止血																	
・手術助手																	
その他																	
・作業療法（介助）																	
4. 救急																	
・バイタルサインチェック																	
5. その他																	
・カルテ記載 （紙カルテにより指導する）																	

【患者さんへの同意の取得方法】

1. 入院患者へは、入院受付時に、別紙同意書の提出を依頼する。
2. 患者の心身に直接影響を及ぼさない、手洗い、ガウンテクニック、採血・採尿済みの検体を検査するなどの場合には、同意を得る必要はない。
3. 入院患者に対し、学生に上記医行為の指導をすることは、口頭で、同意書提出の確認をし、学生が実習する旨および実施する医行為について説明する。
4. 外来患者に対し、学生に上記医行為の指導をすることは、口頭で、学生が実習する旨および実施する医行為について説明し、同意を求める。

* 学生は、予め医療事故等に備えるための保険に加入していなければ、実習に参加することを認めない。

学習目標や評価基準など記載内容等の統一化【資料3-1-9】や冊子体の全学生への配布及びWEB版シラバスの導入による利便性の向上等によってシラバスを活用しやすいものとした。学生によるシラバス活用状況は概ね良好である【資料3-1-10:P52】。また、担当教員のオフィスアワーがシラバスに掲載され、学生への学習指導に利用されている。

資料3-1-9 シラバスの記載例

シラバス記載内容

「循環器系」（医学科3年開講）のシラバス 詳細は、別添資料P105～109を参照。

医学部授業要項（シラバス）



（医学科シラバス冊子）



（看護学科シラバス冊子）

WEB版シラバスシステム概要

検索画面の一例

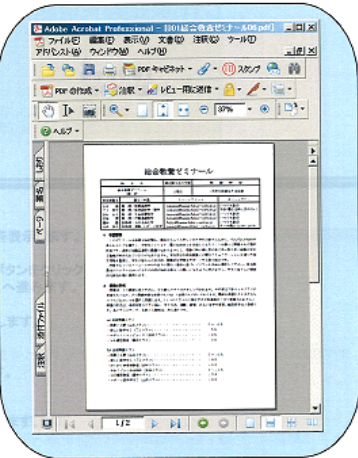


【検索条件】
学部: 医学部 年度: 2006
開講時期: 前期

108件ヒットしました。

No.	学科	開講時期	授業科目名	代表教員名	詳細
1	医学科	1年 前期	総合教養ゼミナール	山本 達	詳細
2	医学科	1年 前期	生命倫理学入門	安部 博	詳細
⋮					

- 1、検索結果の一覧を表示します。
検索結果は学科ごとに区切り、以下の順番でソート一覧表示します。
学科、科目分類、学年、開講時期
- 2、表示内容
学科、学年、開講時期、授業科目名、代表教員名
- 2、検索条件、ヒット件数を表示します。
ヒット件数が多い場合は、50件ずつ表示します。
- 3、「詳細」ボタンをクリックします。
登録されたPDFが別ウィンドウで表示されます。



（事務局資料）

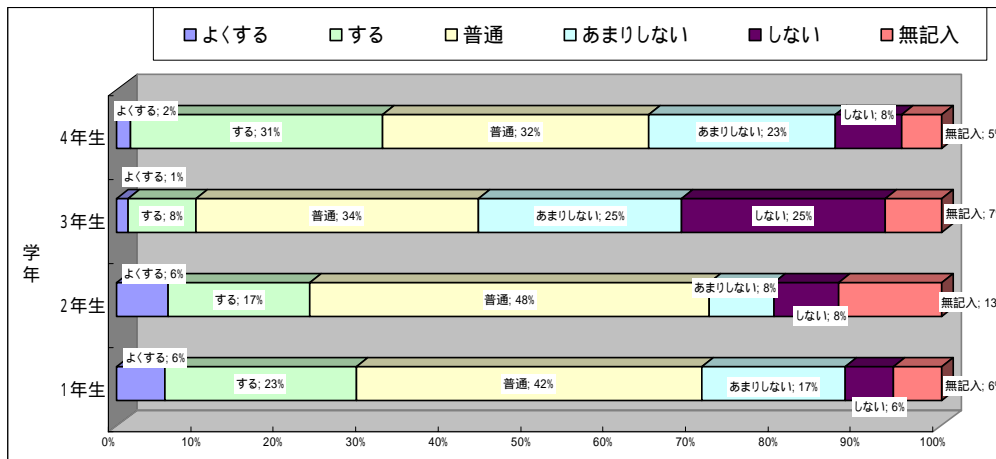
資料 3-1-10 学生によるシラバスの良好な活用；シラバスの活用調査結果

設問：授業を受ける際に，シラバスをよく参考にしますか，よく利用しますか？

医学科

	よくする	する	普通	あまりしない	しない	無記入	合計	回収率
1年生	5	20	36	15	5	5	86	86.0%
2年生	4	11	31	5	5	8	64	60.4%
3年生	1	6	25	18	18	5	73	74.5%
4年生	1	19	20	14	5	3	62	59.0%

(注) 数字は回答者数を表す

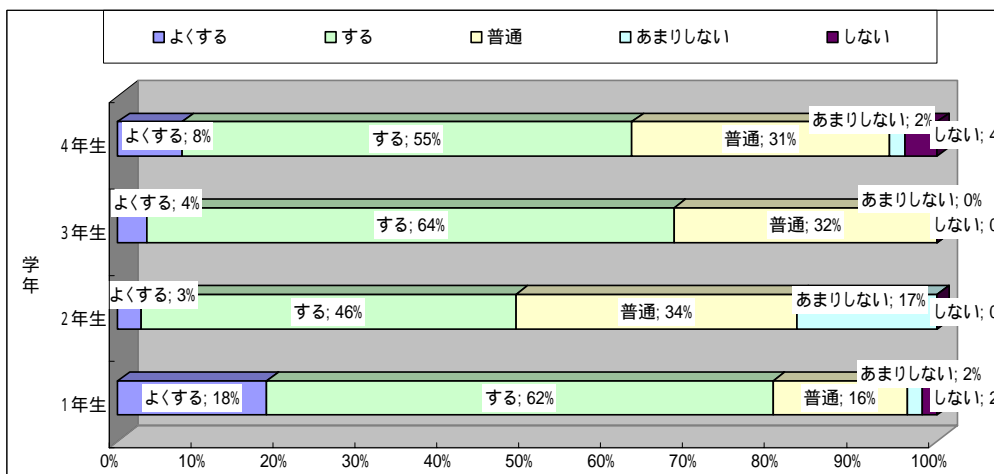


(注) 数字は回答者数の割合 (%) を表す

看護学科

	よくする	する	普通	あまりしない	しない	合計	回収率
1年生	10	34	9	1	1	55	91.7%
2年生	1	16	12	6	0	35	59.0%
3年生	1	18	9	0	0	28	43.8%
4年生	4	28	16	1	2	51	76.1%

(注) 数字は回答者数を表す



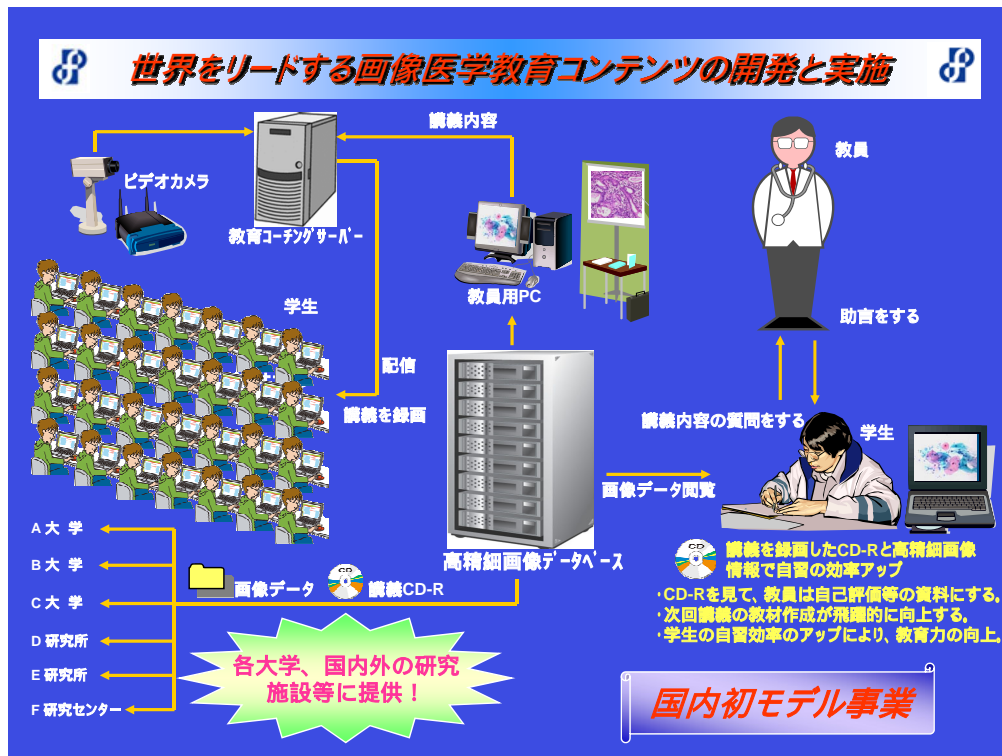
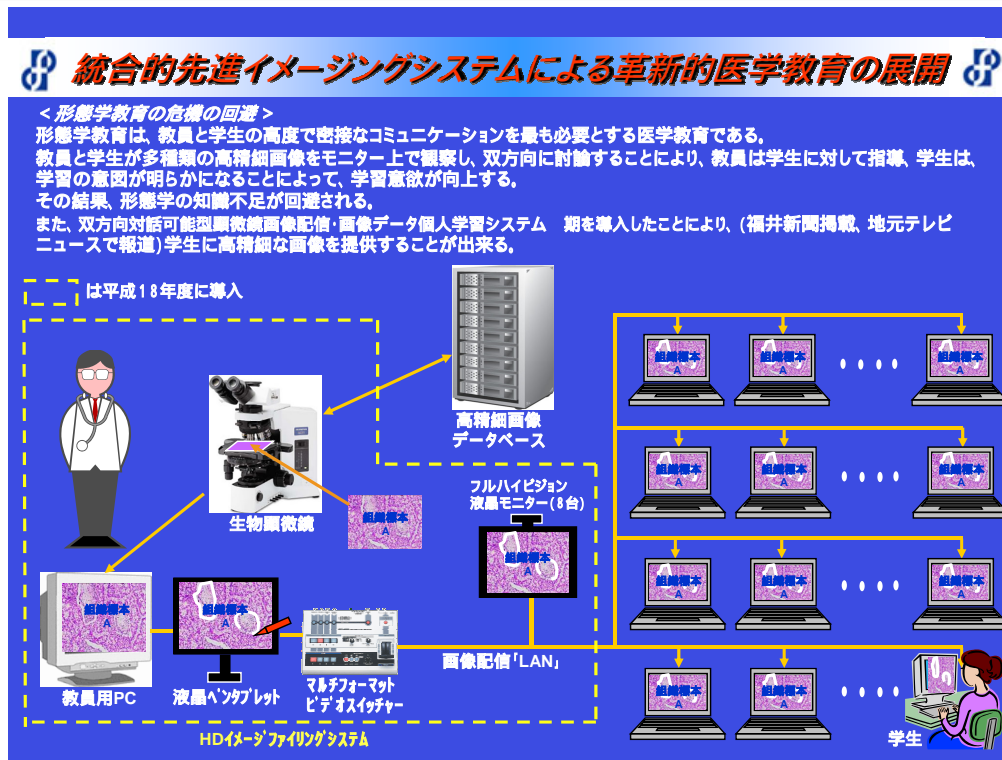
(注) 数字は回答者数の割合 (%) を表す

(資料「平成 19 年度シラバスに関するアンケート (医学科 1~4 年生)」集計結果より抜粋)

(資料「平成 19 年度看護学科カリキュラム評価アンケート (看護学科 1~4 年生)」集計結果より抜粋)

現行の画像医学教育カリキュラムを基盤とした「統合的先進イメージングシステムによる革新的医学教育の展開」プログラム【資料 3-1-11】は、平成 20 年度概算要求事業として予算化された。本取組は本邦初のモデル事業であり、革新的な画像医学教育として特筆される。

資料 3-1-11 「統合的先進イメージングシステムによる革新的医学教育の展開」プログラムの概要



(事務局資料)

教員は教育方法・内容等を適宜工夫するなど、教育力の向上に努めている【資料3-1-12】。

資料3-1-12 教員による教育方法・内容等の工夫例

- ・ 実際の臨床例のスライド等を使用して、視覚的に興味を持てるように配慮している。質問等があり反響があると考えている。
- ・ スタッフ、実験器具が許す限り、少人数による実習を行っている。このため、キメ細かい指導ができる。授業評価より、このような工夫は高く評価されている。
- ・ 1年後期なので、少し医学専門的な内容にして、脳と心の問題を説明しています。一般教養の科目に対して飽きや疑問を持つ時期なので医学的な内容を入れるように工夫しています。学生の授業感想文によると「医学生になったという気になり、わくわくします」など好評です。
- ・ 講義中、簡単な事項について学生に質問するよう努めている。学生からは質問された方がわかりやすい、理解しやすいという意見を聞く。質問されることで、講義を聞かなければならない、居眠りできないという効果がある。
- ・ いいことか悪いことかわかりませんが、(わざと)注意しているのは以下の通りです。1)板書をする。(スライドではノートをとれないことが多い。話のスピードとノートの記述をシンクロさせたいので板書にしている。学生からは概ね好評かと思いますが・・・) 2)ゆっくりしゃべる。(3)と関連しますが、いつも早口だといわれるので注意しています。但し、内容がおわらないので、最後はどうしても早口になってしまいます。3)重要なことは、いやになるほどくり返す 4)なるべく基礎の基礎から講義をはじめ。薬理の講義をしていても「生理がよくわかりました」といわれます。ちょっと複雑な気分です。5)有意義な実習をするように注意する
- ・ 授業内容を時間の始めに概説する。授業内容項目、図、表、スライド(パワーポイントの文章、図表を含む)を印刷して配布する。教科書で分かりにくい概念や、重要なポイントとなる事項を強調し、具体例と共に繰り返し話す。カラーの図、表、写真を用いる。(主にパワーポイント等に組み込んで説明に用いる。) 授業の途中で質問時間を適宜設ける。または、紙に回答を書かせる
- ・ プレゼンテーションのアニメーション 見やすく分かりやすいとのこと。配布プリントのカラー化見やすく分かりやすいとのこと。
- ・ 黒板に書く内容をあらかじめまとめておく。ノートをとるのを板書に頼っている学生は多く、ある程度整理された板書は好評であるように思う。
- ・ これらの教科は教科書が分厚くなってしまうので、要点をまとめたサブテキストを配布している。アンケートによる反響はなかなか。
- ・ 学生および学生の親世代を対象とする人の特徴の理解を深めるために、自分の生活、親の生活についてレポートを求め、内容分析の手法で結果を提示し、Textのみではなく、身近なデータ、自分自身のこととして学ばせている。親へは、インタビューをしてレポート作成していることで、会話がなかった親の生活を知る機会となり、良かったという反響がある。さらに、できるだけリアリティをもって事例を提供しながら講義し、「おもしろい」「興味が持てた」と授業評価にも書かれていた。

(資料「平成19年度授業改善(学部教育)に係る教育アンケート集計結果」より一部抜粋)

観点3 - 2 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

医学科及び看護学科開講科目のほとんどが必修科目であり、履修科目数は自ずと定まっている。なお、医学科では学生が修得すべき基本となる教育内容を精選した「コアカリキュラム」の導入によって、授業時間数は従前の教育課程に比して約5%削減できた【資料3-2-1】。

資料3-2-1 学習時間確保への配慮；医学科新教育課程導入による授業時間数の削減

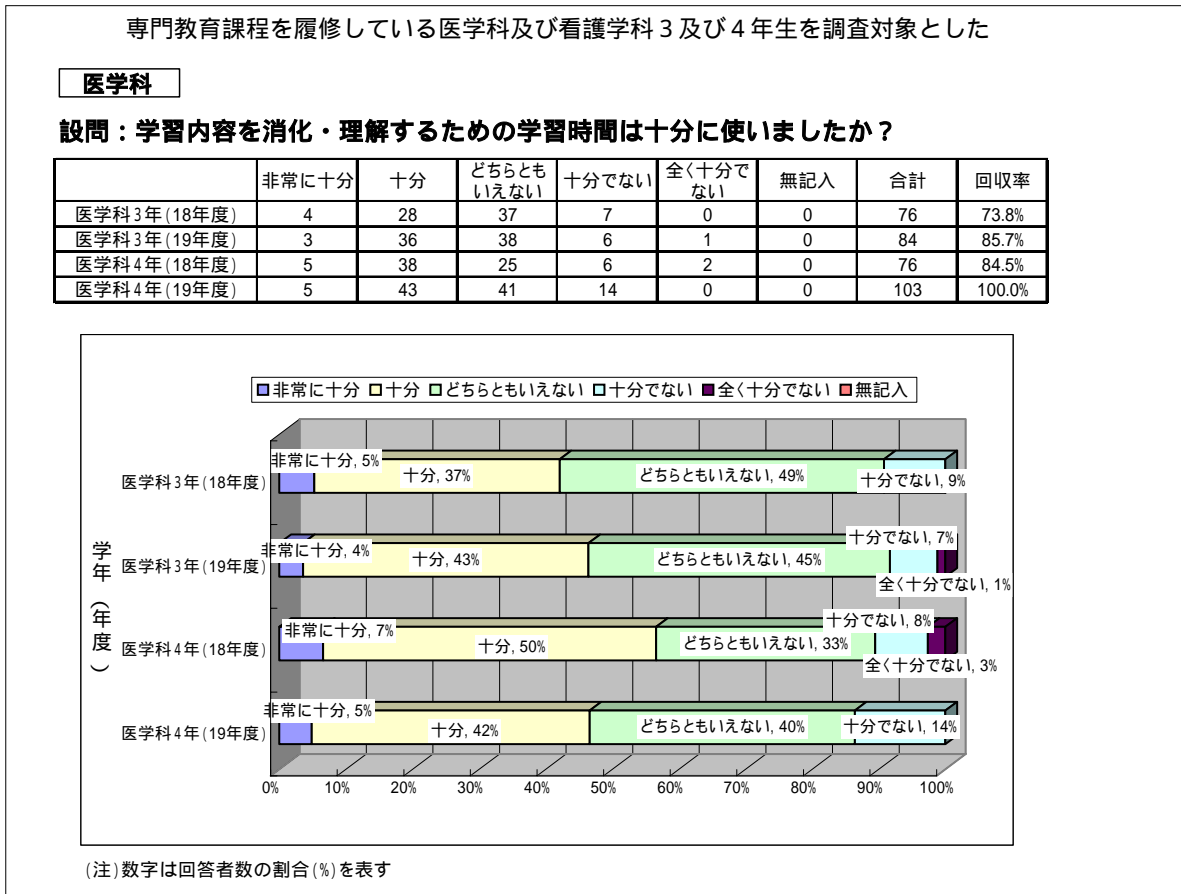
	旧	新
医学準備教育	495	458
基礎医学	1800	1008
社会医学	270	232
臨床医学	2500 (臨床実習を含む)	1436 +1680(臨床研修)
計	5065	4814

(事務局資料)

学習のための時間を十分取れていない学生は少なく、学生の学習時間は適切に確保されている【資料3-2-2：P55～56】。

さらに、学生が授業時間外の学習を行うよう、教員は様々に指導している。【資料3-2-3：P56～57】。

資料3-2-2 十分な学習時間の確保；学生に対するアンケート調査結果



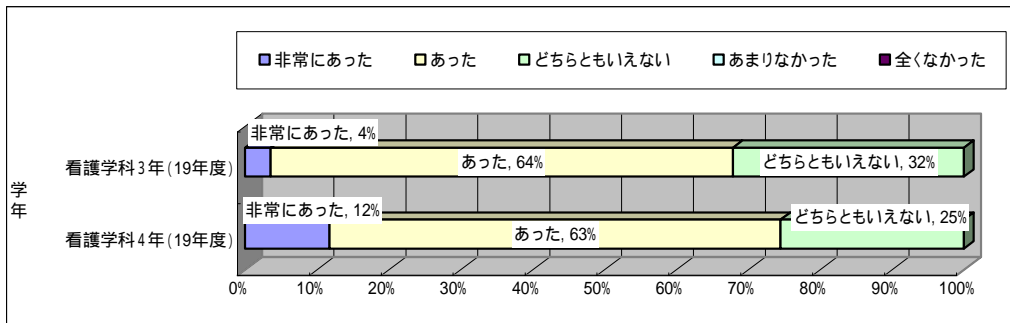
(資料「平成18～19年度医学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

看護学科

設問：学習内容を消化・理解するための学習時間は十分にありましたか？

	非常にあった	あった	どちらともいえない	あまりなかった	全くなかった	合計	回収率
看護学科3年(19年度)	1	18	9	0	0	28	43.8%
看護学科4年(19年度)	6	32	13	0	0	51	76.1%

(注)数字は回答者数を表す



(注)数字は回答者数の割合(%)を表す

(資料「平成19年度看護学科カリキュラム評価アンケート(3～4年生)集計結果」より抜粋)

資料3-2-3 授業時間外学習を促す学習指導

「授業時間外の学習」の奨励に係る取組み

学科	科目数	レポート		ミニテスト		中間テスト		授業外の学習指示		その他	
		科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
医学科	110	48	43.6%	26	23.6%	18	16.4%	75	68.2%	30	27.3%
看護学科	58	40	69.0%	15	25.9%	5	8.6%	48	82.8%	11	19.0%

(注)科目数は回答のあった科目の総数である。割合はその科目数に対する%で示す。

取組の実例(アンケートより一部抜粋)

- ・随時口頭試問し知識不足な点を自覚させている。
- ・その他として、現代では講義や参考書以外に、新聞やネット記事を含む社会の様々な資料も有用参考になることを指摘しています。
- ・文献(英文)の抄読会(各自に一編ずつ担当させています)
- ・講義用プリントに採用した図や表については、すべての出典を一覧として配布し、授業時間外の学習に便宜をはかっている。
- ・ライティングの講義ですので、Kuzuryu Memoirの作成にむけて個人的に添削指導を行うので、書いたものを持参してくださいといった指導を行っています。
- ・読解用の教材に関する英語による質問を配布し、それに英語で解答したものを毎週提出させる。
- ・ガイダンスの際、学生に予習、復習の必要性を強く指導している。さらに、各担当教員はあらかじめ講義資料を授業予定とともに学生に配布し、予習を促している。
- ・授業終了時に学習すべき課題を提示するなど、復習・自主学習を促している。
- ・5～6人を1グループとして、科目に関連し、自分達で興味のあるテーマ(健康問題)を決め、発表(プレゼン)は講義時間の中で実施するが、そのためのデータ収集、学習は時間外の有効活用を説明している。

- ・復習としてシミュレーターや診察器具による実技練習を奨励し，ERの診察室や器具を貸している。
- ・課題について調べさせ，発表させている。

教員はそれぞれの担当授業科目において，授業時間外の学習の奨励に係る様々な取組を実施している。多くの科目で「授業時間外の学習」や「レポート作成」の指示等がなされており，これは「単位の実質化」に対して適切に対応している証左といえる。

（資料「平成19年度教育の工夫に関するアンケート集計結果」より抜粋）

「チュートリアル教育」（医学科）や「自己主導型学習」（看護学科）【資料3-1-4：P42～44，資料3-1-5：P45～46】によって学生の主体的学習態度を涵養している。「チュートリアル教育」導入後，「課題探求・解決型」能力を獲得したと回答した医学科学生数は増加しており【資料3-2-4：P58～59】，その成果が検証された。

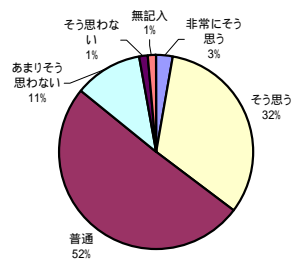
資料 3-2-4 課題探求・解決能力の涵養状況；学生に対するアンケート調査結果

医学科

テュートリアル教育導入前

設問：問題を見つけ、それを自ら解決する能力を修得できましたか？

19年度・6年次生(旧カリ)



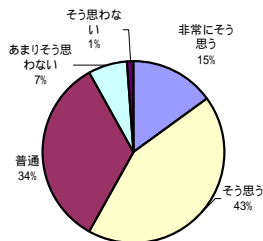
	回答者数
非常にそう思う	2
そう思う	23
普通	36
あまりそう思わない	8
そう思わない	1
無記入	1
合計	71

(回収率67.6%)

テュートリアル教育導入後

設問：これらテュートリアル教育によって「課題を見出し、さらにそれを解決する」力を養うことが出来たと思いますか？

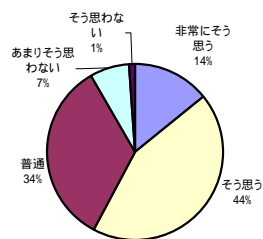
18年度・4年次生



	回答者数
非常にそう思う	13
そう思う	37
普通	29
あまりそう思わない	6
そう思わない	1
合計	86

(回収率82.7%)

19年度・4年次生



	回答者数
非常にそう思う	12
そう思う	37
普通	29
あまりそう思わない	6
そう思わない	1
合計	85

(回収率81.7%)

テュートリアル教育導入前後の学生に対するアンケート結果では、導入に伴い「課題探求・解決型」能力の修得について「修得できた」と回答した学生は 35%から 58%に増加している。また、過半の学生はテュートリアル教育が適切であると回答している。なお、テュートリアル教育科目をすべて履修した4年生を調査対象とした。さらに主体的学習態度を涵養する教育方法として、テュートリアル教育は教員からも評価されている【資料 3-1-4：テュートリアル教育の概要 P42～44）。

(資料「医学教育カリキュラムに関するアンケート(6年生)集計結果」より抜粋)

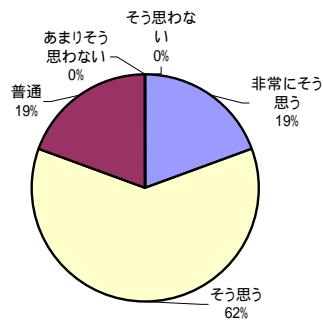
(資料「平成18年度医学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

(資料「平成19年度医学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

看護学科

設問：本学のカリキュラム全般を履修して以下の事項を修得することができたかについてお聞きします。それぞれの事項をおおよそ身に付けることができたとお考えですか？

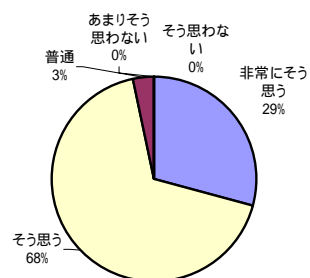
理論的な知識と論理的な思考



	回答者数
非常にそう思う	6
そう思う	19
普通	6
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
合計	31

(回収率53.4%)

問題を見つけ、それを自ら解決する能力



	回答者数
非常にそう思う	9
そう思う	21
普通	1
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
合計	31

(回収率53.4%)

旧教育課程履修者において「問題探求・解決」能力が修得できたと回答した卒業生が過半数である。さらに、平成 20 年度からの新教育課程では、看護学入門をはじめ、初年次教育を充実させ、自ら学ぶ姿勢や能力の育成を図る。

(資料「平成 19 年度卒業生対象 看護学教育カリキュラム・看護基本技術の記録に関するアンケート集計結果」より抜粋)

医学科における選択専門科目である「アドバンスコース」の履修状況や学生からの評価は良好である【資料 2-1-3：P19，資料 3-2-5：P60～61】。看護学科では，過半の学生は卒業要件単位数以上の選択科目を履修しており【資料 3-2-6：P62】，学生の学習に対するモチベーションの高さが反映されている。これらは選択科目を積極的に履修するよう組織的修学指導の成果といえる。

資料 3-2-5 アドバンスコースの履修状況と学生からの良い評価

開講学年	アドバンスコース タイトル名	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
		履修者数	単位数 得者数	不合格 者数	履修者数	単位数 得者数	不合格 者数	履修者数	単位数 得者数	不合格 者数
医学科3年	ホルモンの情報伝達と生殖内分泌	88	88	0	94	92	2	63	57	6
医学科3年	分子細胞情報学	85	85	0	93	93	0	71	64	7
医学科3年	感染症の最前線	88	88	0	96	96	0	開講なし		
医学科3年	分子免疫学	10	4	6	5	1	4	4	2	2
医学科3年	医科学特論	87	87	0	93	92	1	76	66	10
医学科3年	神経科学	84	83	1	90	77	13	開講なし		
医学科3年	先端医学生物工学実習コース	9	9	0	8	8	0	7	7	0
医学科4年	整形外科・リハビリテーション・救急外傷外科	学年進行のため開講なし			81	78	3	87	84	3
医学科4年	熱帯医学（旅行者医学，新興感染症含む）	学年進行のため開講なし			64	57	7	97	95	2
医学科4年	神経疾患の診断と治療	学年進行のため開講なし			56	30	26	65	28	37
医学科4年	画像診断 - 基礎から応用へ	学年進行のため開講なし			76	42	34	70	28	42
医学科4年	がん	学年進行のため開講なし			52	28	24	41	12	29

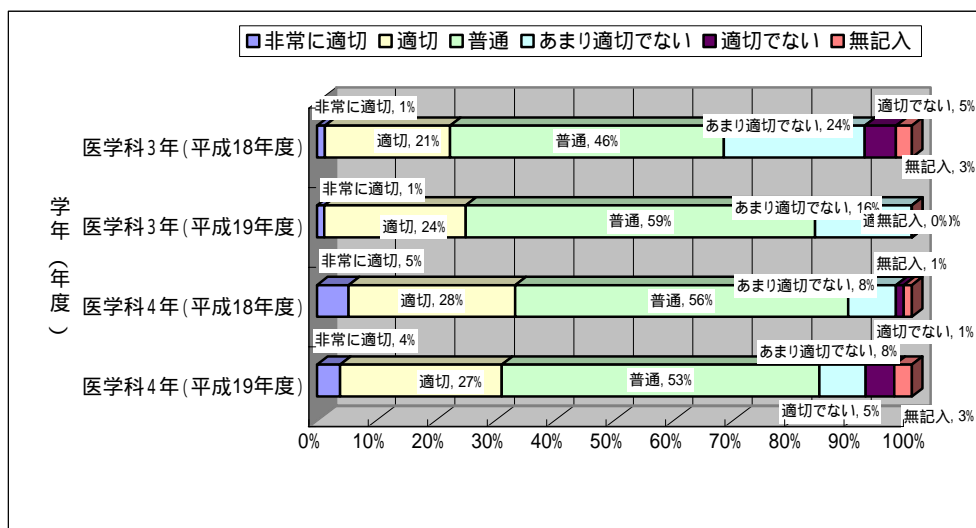
アドバンスコースは、平成17年度より開講。

学生からの評価

設問：アドバンスコースの開講科目数・内容は適切でしたか？

	非常に適切	適切	普通	あまり適切でない	適切でない	無記入	合計	回収率
医学科3年(平成18年度)	1	16	35	18	4	2	76	73.8%
医学科3年(平成19年度)	1	19	47	13	0	0	80	85.7%
医学科4年(平成18年度)	4	21	42	6	1	1	75	84.3%
医学科4年(平成19年度)	4	28	55	8	5	3	103	100.0%

(注) 数字は回答者数を表す

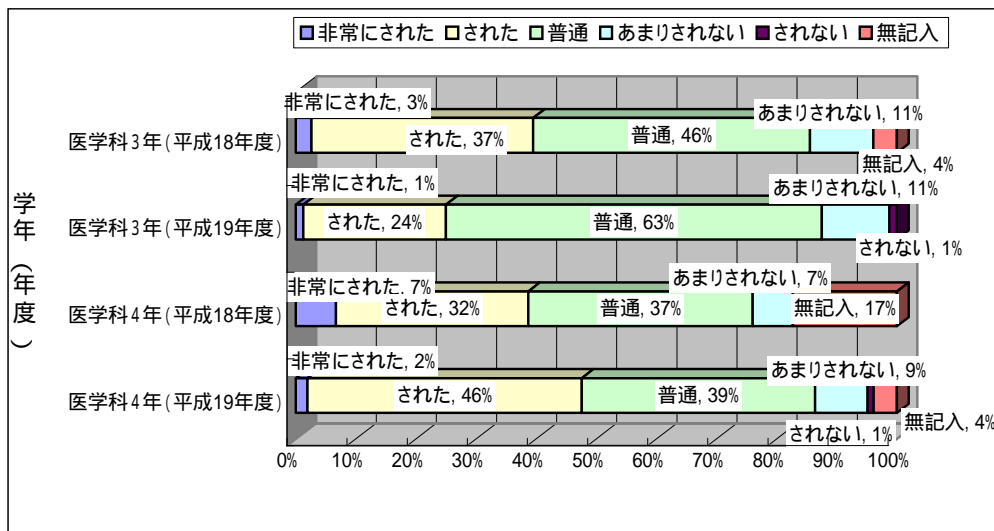


(注) 数字は回答者数の割合 (%) を表す

設問：アドバンストコースを履修して学習意欲，医学や医療に対する意欲が刺激されましたか？

	非常に された	された	普通	あまりさ れない	されな い	無記入	合計	回収率
医学科3年(平成18年度)	2	28	35	8	0	3	76	73.8%
医学科3年(平成19年度)	1	19	50	9	1	0	80	85.7%
医学科4年(平成18年度)	5	24	28	5	0	13	75	84.3%
医学科4年(平成19年度)	2	47	40	9	1	4	103	100.0%

(注)数字は回答者数を表す



(注)数字は回答者数の割合(%)を表す

アドバンストコースに対する学生の評価及びそれによって喚起される医学教育等に対する意欲は3年生に比べ4年生で概ね向上している。さらに、同一調査対象である平成18年3年生と平成19年4年生の結果を比較すると、3年生に比べ4年生で評価および意欲の向上が見られる。このように、アドバンストコースに対する評価は学年進行のみならず、年次推移での向上が見られる。

(資料「平成18～19年度 医学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

資料 3-2-6 看護学科学生の良い選択科目履修状況

卒業要件単位数を超えて履修した学生数一覧

余剰 単位数	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	基礎科目	専門基礎科目	専門科目	基礎科目	専門基礎科目	専門科目	基礎科目	専門基礎科目	専門科目
	卒業要件 4単位	卒業要件 4単位	卒業要件 4単位	卒業要件 4単位	卒業要件 4単位	卒業要件 4単位	卒業要件 4単位	卒業要件 4単位	卒業要件 4単位
0単位	38	23	1	23	16	1	20	6	2
1単位	0	2	1	0	6	1	0	8	5
2単位	19	35	39	17	43	1	22	49	4
3単位	0	4	11	0	1	8	0	6	26
4単位	4		8	18		16	13		14
5単位	0			0		36	0		15
6単位	3			5			10		
7単位				0			0		
8単位				2			4		
9単位				0					
10単位				1					
11単位									
12単位									
13単位									
14単位			4						
15単位						3			3
計	64	64	64	66	66	66	69	69	69

(注) 4年生における余剰単位数(卒業要件単位数を超えて修得した単位数)を調査した。
数字はそれぞれの余剰単位を修得した学生数を表す。

(事務局資料)

初年時における「動機付け」教育によって学生に主体的学習の基盤(医学・医療に対する学習意欲の維持)を構築している【資料 3-2-7 : P62~64】。

資料 3-2-7 実施項目一覧と動機付け学習に対する学生の評価

動機付け教育実施項目一覧

学科・学年	科目名	実施内容	実習時間
医学科1年	コミュニケーションとチーム医療 (外来患者エスコート体験)	外来患者エスコート体験を通じ、患者の立場に立ち、患者の気持ち、目の高さから、医療を受ける側を体験する。	1日
医学科1年	医学入門、医学概論 (病院見学)	病院見学を通じ、臨床現場を体験し、医療現場の現状を理解する。	1日
医学科1年	医学入門、医学概論 (病棟看護体験実習)	看護体験実習を通じ、看護現場を体験し、医療現場の現状を理解する。	3日
看護学科1年	基礎看護学実習 - 1 (病院部門見学実習)	患者を中心とした医療の機能と役割を知り、入院生活を送っている患者の病院環境を理解する。	1日
看護学科1年	基礎看護学実習 - 2 (外来・病棟実習)	外来医療と看護の実際、入院患者の療養生活を支える医療環境について理解する。	3日

早期体験学習による「動機付け」学習を履修した学生からの意見聴取結果を鑑みると、早期体験学習による「動機付け」学習によって学習へのモチベーションが向上・維持されていることが推察できる。

医学科

「病棟看護体験実習」に関する医学科学生からのコメント**感想（実習を終えて、良かったと思うこと。自分にとって不足していると思うこと）**

- ・（小児科を担当して）ずっと付き添っているお母さんの気持ちはとてもつらそうだった。私が医師になった時、そういう人達のケアをどうしたらいいのか今は全然わからない。だから学生の中に医学以外の部分も学んで考えなければならないと思った。（女子）
- ・（自分に）足りないものを挙げるなら、まず医療知識、多くの状況で知識を生かせる経験、13時間労働をこなす体力、13時間もたせられる集中力などになり、根本的に足りないものだらけだ。今後はまず目の前に課される勉強をこなしていき、一方で体力や集中力もつけていかなければいけないなあと思った。（女子）
- ・これから先おそらく経験することができないであろう経験ができたことは、これから先医師としての知識を身につける上でも、また医師として働いていく上でも役に立つと思う。医師と看護師はお互いの仕事の大部分をあまり見ることなしにチームを組んで仕事をしている。学生のうちにこのような経験を通して看護師の仕事を知っておくことで、お互いの能力を十分に生かしたいいいチーム作りをしていくことができると思った。（女子）
- ・将来自分が希望する病院という職場の様子を1年生という早い時期に体験できたのは良いことだと思う。モチベーションが高まったというより将来に対する不安のほうが高まったが、それもある意味で収穫だと思った。（男子）
- ・看護師さんが「先生（医師）は忙しいよ」とおしゃっていたので更なる激務に耐えられる力を身につけていきたい。また、当然のことではあるが医学的知識が全然足りないので看護師の方々の申し送りなども分からなかった。これからしっかり学びたい。（男子）
- ・自分のできることの少なさにとても悔しい思いをした。この悔しさをバネにこれからの勉強をがんばっていきたい。（男子）
- ・患者ではない立場から働く医師の姿を見て、入学当初よりますます医師になりたいという気持ちが強くなりました。（男子）
- ・苦しんでいる人を助け介護するという奉仕の精神が足りないと感じた。学生の中に勉強はもとより、ボランティアなどに参加してこの精神を育てていきたいと思った。（男子）
- ・知識は何もないが、実際の患者さんや仕事を目にすることで自分のモチベーションが上がった。今回学んだことを生かしてこれから勉強していこうと思う。（女子）
- ・医師が患者と直接話せる時間というのは看護師に比べてずっと少ないから、その短時間で信頼関係を築くためのコミュニケーション能力をもっと上げないといけないと感じた。（女子）
- ・医学の知識はもちろんのこと、患者への対応能力が看護師さんや医師に比べはるかに低いことがわかった。しかし、今後医学を学んでいくことで自信を持って対応できるようになると感じた。（男子）

（資料「平成18年度「病棟看護体験実習」自己評価及び感想アンケート集計」より一部抜粋）

看護学科

「基礎看護学実習Ⅰ」に関する看護学科学生からのコメント

(平成 17 年度看護学科 1 年)

- ・ ICU で働く人たちは、常に患者の側にいて、何よりも命を助けることを優先に考えていることがすごく実感できた。
- ・ この見学を通して、看護師としての仕事内容や資格についてなどたくさんのことを学びました。
- ・ 救急部で働く看護師の適正として、的確な判断力と行動力が求められることを学んだ。
- ・ 輸血部では、血液成分の種類によって保存方法や有効期間が異なるということを知って驚いた。
- ・ 私達が看護師を目指すうえで、貴重な体験ができたと思います。

(平成 18 年度看護学科 1 年)

- ・ ICU では他病棟との違いが大きく、治療しやすい環境になっていることがよくわかり、それだけ命の危険と隣り合わせの場所であることがわかりました。
- ・ ICU では患者さんの命第 1 で仕事をしていて、同じ目的を持って協力し合うことが重要だとおもいました。
- ・ 薬剤部では、薬の調合だけでなく安全のための工夫がたくさんされていることがわかった。私も看護師になったら安全を第一に考えたい。

(平成 19 年度看護学科 1 年)

- ・ リハビリテーション部では様々な最新機器を使い、充実したリハビリが行われていた。リハビリは PT、OT、ST と患者の信頼関係で成り立っていると思った。
- ・ 救急部、輸血部見学：どの部も人々の命を預かっているということで、非常に責任重大であると感じました。特にダブルチェックは欠かせないということもわかりました。
- ・ この実習を通して今まで知らなかった部署の、細かいところまで知ることができて、興味をもつことができました。また、驚いたこともたくさんありました。
- ・ 今回、普段見学できないところ(洗濯室、養護学校、福和会)を多く見ることができ、貴重な見学実習であった。
- ・ 病院は、看護師や医師をはじめとする、医療従事者だけでなく様々な人の共同から成り立っているのだとあらためて実感した。



検査部 スパイロメーター体験



リハビリテーション部 立位訓練体験



看護部 見学記念撮影



救急部 救命救急士から CPR を学ぶ

(資料「平成 17～19 年度「基礎看護学実習Ⅰ」に関するアンケート調査結果」より一部抜粋)

医学図書館の24時間開館やシラバス掲載資料の積極的購入等による学生の図書館利用の促進【資料3-2-8】、チューリアル室の自習室としての活用や学生用パソコンの整備【資料3-1-1：P38～39】等、学生の主体的学習の基盤となるインフラを積極的に整備している。

資料3-2-8 図書館の活用状況と圖書の整備

学生による図書館利用状況（平成18年度）

時間帯	曜日	学生	総利用者数	学生 / 総利用者数	1日当たりの学生利用者数
時間内	平日	64,145	69,629	92%	259
	土曜	3,995	4,227	95%	80
	日曜	4,758	4,904	97%	92
	祝日	2,088	2,158	97%	139
	小計	74,986	80,918	93%	205
時間外*	平日	26,825	27,761	97%	108
	土曜	6,622	6,755	98%	132
	日曜	7,598	7,743	98%	146
	祝日	3,239	3,314	98%	216
	小計	44,284	45,573	97%	121
合計		119,270	126,491	94%	327

（注）利用席数は205席

学生の主体的学習の基盤となるインフラの整備（図書購入状況）

医学図書館ではシラバスに掲載された教科書・参考書やチューリアル学習に関連した図書を優先的に購入している。さらに、教員の協力により最新の図書の購入を促進している。

年度別の医学部（病院含む）の蔵書数と購入図書冊数について

年度	医学部全蔵書	購入図書冊数
平成15年度	111,388	936
平成16年度	114,667	1,087
平成17年度	120,232	1,816
平成18年度	120,956	1,480

（事務局資料）

教育課程履修によって医学・医療に対する興味・学習意欲が学生に十分喚起されており【資料 3-2-9：P66～67】，これは教育課程が学生の主体的学習を促すものであることの証左である。

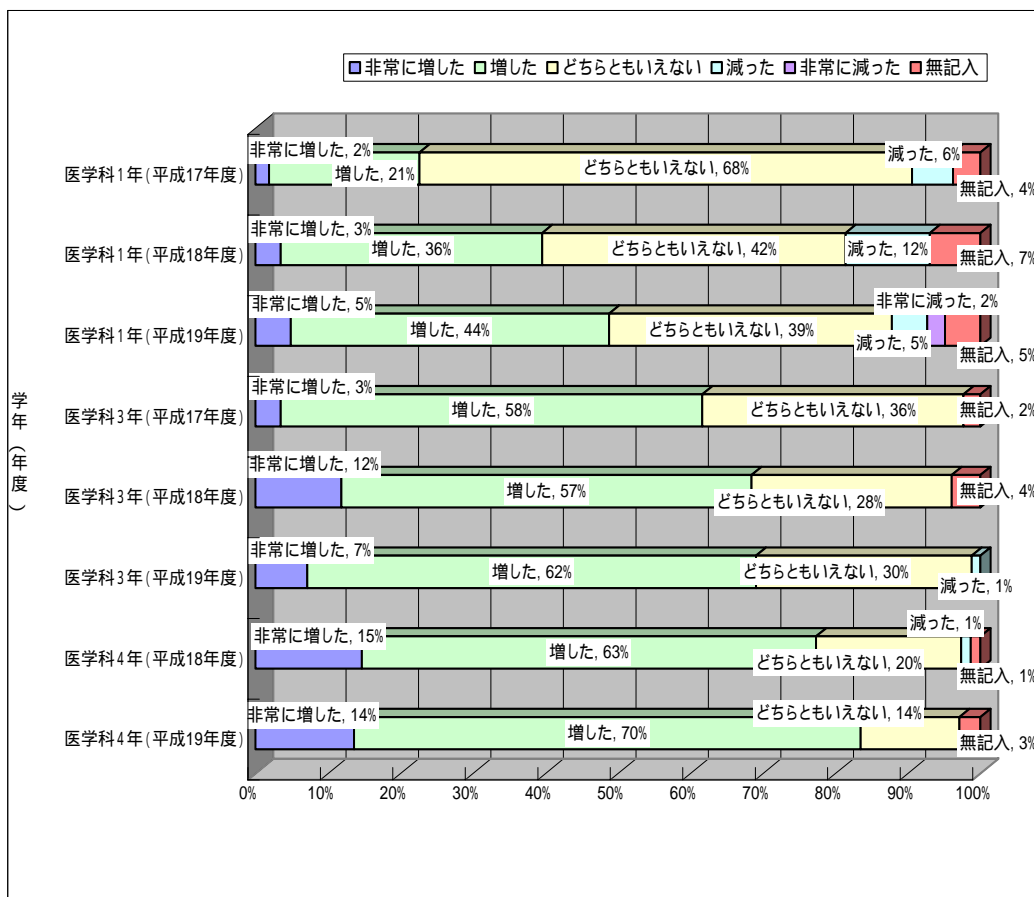
資料 3-2-9 医学・医療への意欲涵養の促進；学生に対するアンケート調査結果

医学科

設問:これまでのカリキュラムを履修して医学・医療に対する興味または履修意欲が増しましたか？

	非常に増した	増した	どちらともいえない	減った	非常に減った	無記入	合計	回収率
医学科1年(平成17年度)	1	11	36	3	0	2	53	55.2%
医学科1年(平成18年度)	3	31	36	10	0	6	86	86.9%
医学科1年(平成19年度)	4	36	32	4	2	4	82	82.0%
医学科3年(平成17年度)	3	50	31	0	0	2	86	92.5%
医学科3年(平成18年度)	9	43	21	0	0	3	76	73.8%
医学科3年(平成19年度)	6	52	25	1	0	0	84	85.7%
医学科4年(平成18年度)	11	47	15	1	0	1	75	84.3%
医学科4年(平成19年度)	14	72	14	0	0	3	103	100.0%

(注)数字は回答者数を表す



(注)数字は回答者数の割合(%)を表す

1年，3年及び4年生の結果を比較すると，学年進行と共に履修意欲の向上が見られる。さらに，同一調査対象の平成17年度1年生と平成19年度3年生，平成18年度3年生と平成19年度4年生で比較すると，高学年ほど履修意欲等の向上が認められる。従って，教育課程は年次推移のみならず，学年進行とともに学生に対して履修意欲の喚起度が向上している。

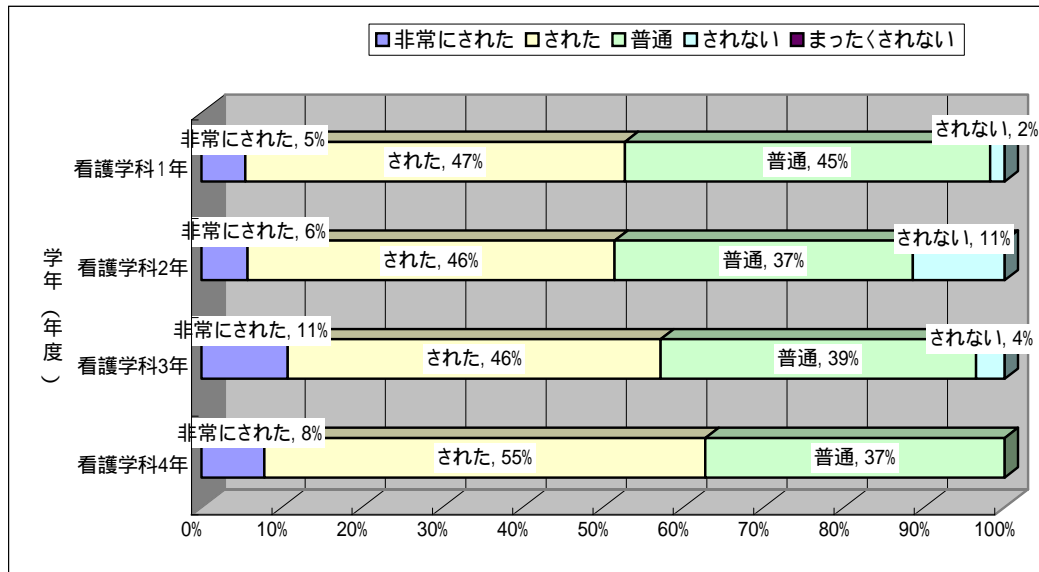
(資料「平成17年～19年度医学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

看護学科

設問:これまでのカリキュラムを履修して学習意欲,看護学や医療に対する意欲が刺激されましたか?

	非常に された	された	普通	されな い	まったく されな	合計	回収率
看護学科1年	3	26	25	1	0	55	91.7%
看護学科2年	2	16	13	4	0	35	59.0%
看護学科3年	3	13	11	1	0	28	43.8%
看護学科4年	4	28	19	0	0	51	76.1%

(注)数字は回答者数を表す



(注)数字は回答者数の割合(%)を表す

(資料「平成19年度 看護学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

「優秀学生表彰制度」を活用し【資料 3-2-10】，学生のインセンティブを高めている。

資料 3-2-10 優秀学生表彰制度の概要

学長表彰 (学長賞)	<ul style="list-style-type: none">・成績優秀者(特に優秀な「成績優秀者」を表彰)・業績顕著者(学会等で特に高く評価される研究業績等を挙げた学生)・課外活動において特に優秀な成績を収めた学生等・社会活動において特に顕著な成績を残し、高い評価を受けた学生 (ボランティア活動, 人命救助, 犯罪防止など特に顕著な成績をあげた学生)
医学部長表彰 (医学部長賞)	<ul style="list-style-type: none">・成績優秀者 (医学科:卒業試験における成績上位の者) (看護学科:基礎科目, 専門基礎科目及び専門科目の総合成績上位の者)

平成19年度より被表彰者人数を拡大した(医学科3名, 看護学科3名)を被表彰者とし, 対象者6名のうち1名は学長表彰とし, 5名は医学部長表彰する。従来まではそれぞれ医学科1名, 看護学科1名であった。)

成績優秀者に対する表彰は学位記授与式の際に実施している。

(関係規定等) ・福井大学学則第63条
・福井大学学生表彰要項に関する申合せ
・福井大学医学部優秀学生表彰制度要項概要

(事務局資料)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

教育目標を達成できるよう、課題探求・解決能力を含めた基本的臨床能力形成や医学知識・技能の効率的な習得・確認のための多様な授業形態の組合せや学習指導方法の工夫がなされており、これら取組は学生から高く評価され、学生の期待に応えるものである。また、概算要求事業「統合的先進イメージングシステムによる革新的医学教育の展開」プログラムは革新的な画像医学教育であり、本邦における初のモデル事業として特記できる¹⁾。

¹⁾ 資料 3-1-2：授業形態の組合せに対する学生の高い評価:P40

資料 3-1-3：統合型講義に対する学生の高い評価:P41

資料 3-1-4：チュートリアル教育の概要:P42～44

資料 3-1-5：看護学科における自己主導型学習の導入:P45～46

資料 3-1-6：臨床実習および看護実習に対する学生の高い評価:P47

資料 3-1-7：「看護基本技術の記録」システムの概要:P48～49

資料 3-1-11：「統合的先進イメージングシステムによる革新的医学教育の展開」…:P53

学生の学習時間の確保、チュートリアル教育等の適切な教育法の導入、様々な学習形態に対応できるインフラの整備を含めた学習支援体制の整備、学習意欲を向上させる教育課程の整備等によって「単位の実質化」や「主体的な学習の促進」への適切な配慮・取組がなされている²⁾。

²⁾ 資料 3-1-1：教育目的に適したインフラの整備:P38～39

資料 3-2-2：十分な学習時間の確保:P55～56

資料 3-2-3：授業時間外学習を促す学習指導:P56～57

資料 3-2-4：課題探求・問題解決能力の涵養状況:P58～59

資料 3-2-7：実施項目一覧と動機付け学習に対する学生の評価:P62～64

資料 3-2-8：図書館の活用状況と図書整備:P65

資料 3-2-9：医学・医療への意欲涵養の促進:P66～67

資料 3-2-10：優秀学生表彰制度の概要:P68

学習指針となる適切なシラバスが作成され、冊子体の配布・電子化によってその利便性を向上している。学生の活用度も良好である³⁾。

³⁾ 資料 3-1-9：シラバスの記載例:P51

資料 3-1-10：学生によるシラバスの良好な活用:P52

以上のように、教育方法の適切な工夫は学生の期待「医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養」等に十分応えるものであり、期待の水準を大きく上回る。

分析項目 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点4-1 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点到に係る状況)

医師，看護師，保健師及び助産師国家試験の合格率において，看護師国家試験合格率は平成17年度以降100%を維持しており，また医師国家試験合格率は全国平均合格率に相当する水準を概ね維持している【資料4-1-1】。これは過半の学生が卒業時点で相応な学力や資質・能力を身に付けたことの証左である。

資料4-1-1 年度別国家試験合格率

国家試験合格状況

医師国家試験合格状況

回(年度)	卒業者数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第98回(平成15年度)	95	95	92	96.8%	9	1	11.1%	104	93	89.4%	88.4%
第99回(平成16年度)	96	95	85	89.5%	10	2	20.0%	105	87	82.9%	89.1%
第100回(平成17年度)	98	98	94	95.9%	15	10	66.7%	113	104	92.0%	90.0%
第101回(平成18年度)	114	114	107	93.9%	12	6	50.0%	126	113	89.7%	87.9%
第102回(平成19年度)	107	107	97	90.7%	12	5	41.7%	119	102	85.7%	90.6%

看護師国家試験合格状況

回(年度)	卒業者数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第92回(平成15年度)	67	57	56	98.2%	0	0	0.0%	57	56	98.2%	91.2%
第93回(平成16年度)	64	55	54	98.2%	2	2	100.0%	57	56	98.2%	91.4%
第94回(平成17年度)	62	56	56	100.0%	1	1	100.0%	57	57	100.0%	88.3%
第95回(平成18年度)	66	56	56	100.0%	0	0	0.0%	56	56	100.0%	90.6%
第96回(平成19年度)	65	58	58	100.0%	2	2	100.0%	60	60	100.0%	90.3%

保健師国家試験合格状況

回(年度)	卒業者数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第90回(平成15年度)	67	67	66	98.5%	4	3	75.0%	71	69	97.2%	92.3%
第91回(平成16年度)	64	61	53	86.9%	3	0	0.0%	64	53	82.8%	81.5%
第92回(平成17年度)	62	61	52	85.2%	9	8	88.9%	70	60	85.7%	78.7%
第93回(平成18年度)	66	64	64	100.0%	8	7	87.5%	72	71	98.6%	99.0%
第94回(平成19年度)	65	65	64	98.5%	1	1	100.0%	66	65	98.5%	91.1%

助産師国家試験合格状況

回(年度)	卒業者数	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第87回(平成15年度)	67	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	96.2%
第88回(平成16年度)	64	4	4	100.0%	0	0	0.0%	4	4	100.0%	99.7%
第89回(平成17年度)	62	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	98.1%
第90回(平成18年度)	66	3	3	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	94.3%
第91回(平成19年度)	65	4	3	75.0%	0	0	0.0%	4	3	75.0%	98.1%

(事務局資料)

医学科において、全国一律で実施される computer based testing(C B T)及び objective structured clinical examination(O S C E)の成績は向上しており【資料 4-1-2: P71～72】、これは学生が臨床実習前教育課程修了時本邦で求められる相当な学力や資質・能力を身に付けたことの証左である。

資料 4-1-2 臨床実習時点における医学科学生の十分な学力と高い資質・能力の修得；C B T 及び O S C E の成績状況

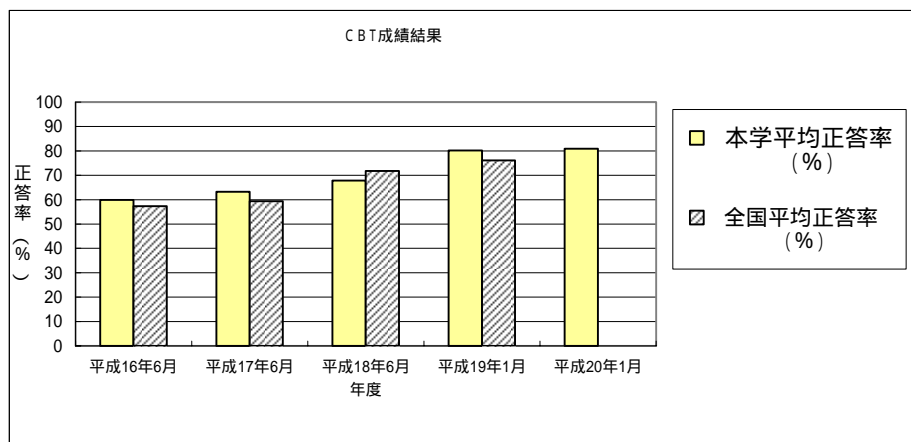
C B T の概要

共用試験 (C B T)では、臨床実習開始前までに修得しておくべき必要不可欠な医学的知識を総合的に理解しているかどうかを評価する知識・問題解決能力の客観的評価試験であり、全国的に一定水準に達しているかを評価する。本学部では4年生1月末に実施しており、進級要件(臨床実習履修要件)としている。学生は「情報処理演習室」に設置したパソコン上で各自に出題される問題を解答する。なお、平成19年度以降の受験者は新教育課程履修者である。

共用試験 (C B T) 結果

	トライアル(旧カリ) 平成16年6月	トライアル(旧カリ) 平成17年6月	正式実施(旧カリ) 平成18年6月	正式実施(新カリ) 平成19年1月	正式実施(新カリ) 平成20年1月
本学平均正答率 (%)	59.9	63.2	67.8	80.2	80.9
全国平均正答率 (%)	57.3	59.4	71.7	76.1	*

*全国平均は集計結果がまだ発表されていない。



新教育課程履修者の成績は、旧課程履修者に比べ向上しており、これは新課程の導入が十分な成果をあげていることを示している。

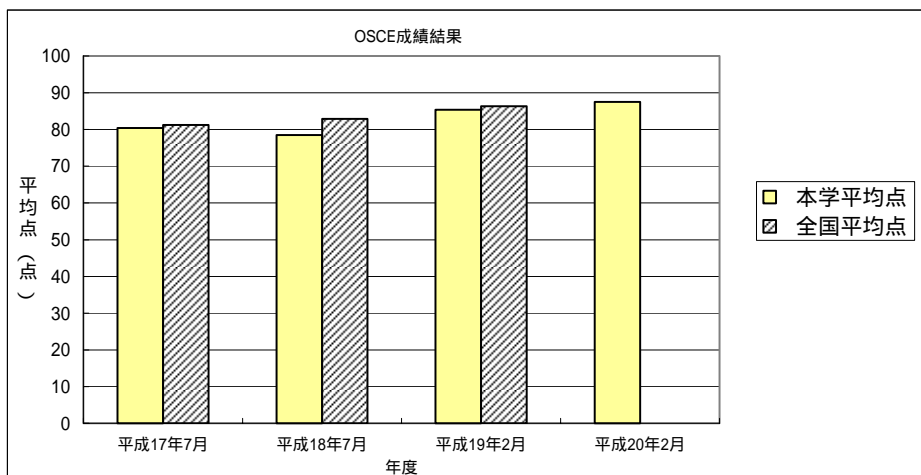
OSCEの概要

医師の資格は、まず一般診療が基本である。どのような初診の患者さんに対しても責任を持って対応する能力が求められている。医学生が診療参加型臨床実習に参画する場合にも当然一般診療に関する基礎的臨床能力を備えていることが必須である。この評価を行うのがOSCEである。医師として患者さんに接する能力、すなわち医療面接や身体診察などの基礎的能力を評価する。本学部では4年生2月末に附属病院にて実施しており、進級要件（臨床実習履修要件）としている。なお、平成19年度以降の受験者は新教育課程履修者である。

共用試験（OSCE）結果

	トライアル(旧カリ) 平成17年7月	正式実施(旧カリ) 平成18年7月	正式実施(新カリ) 平成19年2月	正式実施(新カリ) 平成20年2月
本学平均点	80.4	78.5	85.4	87.5
全国平均点	81.2	82.9	86.3	*

*全国平均は集計結果がまだ発表されていない。



新教育課程履修者の成績は、旧課程履修者に比べ向上しており、これは新課程の導入が十分な成果をあげていることを示している。

(事務局資料)

各科目について、シラバスに到達目標及び評価方法・基準等が明確に記載されており、それに基づく厳格な成績評価がなされている。履修規程等に明記された進級判定基準に基づき両学科とも過半の学生が進級しており【資料4-1-3】、さらに最低修業年限で卒業するものが過半であり【資料4-1-4】、これは各学年修了時点で相応な学力や資質・能力を過半の学生が身に付けたことの証左である。

資料4-1-3 医学科及び看護学科における良好な進級状況

		進級または卒業判定年次																	
医学科		1年			2年			3年			4年			5年			6年		
年度		在学者数	留年者数	留年率	在学者数	留年者数	留年率	在学者数	留年者数	留年率	在学者数	留年者数	留年率	在学者数	留年者数	留年率	在学者数	留年者数	留年率
平成16年度					102	9	8.8%				123	6	4.9%	107	6	5.6%	102	4	3.9%
平成17年度	96	4	4.2%	105	5	4.8%	93	4	4.3%	109	3	2.8%	120	5	4.2%	105	5	4.8%	
平成18年度	99	5	5.1%	98	6	6.1%	106	3	2.8%	93	1	1.1%	110	5	4.5%	118	2	1.7%	
平成19年度	100	2	2.0%	106	3	2.8%	98	0	0.0%	105	0	0.0%	92	0	0.0%	110	2	1.8%	

医学科は、平成15、16年度は2年次、4年次、5年次に進級判定、6年次に卒業判定を行う。
平成17、18年度は1～5年次に進級判定、6年次に卒業判定を行う。

看護学科		1年			2年			3年			4年		
年度		在学者数	留年者数	留年率	在学者数	留年者数	留年率	在学者数	留年者数	留年率	在学者数	留年者数	留年率
平成16年度					58	0	0.0%				63	0	0.0%
平成17年度					60	0	0.0%				66	4	6.1%
平成18年度					58	1	1.7%				69	2	2.9%
平成19年度					64	0	0.0%				68	0	0.0%

看護学科は、2年次に進級判定、4年次に卒業判定を行う。
留年者数には休学による留年を除く。在学者数は3月31日現在。

(事務局資料)

資料4-1-4 医学科及び看護学科における良好な卒業状況

医学科		入学者数(編入学生含む)	ストレート卒業者数	ストレート卒業率
平成16年度卒業		100	73	73.0%
平成17年度卒業		100	74	74.0%
平成18年度卒業		100	96	96.0%
平成19年度卒業		100	92	92.0%

看護学科		入学者数(編入学生含む)	ストレート卒業者数	ストレート卒業率
平成16年度卒業		68	62	91.2%
平成17年度卒業		67	61	91.0%
平成18年度卒業		68	64	94.1%
平成19年度卒業		68	63	92.6%

(事務局資料)

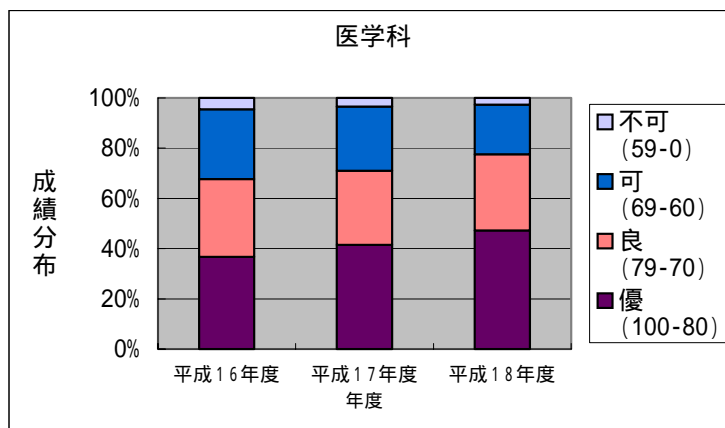
両学科とも各学年で開講される科目の成績評価について、7～8割の学生が「優」または「良」と判定され【資料4-1-5】、これは学生が各科目で相応な学力や資質・能力を身に付けたことの証左である。

資料4-1-5 学生の良好な成績状況

医学科

年度	優 (100-80)	良 (79-70)	可 (69-60)	不可 (59-0)	科目数
平成16年度	2,572	2,179	1,948	314	109
平成17年度	2,983	2,114	1,835	248	120
平成18年度	4,070	2,616	1,704	233	128

(注) データは成績評価を科目毎に成績集計し、さらに年度別に成績集計したものの、合否で成績判定するものを除く。

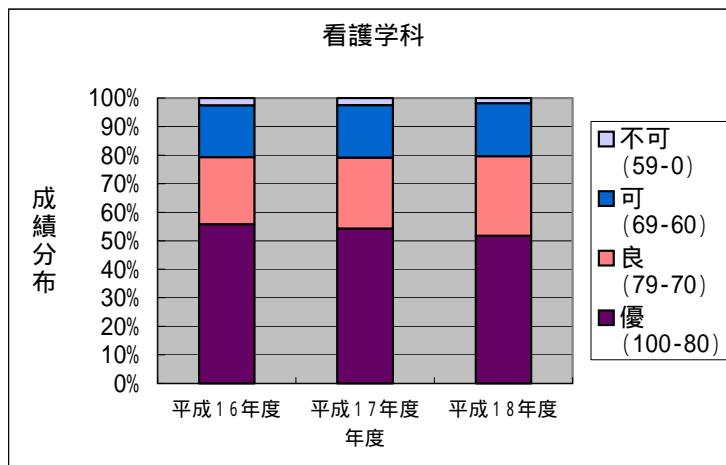


(注) 数字は各評価の割合(%)を表す。

看護学科

年度	優 (100-80)	良 (79-70)	可 (69-60)	不可 (59-0)	科目数
平成16年度	2,409	1,011	783	110	86
平成17年度	2,481	1,134	842	110	91
平成18年度	2,236	1,201	804	77	85

(注) データは成績評価を科目毎に成績集計し、さらに年度別に成績集計したものの、



医学科において、「優」または「良」と判定された学生数は約7割から約8割に増加している。他方、看護学科では約8割の学生が「優」または「良」と判定されており、高い水準を維持している。このように、成績分布は向上または高い水準の維持が認められる。なお、平成19年度の成績分布は集計中のため資料には加えなかった

(事務局資料)

観点4 - 2 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

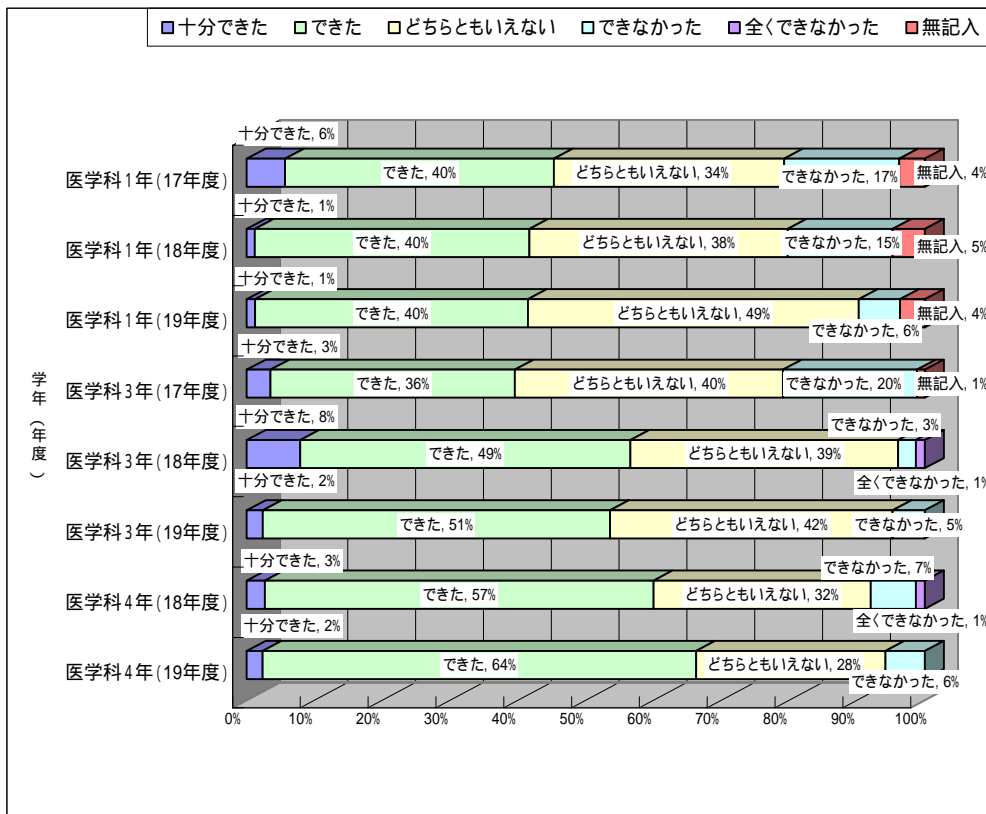
医学科学生では、教育課程全体の学習内容を「消化できなかった」～「全く消化できなかった」と回答した学生は少なく【資料4-2-1】、さらに教育目標達成に関する意見聴取から多くの教育目標に関して修得が「できない」と回答した学生は少なく【資料4-2-2：P76～79】、これは学生が相応な学力や資質・能力を身につけ、学業の成果に概ね満足していることの証左である。

資料4-2-1 医学科学生の学業成果への高い満足度；学生に対するアンケート調査結果

設問：カリキュラム全体の学習内容を十分に消化できましたか？

	十分できた	できた	どちらとも いえない	できなかった	全くできな かった	無記入	合計	回収率
医学科1年(17年度)	3	21	18	9	0	2	53	55.2%
医学科1年(18年度)	1	34	32	13	0	4	84	86.9%
医学科1年(19年度)	1	33	40	5	0	3	82	82.0%
医学科3年(17年度)	3	31	34	17	0	1	86	92.5%
医学科3年(18年度)	6	37	30	2	1	0	76	73.8%
医学科3年(19年度)	2	43	35	4	0	0	84	85.7%
医学科4年(18年度)	2	43	24	5	1	0	75	84.3%
医学科4年(19年度)	2	55	24	5	0	0	86	82.7%

(注)数字は回答者数を表す



(注)数字は回答者数の割合(%)を表す

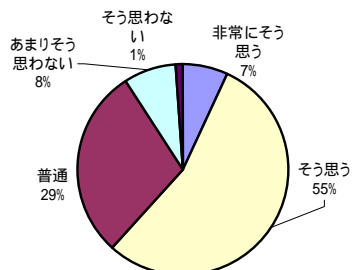
同一調査対象の平成17年度1年生と平成19年度3年生、平成17年度3年生と平成18年度4年生、平成18年度3年生と平成19年度4年生で比較すると、高学年ほど満足度の向上が認められる。従って、学生の学業成果に対する満足度は学年進行とともに向上している。

(資料「平成17～19年度医学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

設問：これまでのカリキュラムの履修状況から考えて、今後のカリキュラムを適切に履修すれば以下の事項が卒業時点で修得できると思いますか？

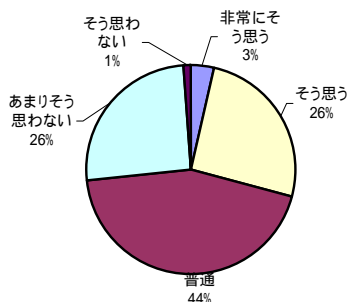
医学科4年

1. 医学知識



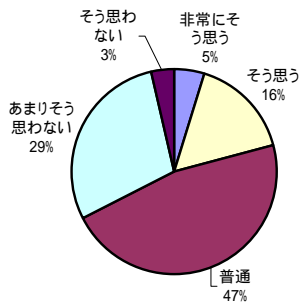
	回答者数
非常にそう思う	6
そう思う	47
普通	25
あまりそう思わない	7
そう思わない	1
合計	86

2. 臨床能力



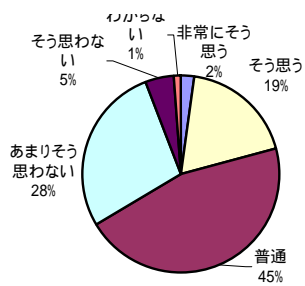
	回答者数
非常にそう思う	3
そう思う	22
普通	38
あまりそう思わない	22
そう思わない	1
合計	86

3. コミュニケーション能力



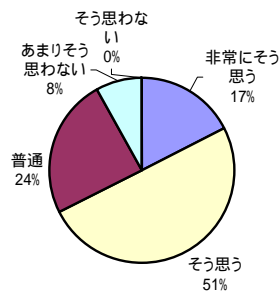
	回答者数
非常にそう思う	4
そう思う	14
普通	40
あまりそう思わない	25
そう思わない	3
合計	86

4. 高い倫理観



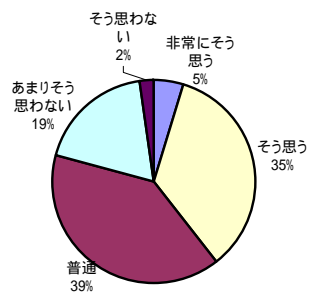
高い倫理観	回答者数
非常にそう思う	2
そう思う	16
普通	39
あまりそう思わない	24
そう思わない	4
わからない	1
合計	86

5. 学ぶ習慣



学ぶ習慣	回答者数
非常にそう思う	15
そう思う	43
普通	21
あまりそう思わない	7
そう思わない	0
合計	86

6. 根拠に立脚した実践的医療能力



根拠に立脚した実践的医療能力	回答者数
非常にそう思う	4
そう思う	30
普通	34
あまりそう思わない	16
そう思わない	2
合計	86

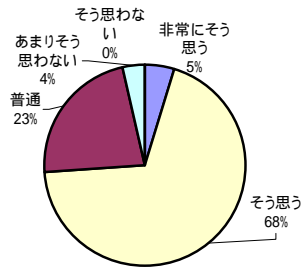
(回収率82.7%)

(注)臨床実習前の4年生に対する意見聴取結果であり、その後臨床実習や臨床実践病態学等を5,6年生で履修する。

(資料「平成19年度医学科4年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

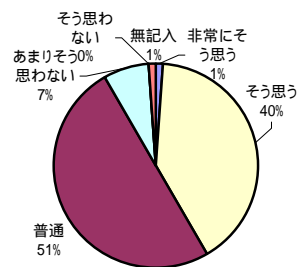
医学科3年

1. 医学知識



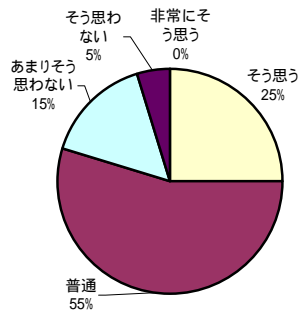
	回答者数
非常にそう思う	4
そう思う	58
普通	19
あまりそう思わない	3
そう思わない	0
合計	84

2. 臨床能力



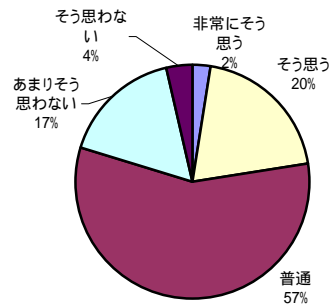
	回答者数
非常にそう思う	1
そう思う	34
普通	42
あまりそう思わない	6
そう思わない	0
無記入	1
合計	84

3. コミュニケーション能力



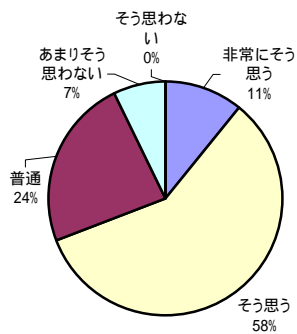
	回答者数
非常にそう思う	0
そう思う	21
普通	46
あまりそう思わない	13
そう思わない	4
合計	84

4. 高い倫理観



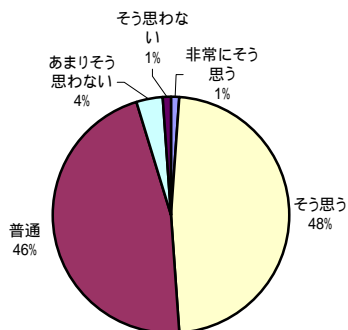
	回答者数
非常にそう思う	2
そう思う	17
普通	48
あまりそう思わない	14
そう思わない	3
合計	84

5. 学ぶ習慣



	回答者数
非常にそう思う	9
そう思う	49
普通	20
あまりそう思わない	6
そう思わない	0
合計	84

6. 根拠に立脚した実践的医療能力



	回答者数
非常にそう思う	1
そう思う	40
普通	39
あまりそう思わない	3
そう思わない	1
合計	84

(回収率 85.7%)

(資料「平成 19 年度医学科 3 年生カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

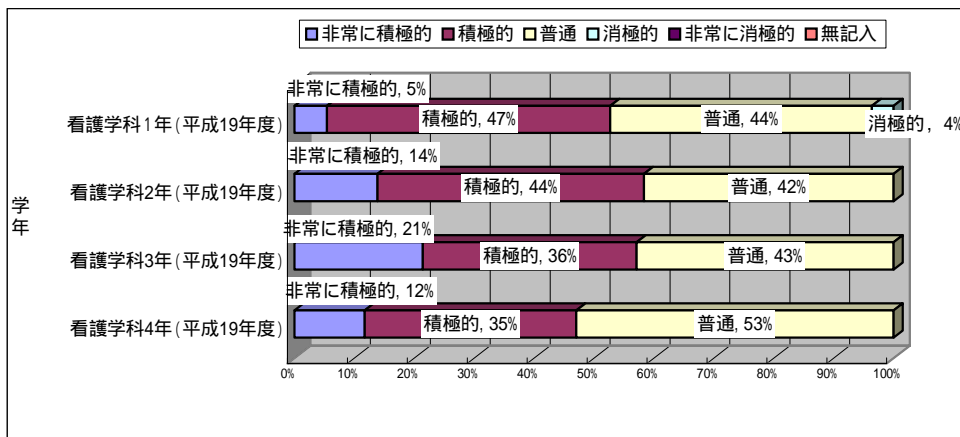
看護学科学学生では、教育課程全体の学習内容を「消化できなかった」と回答した学生は僅かであり【資料 4-2-3】、さらに教育目標達成に関する意見聴取から、多くの教育目標に関して修得が「あまりできなかった」～「できなかった」と回答した学生は僅かであり【資料 4-2-4 : P81】、これは学生が相応な学力や資質・能力を身につけ、学業の成果に概ね満足していることの証左である。

資料 4-2-3 看護学科学学生の学業成果への高い満足度；学生に対するアンケート調査結果

設問：カリキュラム全体を自らすすんで履修しましたか？

	非常に積極的	積極的	普通	消極的	非常に消極的	無記入	合計	回収率
看護学科1年(平成19年度)	3	26	24	2			55	91.7%
看護学科2年(平成19年度)	5	16	15				36	59.0%
看護学科3年(平成19年度)	6	10	12				28	43.8%
看護学科4年(平成19年度)	6	18	27				51	76.1%

(注)数字は回答者数を表す

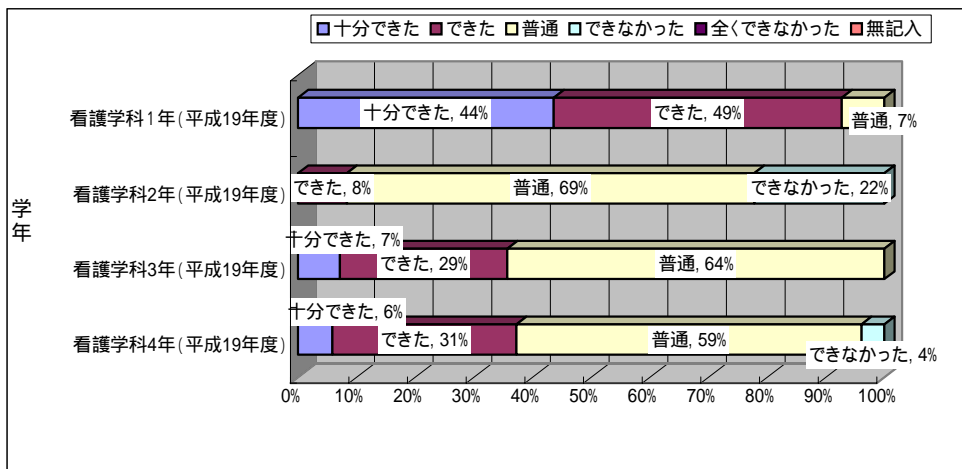


(注)数字は回答者数の割合(%)を表す

設問：カリキュラム全体の学習内容を十分に消化できましたか？

	十分できた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	無記入	合計	回収率
看護学科1年(平成19年度)	24	27	4	8			55	91.7%
看護学科2年(平成19年度)		3	25	8			36	59.0%
看護学科3年(平成19年度)	2	8	18				28	43.8%
看護学科4年(平成19年度)	3	16	30	2			51	76.1%

(注)数字は回答者数を表す

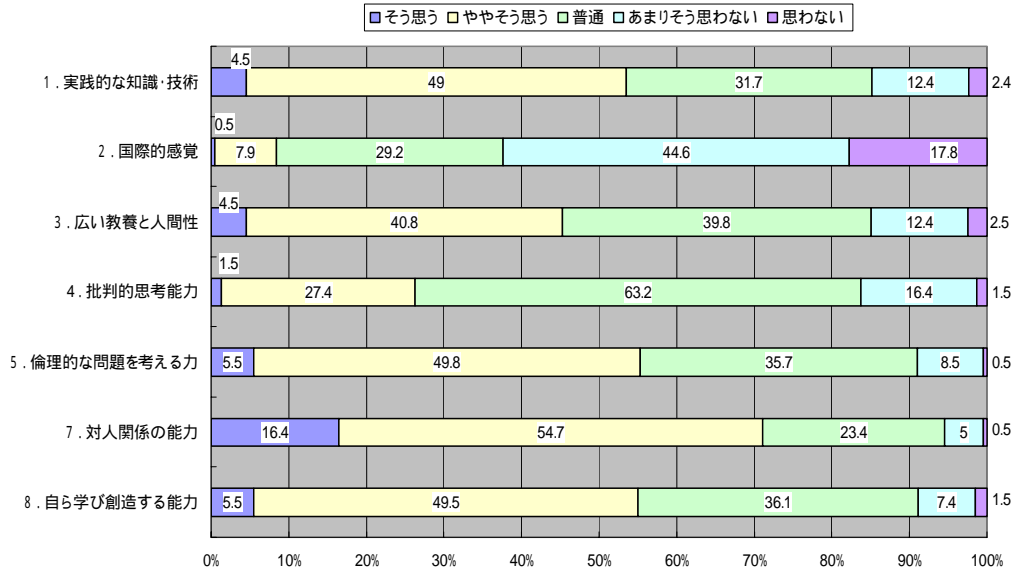


(注)数字は回答者数の割合(%)を表す

(資料「平成19年度看護学科カリキュラム評価アンケート(1年生～4年生)集計結果」より抜粋)

資料 4-2-4 看護学科学生の高い学業成果到達度；学生に対するアンケート調査結果

設問：看護学科では、
 実践的な知識と技術， 国際的感覚， 広い教養と人間性， 批判的思考能力， 倫理的な問題を考える能力， 理論的な知識と論理的な思考、 対人関係の能力，及び 自ら学習し創造する能力
 を習得することを教育の具体的目標としています。
 そこで、あなたは教育課程を履修して、それぞれの事項を習得できた（できる）と思いますか？



(注)それぞれの項目について1~4年生からの回答を集計した。数字は回答者数の割合(%)を表す。

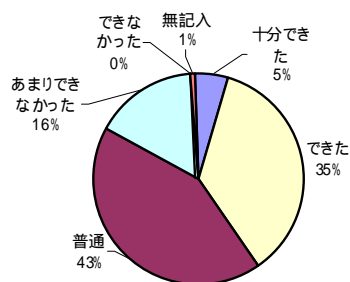
「国際的感覚」の習得状況を鑑み、新教育課程では関連する英語教育科目を3コースから6コースに増やすこととした。

(資料「平成17年度福井大学医学部看護学科カリキュラム検討・評価に関する調査報告書」より改編)

医学科卒業生では、教育課程全体の学習内容を「あまり消化できなかった」と回答した卒業生は少なく【資料4-2-5】、さらに教育目標達成に関する意見聴取から、多くの到達目標に対応する諸資質・能力に関して身に付けることが「できなかった」と回答した卒業生は少なく【資料4-2-6：P82~83】、これは卒業生が相応な学力や資質・能力を身につけ、学業の成果に概ね満足していることの証左である。

資料 4-2-5 医学科卒業生の学業成果への高い満足度；卒業生に対するアンケート調査結果

設問：カリキュラム全体の学習内容を十分に消化できましたか？



	回答者数
十分できた	6
できた	41
普通	50
あまりできなかった	19
できなかった	0
無記入	1
合計	117

(385枚配布/117枚回収)

(資料「卒業生対象 平成19年度福井大学医学部医学教育カリキュラムに関するアンケート集計結果」より抜粋)

設問： 医学科では、

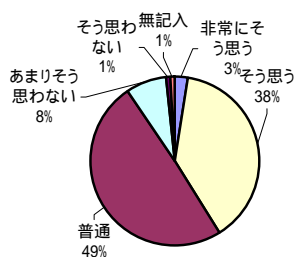
幅広い医学知識を持ち、質の高い臨床能力を身に付け

コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観をもって患者様中心の医療を实践でき

日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を实践できる医療人を育成することを教育目標としています。

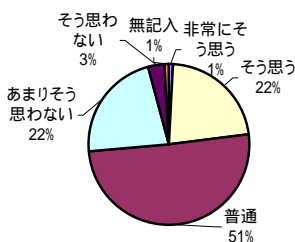
そこで、本学のカリキュラム全般を履修してこれらに対応した以下の事項を修得することができましたか、お聞きします。それぞれの事項を身に付けることができたと思いますか？

1. 医学知識



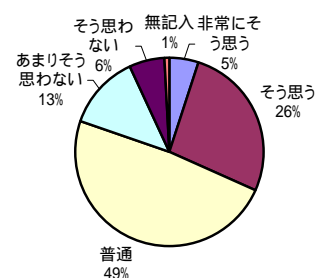
	回答者数
非常にそう思う	3
そう思う	45
普通	58
あまりそう思わない	9
そう思わない	1
無記入	1
合計	117

2. 臨床能力



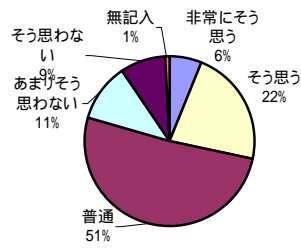
	回答者数
非常にそう思う	1
そう思う	26
普通	59
あまりそう思わない	26
そう思わない	4
無記入	1
合計	117

3. コミュニケーション能力



	回答者数
非常にそう思う	6
そう思う	31
普通	57
あまりそう思わない	15
そう思わない	7
無記入	1
合計	117

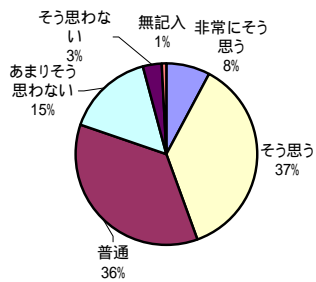
4. 高い倫理観



	回答者数
非常にそう思う	7
そう思う	26
普通	60
あまりそう思わない	13
そう思わない	10
無記入	1
合計	117

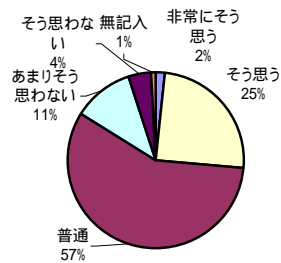
(回収率30.4%)

5. 学ぶ習慣



	回答者数
非常にそう思う	9
そう思う	43
普通	42
あまりそう思わない	18
そう思わない	4
無記入	1
合計	117

6. 根拠に立脚した実践的医療能力



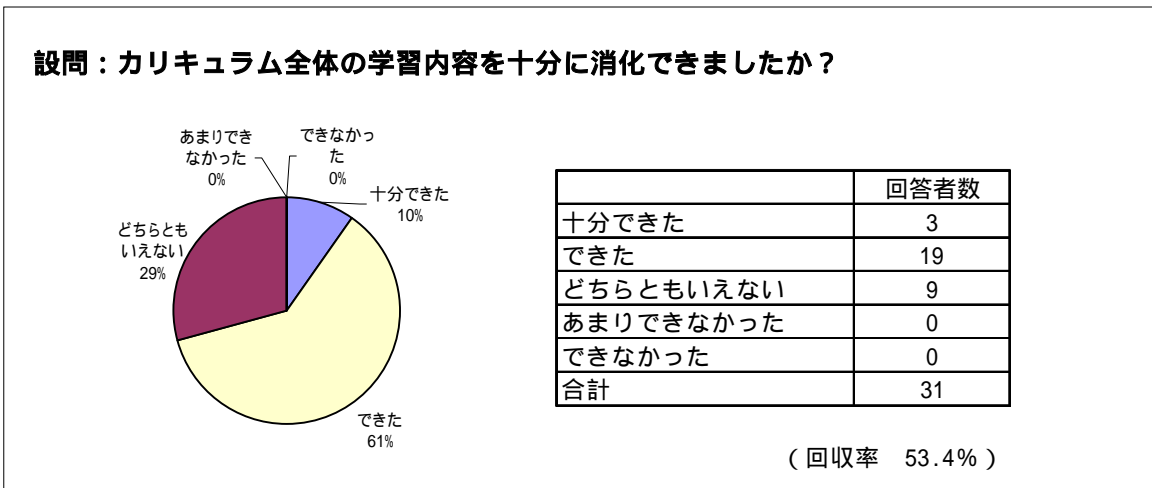
	回答者数
非常にそう思う	2
そう思う	29
普通	67
あまりそう思わない	13
そう思わない	5
無記入	1
合計	117

(385 枚配布/117 枚回収)

(資料「卒業生対象 平成19年度福井大学医学部医学教育カリキュラムに関するアンケート集計結果」より抜粋)

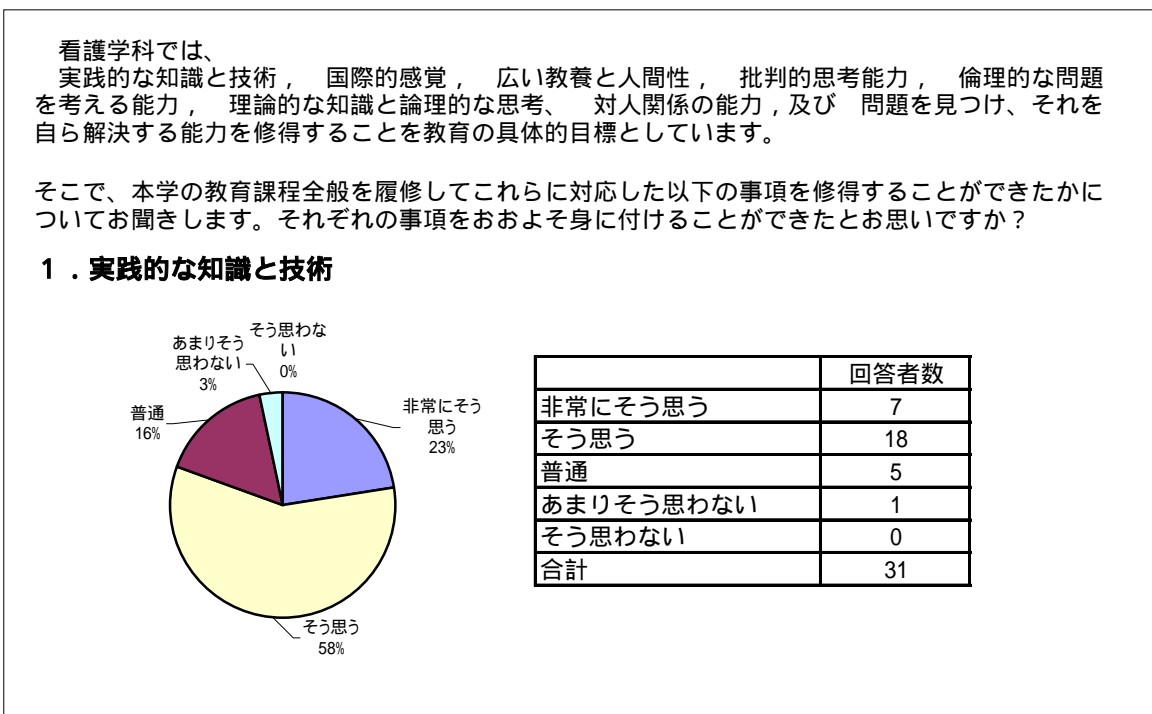
看護学科卒業生では、教育課程全体の学習内容を「消化できた」と回答した卒業生が過半であり【資料 4-2-7】、さらに教育達成目標に関する意見聴取から、多くの到達目標に対応する諸資質・能力に関して身につけることが「あまり出来なかった」～「出来なかった」と回答した卒業生は少なく【資料 4-2-8：P84～86】、これは卒業生が相応な学力や資質・能力を身につけ、学業の成果に概ね満足していることの証左である。

資料 4-2-7 看護学科卒業生の学業成果への高い満足度；卒業生に対するアンケート調査結果

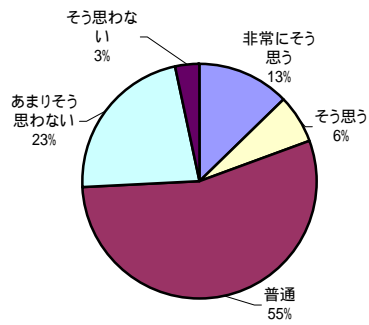


(資料「卒業生対象 平成 19 年度看護学教育カリキュラム・看護基本技術の記録に関するアンケート集計結果」より抜粋)

資料 4-2-8 看護学科卒業生の学業成果到達度；卒業生に対するアンケート調査結果

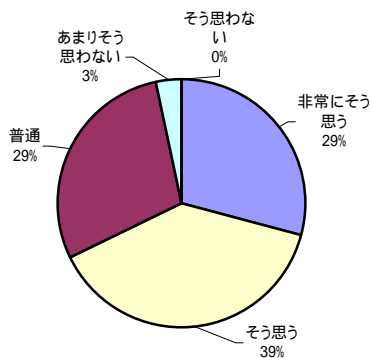


2. 国際的感覚



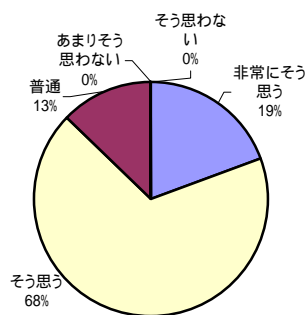
	回答者数
非常にそう思う	4
そう思う	2
普通	17
あまりそう思わない	7
そう思わない	1
合計	31

3. 広い教養と人間性



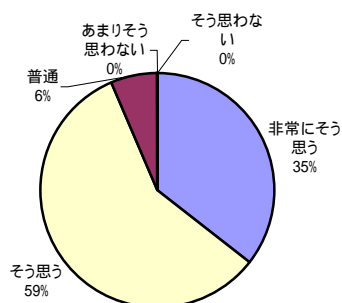
	回答者数
非常にそう思う	9
そう思う	12
普通	9
あまりそう思わない	1
そう思わない	0
合計	31

4. 批判的思考能力



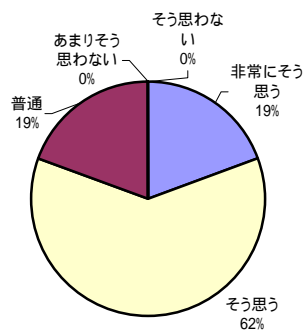
	回答者数
非常にそう思う	6
そう思う	21
普通	4
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
合計	31

5. 倫理的な問題を考える能力



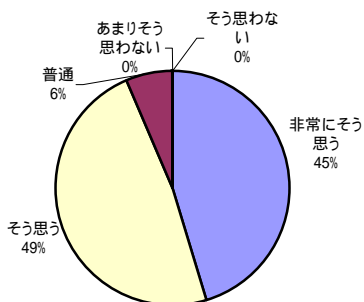
	回答者数
非常にそう思う	11
そう思う	18
普通	2
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
合計	31

6. 理論的な知識と論理的な思考



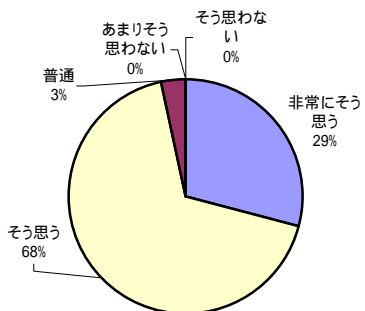
	回答者数
非常にそう思う	6
そう思う	19
普通	6
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
合計	31

7. 対人関係の能力



	回答者数
非常にそう思う	14
そう思う	15
普通	2
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
合計	31

8. 問題を見つけ、それを自ら解決する能力



	回答者数
非常にそう思う	9
そう思う	21
普通	1
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
合計	31

(回収率53.4%)

(資料「卒業生対象平成19年度看護学教育カリキュラム・看護基本技術の記録に関するアンケート集計結果」より抜粋)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

全国平均合格率に比べ高い、またはほぼ相当する関連国家試験の合格率は卒業時点において学生が学力や資質・能力を相応に修得したことを示すものであり、本学部における教育は成果をあげている¹⁾。

¹⁾ 資料 4-1-1：年度別国家試験合格率:P70

学生に対する意見聴取結果及び成績・進級・卒業状況を鑑みると、学生は各学年修了及び卒業時点で相応な学力や資質・能力を身に付けており、従って関係者の期待「医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養」に十分対応している²⁾。

²⁾ 資料 4-1-2：臨床実習時点における医学科学生の十分な学力と高い資質・能力の修得:P71～72

資料 4-1-3：医学科及び看護学科における良好な進級状況:P73

資料 4-1-4：医学科及び看護学科における良好な卒業状況:P73

資料 4-1-5：学生の良好な成績状況:P74

学生や卒業生に対する意見聴取結果を鑑みると、学生や卒業生は学業の成果に概ね満足しており、さらに概ね高い教育目標達成度を示している³⁾。

³⁾ 資料 4-2-1：医学科学生の学業成果への高い満足度:P75

資料 4-2-2：医学科学生の学業成果到達度:P76～79

資料 4-2-3：看護学科学生の学業成果への高い満足度:P80

資料 4-2-4：看護学科学生の高い学業成果到達度:P81

資料 4-2-5：医学科卒業生の学業成果への高い満足度:P81

資料 4-2-6：医学科卒業生の学業成果到達度:P82～83

資料 4-2-7：看護学科卒業生の学業成果への高い満足度:P84

資料 4-2-8：看護学科卒業生の学業成果到達度:P84～86

以上のように、学生や卒業生の学業成果及び満足度は関係者の期待である「医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養」が十分達成されている証左であり、教育の成果や効果は期待の水準を上回る。

進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点5-1 卒業後の進路の状況

(観点に係る状況)

関連試験合格者のほぼ全員が医療人として医療機関に就職しており【資料5-1-1】、これは本学部の目的である「医療人の育成」に十分合致している。

資料5-1-1 卒業生進路状況

医学科													
卒業年度	学科	進路別 卒業者数							合計	卒業者のうち 医師国家試験合格者	左記のうち医療機関への就職率		
		進学			就職								
		大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専修学校・外国の学校等入学者	看護師・保健師・助産師	臨床研修医 (予定者を含む)	その他就職者				左記以外の者	死亡・不詳の者
平成15年度	医学科						92		3		95	92	100.0%
平成16年度	医学科						85		11		96	85	100.0%
平成17年度	医学科						93		5		98	94	98.9%
平成18年度	医学科						107		7		114	107	100.0%
平成19年度	医学科						96		11		107	97	99.0%

看護学科													
卒業年度	学科	進路別 卒業者数							合計	卒業者のうち 助産師国家試験合格者	左記のうち医療機関への就職率		
		進学			就職								
		大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専修学校・外国の学校等入学者	看護師・保健師・助産師	臨床研修医 (予定者を含む)	その他就職者				左記以外の者	死亡・不詳の者
平成15年度	看護学科	1			2	63			1		67	67	94.0%
平成16年度	看護学科		1		3	60					64	64	93.8%
平成17年度	看護学科	2	4			55		1			62	62	88.7%
平成18年度	看護学科		3	1		59			3		66	64	92.2%
平成19年度	看護学科		3			62		1			66	66	93.9%

(事務局資料)

医師国家試験合格者の約3割が医師として、看護師国家試験合格者の約5割が看護師として福井県内の医療機関に就職している【資料5-1-2】。医学科卒業生の附属病院及び県内病院での初期研修率、さらに県内医療機関への就職率は増加しており、平成18年度病院GP「救急に強い総合医、看護師養成コース」の実施プログラム【資料5-1-3:P90】に基づく卒前・卒後医学教育の密接な連携体制の構築、県内関連医療機関との密接な連携、講義・実習時における地域医療従事への意欲涵養の指導、「地域枠」入学試験の導入や新規な奨学金制度の整備【資料5-1-4:P90~91】等、地域医療に携わる医療人の育成の推進は地域社会の期待に十分応えている。

資料5-1-2 地域別の就職状況及び本学卒業生の附属病院における高い研修・就職率

医学科											
卒業年度	卒業者数	医師国家試験合格者	福井県内							計	県内就職率
			福井大学医学部				医療機関 (研修医)	計	県内就職率		
			進学	助手	研修医	小計					
平成15年度	95	92	0	0	18	18	19.6%	3	21	22.8%	
平成16年度	96	85	0	0	8	8	9.4%	8	16	18.8%	
平成17年度	98	94	0	0	17	17	18.1%	11	28	29.8%	
平成18年度	114	107	0	0	28	28	26.2%	8	36	33.6%	
平成19年度	107	97	0	0	29	29	29.9%	8	37	38.1%	

福井県外									
他の大学				医療機関 (研修医)	計	県外就職率	その他	合計	
進学	助手	研修医	小計						
0	0	21	21	49	70	76.1%	4	95	
0	0	26	26	43	69	81.2%	11	96	
0	0	17	17	48	65	69.1%	5	98	
0	0	19	19	51	70	65.4%	8	114	
0	0	21	21	38	59	60.8%	11	107	

看護学科												
卒業年度	卒業者数	看護師等国家試験合格者*	福井県内							計	左記のうち助産施設就職者	県内就職率
			福井大学医学部			国・公立病院	地方公共団体	民間医療機関	計			
			進学	附属病院	本学への就職率							
平成15年度	67	67	0	9	13.4%	16	1	3	29	3	43.3%	
平成16年度	64	64	0	13	20.3%	13	1	9	36	4	56.3%	
平成17年度	62	62	1	12	19.4%	5	1	8	27	3	43.5%	
平成18年度	66	64	0	26	40.6%	8	2	4	40	3	62.5%	
平成19年度	66	66	0	24	36.4%	1	1	9	35	2	53.0%	

*看護師・保健師・助産師国家資格

福井県外									
他の大学		国・公立病院	地方公共団体	民間医療機関	計	県外就職率	その他	合計	
進学	附属病院								
3	18	8	4	4	37	55.2%	1	67	
4	12	8	0	4	28	43.8%	0	64	
5	17	8	2	2	34	54.8%	1	62	
4	8	6	3	2	23	35.9%	3	66	
3	15	5	4	3	30	45.5%	1	66	

両学科とも卒業生の県内医療機関及び本学附属病院の研修・就職率が年次推移で概ね増加している。

(事務局資料)

資料 5-1-3 「救急に強い総合医，看護師養成コース」プログラムの概要



(資料「福井大学HP」から)

資料 5-1-4 地域医療に携わる人材の育成に係る取組；新規な奨学金制度や「地域枠」入試の導入

新規な奨学金制度の設置

平成20年度 嶺南医療振興財団 医学生奨学金制度

奨学金制度の概要

・対象者
 次の1、2のいずれかに該当し、将来嶺南地域の公的な病院および診療所(※指定医療機関という)に医師として勤務しようとする者。
 1. 福井大学の医学部医学科1年生
 2. 福井県内の高校卒業生で福井大学以外の医学部医学科1年生

・貸与金額 (年額) (単位:円)

年次	※授業料	修学資金	※入学金	教育支援	合計
1年生	535,800	1,200,000	282,000	100,000	2,117,800
2年生以降	535,800	1,200,000	—	—	1,735,800

※福井大学が入学金及び授業料を改定した場合は、福井大学が定める金額による。

・貸与期間
 大学の正規の修学年限の6年間とします。

・貸与人員
 5名程度

※指定医療機関
 市立敦賀病院、国立病院機構福井病院、
 公立小浜病院、レイクヒルズ美方病院、
 国民健康保険上中病院、高浜病院および
 福井県嶺南地域の公的な診療所
 (平成19年3月末日現在)

奨学金の返済免除

奨学金の貸与を受けた医学科生が医師臨床研修を終えた後、原則として直ちに、奨学金を貸与された期間から医師臨床研修の年数を差し引いた期間、指定医療機関に勤務した場合、奨学金の返済が免除されます。

◆奨学金の返済を免除する場合の勤務モデル

医学生						医師					
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	臨床研修		3年目	4年目	5年目	6年目
						1年目	2年目				
6年間支援						勤務先は自由を選択		指定医療機関に勤務			

奨学金の返済猶予

奨学金が次に該当する場合は、その該当している期間、返済を猶予します。

1. 指定医療機関に医師として勤務しているとき。
2. 臨床研修を行っているとき。
3. 大学院の医学に関する修士課程又は、博士課程に在学しているとき。



「平成 19 年 6 月 20 日福井新聞掲載：嶺南医療振興財団奨学金制度記事」

「地域枠」入試の導入



「平成 19 年 7 月 21 日福井新聞掲載：福井大学入試要項発表記事」

(資料「嶺南医療振興財団ホームページ」より一部抜粋)

(資料「福井新聞掲載記事」から)

看護学科は県内唯一の助産師養成機関【資料 5-1-2：P89】であり、助産師資格を取得した卒業生はすべて県内医療機関に就職しており、地域医療に携わる医療人の育成として適切である。

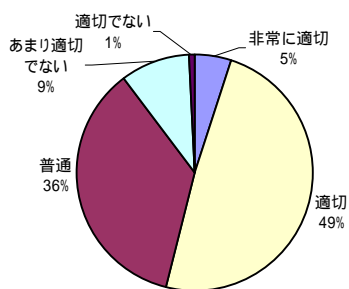
観点5 - 2 関係者からの評価

(観点に係る状況)

医学科卒業生からの意見聴取において、教育目標に対応する諸資質・能力を過半の卒業生は身に付けることが出来たと回答している【資料4-2-6：P82～83】。過半の卒業生はカリキュラムを履修することで医学・医療に対する興味・履修意欲が増し、さらに教員の指導も適切であったと回答している【資料5-2-1】。これらは、医学科の教育が卒業生の期待に十分応えたものであることの証左である。

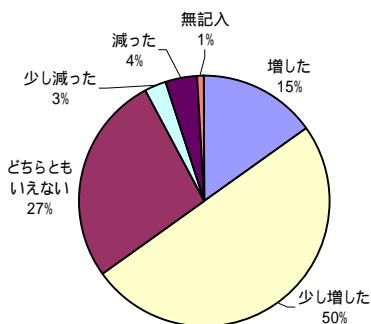
資料5-2-1 医学科教育に対する医学科卒業生の高い評価；卒業生に対するアンケート調査結果

設問：臨床研修の前提となる基礎的な診療技術・知識を習得する上で、福井大学医学部教員の助言・指導は全般的に適切でしたか？



	回答者数
非常に適切	6
適切	57
普通	42
あまり適切でない	11
適切でない	1
合計	117

設問：本学の医学教育カリキュラムを履修して、医学・医療に対する興味または履修意欲が増しましたか？



	回答者数
増した	18
少し増した	58
どちらともいえない	32
少し減った	3
減った	5
無記入	1
合計	117

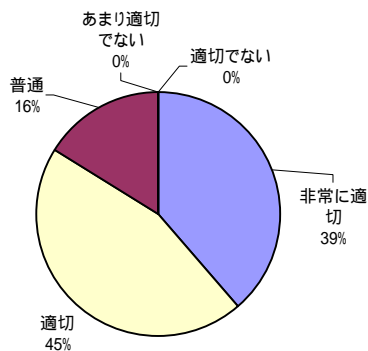
(385枚配布/117枚回収)

(資料「卒業生対象 平成19年度福井大学医学部医学教育カリキュラムに関するアンケート集計結果」より抜粋)

看護学科卒業生からの意見聴取において、教育目標に対応する諸資質・能力を過半の卒業生は身に付けることができたと回答している【資料 4-2-8：P84～86】。過半の卒業生はカリキュラムを履修することで看護学・医療に対する興味・履修意欲が増し、さらに教員の指導も適切であったと回答している【資料 5-2-2】。これらは、看護学科の教育が卒業生の期待に十分応えたものであることの証左である。

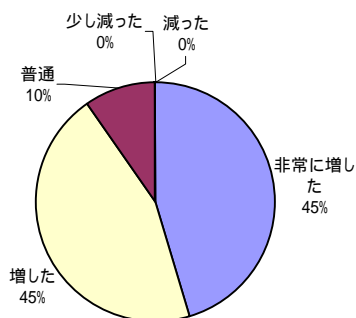
資料 5-2-2 看護学科教育に対する看護学科卒業生の高い評価；卒業生に対するアンケート調査結果

設問：基礎的な看護技術・知識を習得する上で、医学部教員の助言・指導は全般的に適切でしたか？



	回答者数
非常に適切	12
適切	14
普通	5
あまり適切でない	0
適切でない	0
合計	31

設問：本学のカリキュラムを履修して、看護学・医療に対する興味または履修意欲が増しましたか？



	回答者数
非常に増した	14
増した	14
普通	3
少し減った	0
減った	0
合計	31

(回収率 53.4%)

(資料「卒業生対象 平成 19 年度看護学教育カリキュラム・看護基本技術の記録に関するアンケート集計結果」より抜粋)

医学科卒業生の就職(研修)先医療機関において、卒業生は教育目標に対応した諸資質・能力を十分備えていると評価された【資料 5-2-3：P94～96】。これら機関の過半では卒業生を積極的に受け入れたいと回答しており【資料 5-2-4：P96】、これは医学科の教育が関係者の期待に十分応えたものであることの証左である。

資料 5-2-3 医学科卒業生に対する研修・勤務先医療機関の高い評価；医療機関に対するアンケート調査結果

設問： 医学部では、

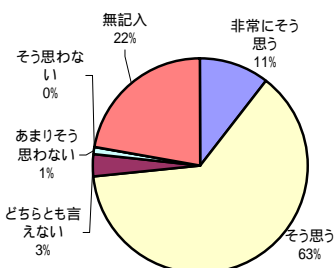
幅広い医学知識を持ち、質の高い臨床能力を身に付け

コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観をもって患者様中心の医療を実践でき

日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成することを教育目標としています。

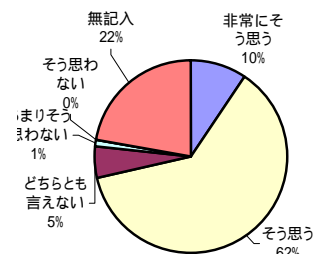
そこで、以下の観点における本学卒業生の全般的評価をお教え下さい。

設問： 必要な医学知識を有しているか？



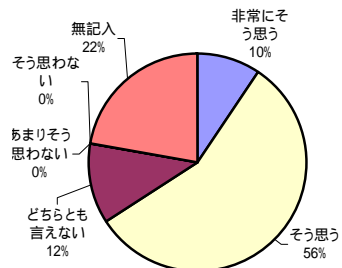
	回答施設数
非常にそう思う	10
そう思う	59
どちらとも言えない	3
あまりそう思わない	1
そう思わない	0
無記入	21
合計	94

設問： 必要な医学知識を有しているか？



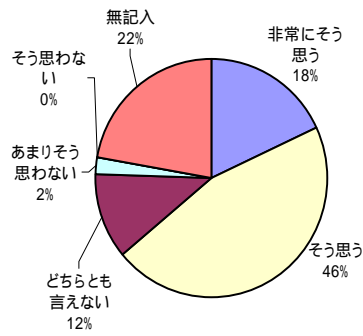
	回答施設数
非常にそう思う	9
そう思う	58
どちらとも言えない	5
あまりそう思わない	1
そう思わない	0
無記入	21
合計	94

設問： 医学知識・臨床能力を応用する能力を有しているか？



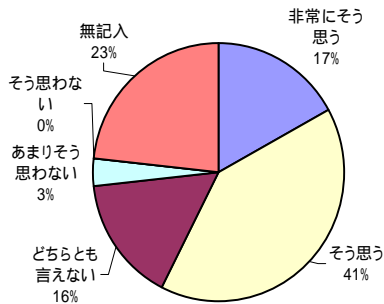
	回答施設数
非常にそう思う	9
そう思う	53
どちらとも言えない	11
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
無記入	21
合計	94

設問：患者様やご家族様への対応など、必要なコミュニケーション能力を有しているか？



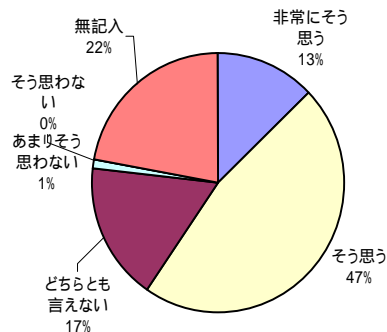
	回答施設数
非常にそう思う	17
そう思う	43
どちらとも言えない	11
あまりそう思わない	2
そう思わない	0
無記入	21
合計	94

設問：患者様やご家族様から信頼される献身的な態度を有しているか？



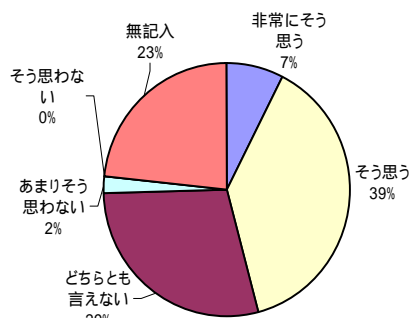
	回答施設数
非常にそう思う	16
そう思う	38
どちらとも言えない	15
あまりそう思わない	3
そう思わない	0
無記入	22
合計	94

設問：医療チーム内での協調性を有しているか？



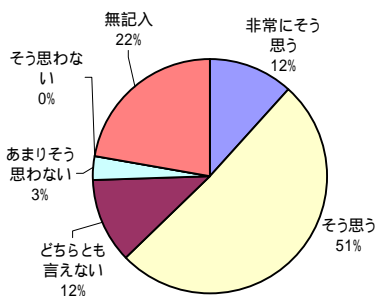
	回答施設数
非常にそう思う	12
そう思う	44
どちらとも言えない	16
あまりそう思わない	1
そう思わない	0
無記入	21
合計	94

設問：医療チーム内での指導力を有している、あるいは将来有するか？



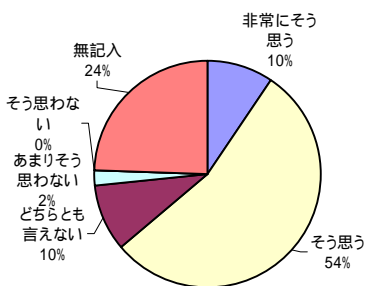
	回答施設数
非常にそう思う	7
そう思う	36
どちらとも言えない	27
あまりそう思わない	2
そう思わない	0
無記入	22
合計	94

設問：患者様の尊厳や利益を重んじるなど、十分な医療倫理観を有しているか？



	回答施設数
非常にそう思う	11
そう思う	48
どちらとも言えない	11
あまりそう思わない	3
そう思わない	0
無記入	21
合計	94

設問：新しい知識・技術の修得に対する積極性を有しているか？



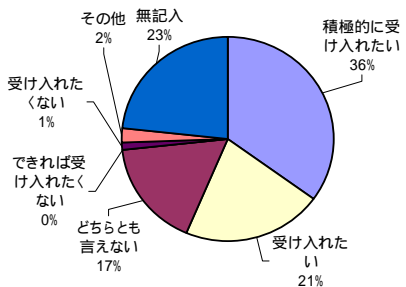
	回答施設数
非常にそう思う	9
そう思う	51
どちらとも言えない	9
あまりそう思わない	2
そう思わない	0
無記入	23
合計	94

(回収率50.5%)

(資料「関連病院対象 平成19年度福井大学医学部卒業生に関するアンケート集計結果」より抜粋)

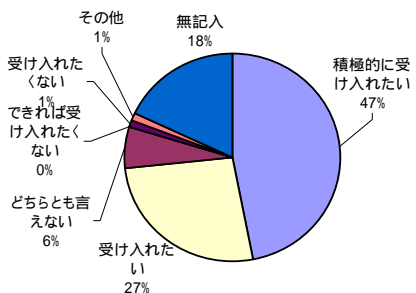
資料 5-2-4 医学科卒業生に対する研修・勤務先医療機関の高い期待；医療機関に対するアンケート調査結果

設問：本学卒業生を積極的に研修医として受け入れたいとお考えですか？



	回答施設数
積極的に受け入れたい	33
受け入れたい	20
どちらとも言えない	16
できれば受け入れたくない	0
受け入れたくない	1
その他	2
無記入	22
合計	94

設問：本学卒業生を積極的に貴機関の医員または常勤医師として受け入れたいとお考えですか？



	回答施設数
積極的に受け入れたい	44
受け入れたい	25
どちらとも言えない	6
できれば受け入れたくない	0
受け入れたくない	1
その他	1
無記入	17
合計	94

(回収率50.5%)

(資料「関連病院対象 平成19年度福井大学医学部卒業生に関するアンケート集計結果」より抜粋)

看護学科卒業生の就職先医療機関において、卒業生は看護技術・知識および諸資質を相応に備えていると評価された【資料 5-2-5 : P97～98】。さらに、基本的看護技術の習得度は他機関卒業生に比べ本学卒業生は高いと評価されており、これは看護学科の教育が関係者の期待に十分応えたものであることの証左である。

資料 5 2-5 看護学科卒業生に対する勤務先医療機関の高い評価；医療機関に対するアンケート調査結果

1. 本学卒業生の全般的評価

	施設 A	施設 B	施設 C
1. 必要な専門知識を有している	3	4	4
2. 必要な専門技術を有している	2	3	3
3. 専門知識を応用することができる	3	4	4
4. 専門技術を応用することができる	2	3	3
5. 患者さんに対する接し方が優れている	3	4	4
6. 協調性がある	3	4	4
7. 新しい知識や技術の習得に積極的である	3	5	4

5:非常にそう思う 4:ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

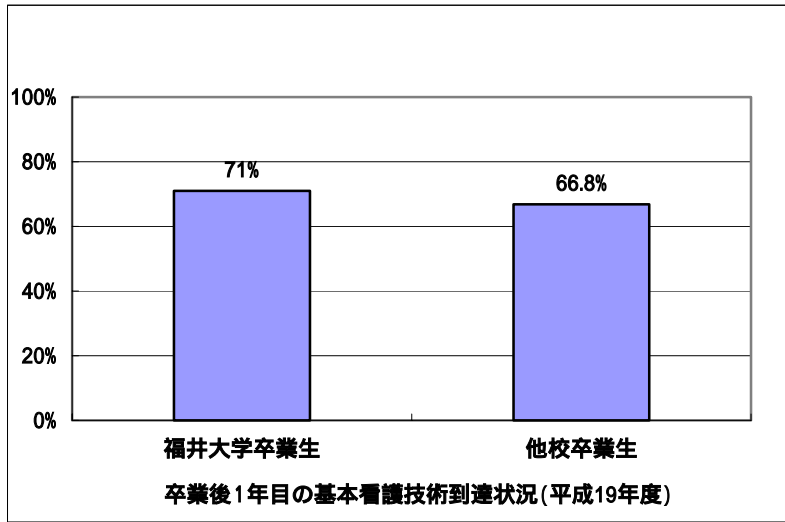
2. 本学卒業生の全般的印象

	本学の卒業生の全般的印象
施設 A	文献検索・文章力あり
	患者への接し方はよい
	礼儀正しい
	まじめ・粘り強い
	2～3年目までの成長がすばらしい
施設 B	知識を実践の中で活用
	看護研究で意見を言える
	考える力、自己判断あり
	ケアプランが立案できる
	理解がよい
	突拍子もないことをしない
	リーダーシップへの期待
施設 C	2年目からの成長が目覚ましい
	向上心・責任感・目標に向け努力している
	慎重
	思考・判断力あり
	レポートをまとめる能力は優れている

平成 9～12 年度入学の本学卒業生が就職した、福井県内の 3 医療機関の看護部長、看護副部長、教育担当者に対し面接調査（本学卒業生の全般的評価）を実施した。

（資料「平成 17 年度福井大学医学部看護学科カリキュラム検討・評価に関する調査報告書」より抜粋）

3. 基本的看護技術到達状況の比較



平成19年度に最も多い21名の卒業生が就職した福井大学医学部附属病院の「平成19年度看護技術支援シート」より、本学卒業生の平成20年1月時点の技術到達状況について評価した。基本看護技術12項目のうち、レベル3の「一人のできる」レベルの到達状況は21名中15名(71%)が到達しており、他校出身者に比べ高い到達状況であった。

(資料「福井大学医学部附属病院平成19年度看護技術支援シート」の到達状況より抜粋)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

関連国家試験に合格した卒業生のほぼ全員が医療職に従事しており、本学部は高度医療人養成機関として関係者の期待に十分応えている¹⁾。

¹⁾ 資料 5-1-1：卒業生進路状況:P88

卒業生の県内医療機関への就職率及び本学附属病院における初期研修率の増加は地域医療に携わる医療人の育成として関係者の期待に十分応えている。地域医療人の育成促進のための新規な奨学金制度の設置は特記できる²⁾。

²⁾ 資料 5-1-2：地域別の就職状況及び本学卒業生の附属病院における高い研修・就職率:P89

資料 5-1-4：地域医療に携わる人材の育成に係る取組:P90～91

卒業生は教育達成目標に対応した学力・能力・資質を十分修得できたことを自己評価している。さらに、過半の卒業生は教育課程の履修によって医学・医療に対する興味・勉強意欲が向上しており、生涯学習の基盤が構築されている。これは本学部の教育が関係者の期待に十分応えていることの証左である³⁾。

³⁾ 資料 4-2-6：医学科卒業生の学業成果到達度:P82～83

資料 4-2-8：看護学科卒業生の学業成果到達度:P84～86

資料 5-2-1：医学科教育に対する医学科卒業生の高い評価:P92

資料 5-2-2：看護学科教育に対する看護学科卒業生の高い評価:P93

卒業生の就職(研修)先医療機関から、本学卒業生は教育達成目的に対応した学力・能力・資質を十分有していることが高く評価され、本学部の教育は関係者の期待に十分応えている⁴⁾。

⁴⁾ 資料 5-2-3：医学科卒業生に対する研修・勤務先医療機関の高い評価:P94～96

資料 5-2-4：医学科卒業生に対する研修・勤務先医療機関の高い期待:P96

資料 5-2-5：看護学科卒業生に対する勤務先医療機関の高い評価:P97～98

以上のように、進路・就職の状況は医療機関や地域社会の期待「人材育成」や「地域医療人育成」に十分応えるものであり、期待の水準を大きく上回る。

質の向上度の判断

事例1「教育課程および教育方法・内容に対する不断の評価・改善の実施」(分析項目Ⅰ)

【取り組んだ具体的な内容】

教育開発推進センターを中心としたFD体制を整備し、学生による全科目・全教員に対する授業評価及び教育課程に対する評価の実施・教員への適切なフィードバック、学生ニーズに対する適切な対応、教員による教育方法等の工夫等、教育課程及び教育方法・内容に対する不断の評価・改善を図った¹⁾。

- 1) 資料 1-2-1: 組織的FD体制の適切な整備:P8
- 資料 1-2-3: 定期的な教育課程・内容等に対する評価の実施:P9
- 資料 1-2-4: 授業評価の適切なフィードバック:P10
- 資料 1-2-5: 公開講義の実施と適切なフィードバック:P11~12
- 資料 1-2-8: 評価結果の積極的な周知:P15
- 資料 2-2-5: 学生の要望に対する改善例:P31
- 資料 3-1-12: 教員による教育方法・内容等の工夫例:P54

【法人化時点および評価時点の状況】

学生による授業評価結果の年次推移は、教員の教授方法・内容等に対する評価が概ね向上または高い水準で維持されていることを示している²⁾。

- 2) 資料 1-2-7: 教員の教育方法・内容等に対する学生の高い評価:P14

【得られた具体的な成果】

教育課程及び各教員の教授内容・方法等が随時改善されており、これは教育の質の向上の基盤を形成する。

事例2「実践的医学英語教育の推進」(分析項目Ⅱ)

【取り組んだ具体的な内容】

「医療現場で使える英語力」を学生に涵養するため、従来の英語教育を大きく改革し、「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」を導入・実施した。当該取組は平成16年度現代GPに申請・採択され、その取組は高く評価された。さらに、当該取組を支援する「ECLNC」等のインフラを整備し、学生から好評を得た³⁾。

- 3) 資料 2-2-2: 「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」(平成16年度現代GP採択)の概要:P28
- 資料 3-1-1: 教育目的に適したインフラの整備:P38~39

【法人化時点および評価時点の状況】

当該課程の導入前後で比較すると、導入後において学生からの医学英語教育に対する評価は概ね向上しており、これは当該取組が学生から評価されていることを示すものである⁴⁾

- 4) 資料 2-2-3: 医学英語教育に対する学生の高い評価:P29~30。

【得られた具体的な成果】

当該取組によって、学生の期待に応えた医学英語教育課程が編成され、医学英語教育の質が向上した。

事例3「本邦における医学・看護学教育の指針に準拠した教育課程の導入による教育内容の精選・質的向上」(分析項目Ⅲ)

【取り組んだ具体的な内容】

社会的要請や近年の関連学問の進歩に的確に対応するため、両学科とも、本邦における中心的な医学・看護学教育内容・指導に準拠した教育課程を整備した。医学科では平成15年

度，看護学科では平成 20 年度より学年進行で新教育課程を導入している。さらに，選択科目の積極的な導入や授業形態の組合せの工夫等，教育方法の改善を推進した⁵⁾。

⁵⁾ 資料 2-1-1：医学教育モデルコアカリキュラムに準拠した医学科教育課程:P17

資料 2-1-2：看護学教育指導指針に準拠した看護学科教育課程:P18

資料 3-1-2：授業形態等の組合せに対する学生の高い評価:P40

資料 3-1-3：統合型講義に対する学生からの高い評価:P41

【法人化時点および評価時点の状況】

新教育課程の導入が進んでいる医学科において，これら教育課程に対する学生の評価は良好であり，さらに学生の主体的学習の涵養効果及び教育目標到達度も高い。新課程および旧課程履修医学科学生の C B T および O S C E の成績を比較すると，新課程履修学生で成績が向上しており，これは新課程の教育効果・成果があがっていることを示すものである⁶⁾。

⁶⁾ 資料 2-1-5：学生の教育課程全般に対する高い評価:P22～26

資料 3-2-9：医学・医療への意欲涵養の促進:P66～67

資料 4-1-2：臨床実習時点における医学科学生の十分な学力と高い資質・能力の修得:P71～72

資料 4-2-1：医学科学生の学業成果への高い満足度:P75

資料 4-2-2：医学科学生の学業成果到達度:P76～79

【得られた具体的な成果】

新教育課程の導入は学生の期待に応えたものであり，かつその成果が相応にあがっている。

事例 4 「テュートリアル教育の積極的導入」(分析項目 III)

【取り組んだ具体的な内容】

学生に課題探求・解決能力を涵養するため，課題基盤型学習法として「テュートリアル教育」を医学科教育課程に積極的に導入した。さらに，当該学習法を従来の講義形式と有機的に連携させ臨床実習前医学教育課程に適宜配した。また，テュートリアル教育に必須な少人数学習用教室を整備した⁷⁾。

⁷⁾ 資料 3-1-1：教育目的に適したインフラの整備:P38～39

資料 3-1-4：テュートリアル教育の概要:P42～44

【法人化時点および評価時点の状況】

「テュートリアル教育」に対する学生の評価は良好であった。さらに，教育方法として教員からも評価されている。「テュートリアル教育」導入前後で比較すると，導入後において「課題探求・解決型」能力の涵養状況は向上しており，これは「テュートリアル教育」の教育効果・成果があがっていることを示すものである⁸⁾。

⁸⁾ 資料 3-1-4：テュートリアル教育の概要:P42～44

資料 3-2-4：課題探求・解決能力の涵養状況:P58～59

【得られた具体的な成果】

「テュートリアル教育」の効果的導入によって学生の課題探求・解決型能力涵養が促進された。

事例 5 「地域医療へ貢献する医療人育成の推進」(分析項目 V)

【取り組んだ具体的な内容】

平成 18 年度病院 G P 「救急に強い総合医，看護師養成コース」の実施プログラムに基づく卒前・卒後医学教育の密接な連携体制の構築，講義・実習時における地域医療従事への

意欲涵養の指導，県内関連医療機関との密接な連携，新規奨学金制度の設置や「地域枠」入試の導入等，地域医療に携わる医療人の育成を推進した⁹⁾。

⁹⁾ 資料 5-1-3：「救急に強い総合医，看護師養成コース」プログラムの概要:P90

資料 5-1-4：地域医療に携わる人材の育成に係る取組:P90～91

【法人化時点および評価時点の状況】

卒業生の県内医療機関への就職率及び附属病院における初期研修率の増加，さらに関連医療機関の本学卒業生に対する高い期待等，地域医療に携わる医療人の育成として関係者の期待に十分応えている¹⁰⁾。

¹⁰⁾ 資料 5-1-2：地域別の就職状況及び本学卒業生の附属病院における高い研修・就職率:P89

資料 5-2-4：医学科卒業生に対する研修・勤務先医療機関の高い期待:P96

【得られた具体的な成果】

地域医療に従事する卒業生が増加しており，従って地域医療に携わる医療人の育成が促進された。

別添資料 2 - 1 - 2 (2) : 看護学科 教育課程 (H19.4)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	人間理解	哲学, 倫理学, 文学, 芸術学, 法学, 社会学, 文化人類学							
	情報処理	統計学 情報科学	心理学	教育学					
	語学	英語 英語	英語 フランス語	ドイツ語 中国語					
	体育	体育							
専門基礎科目	生命基礎科学	生命基礎科学 生命基礎科学 生命基礎科学実験 生命基礎科学実験	生命基礎科学 生命基礎科学実験						
	健康科学	健康科学論 形態機能論	形態機能論 形態機能論実習 生体反応論 生体反応論 生体反応論実習	疾病論 健康管理論 薬理作用論 成長発達論	疾病論 人間行動論				
	環境科学	生活科学論 環境科学論	人間関係論		疫学・保健統計論	医療福祉論 医療経済論			
専門科目	基礎看護	看護学概論		△/△/△/△/△ 看護技術論 看護技術論		リスクマネジメント			
	健康時の看護			地域看護学概論	地域看護活動論	地域看護活動論 ケア提供システム論 育児援助論	学校保健論 産業保健論 国際保健論 助産学概論 助産論 助産論		
	健康障害時の看護			成人看護学概論 老人看護学概論	急性期看護活動論 慢性期看護活動論 ターミナル看護活動論 小児看護活動論 母性看護活動論 精神看護活動論 感染予防看護論 発達障害看護論 在宅看護活動論				
	臨床実習	基礎看護学実習			基礎看護学実習		成人看護学実習 成人看護学実習 老人看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 地域看護学実習 地域看護学実習	助産学実習	
卒業研究							卒業研究		

保健師・助産師・看護師 国家試験

印は保健師， 印は助産師の各国家試験受験資格取得に必要な選択の授業科目を示す。

保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部を改正する省令
の公布について（通知）

平成 20 年 1 月
文部科学省高等教育局長

1. 改訂の趣旨

我が国の看護をめぐる環境は、急速な少子高齢化の進展、医療技術の進歩等大きく変化してきており、看護職員には、より患者の視点に立った質の高い看護の提供が求められている。一方で、看護業務の複雑・多様化、国民の医療安全に関する意識の向上等の中で、学生の看護技術の実習の範囲や機会が限定される傾向にある。

（一部省略）

今回の改正は、これらを踏まえ、看護を取り巻く環境の変化に伴い、より重要性が増していると考えられる教育内容の充実を図り、保健師、助産師及び看護師学校養成所における生徒及び学生の実践看護能力を強化するため、看護基礎教育のカリキュラム改正等を行うものである。

（一部省略）

3. 施行期日等

（1）施行期日

平成 20 年 4 月 1 日（平成 21 年度の入学生から新カリキュラムの適用）

本学部では施行期日の 1 年前（平成 20 年度の入学生）から対応する新教育課程を導入している。これは社会ニーズに早急・的確に対応した取り組みである。

循環器系

科目名		単位数又はコマ数	開講時期	
循環器系 (必修)		46コマ	3年次生後期	
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス		オフィスアワー
田中 國義 内木 宏延 井隼 彰夫 李 鍾大 此下 忠志 森岡 浩一 森島 繁泰 宇隨 弘 中野 顕 見附 保彦 荒川 健一郎 河合 康幸 齋藤 正一 池口 滋	教授/外科学(2) 教授/分子病理学 准教授/外科学(2) 教授/保健管理センター 准教授/内科学(3) 講師/外科学(2) 講師/薬理学 助教/内科学(1) 助教/内科学(1) 助教/内科学(1) 助教/内科学(3) 金沢医科大学講師 福井県立大学教授 滋賀県立成人病センター循環器科医長	kunitan@fmsrsa.fukui-med.ac.jp naiki@fmsrsa.fukui-med.ac.jp iakio@fmsrsa.fukui-med.ac.jp i050869@icpc00.fukui-u.ac.jp konosita@fmsrsa.fukui-med.ac.jp kmori@fmsrsa.fukui-med.ac.jp smorisim@fmsrsa.fukui-med.ac.jp huzui@fmsrsa.fukui-med.ac.jp anakano@fmsrsa.fukui-med.ac.jp ymitsuke@fmsrsa.fukui-med.ac.jp med.ac.jp ara@fmsrsa.fukui-med.ac.jp kawai@kanazawa-med.ac.jp saitoh@fpu.ac.jp ike-sige@mx.biwa.ne.jp		毎週金曜日 14:00~17:00 毎週火曜日 16:30~18:00 毎週金曜日 13:00~17:00 事前にメール等で都合を確認 事前にメール等で都合を確認 毎週金曜日 14:00~17:00 毎週月曜日 16:00~17:00 毎週金曜日 9:00~12:00 毎週金曜日 9:00~12:00 毎週金曜日 9:00~12:00 毎週火曜日 14:30~16:00 毎週水曜日 16:00~17:00

1 学習目標

循環器系の構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

2 授業の内容

すべての医学生が臨床実習前に修得すべき必須の学習内容を精選し、かつ国家試験出題基準との整合性も考慮して作成されたコアカリキュラムにもとづいた授業内容である。すなわち従来の講座単位で行われていた授業内容を再構成し、循環器系を正常構造と機能、病態、診断そして治療へと効率的に学習することができるように基礎医学と臨床医学を関連づけた統合的なカリキュラムを編成した。さらに生涯にわたり自ら課題を探究し、問題を解決してゆく能力を身につけることを目的としてテュートリアル教育をとり入れる。

3 授業の形式

循環器における診断と検査の基本にはじまり、心不全、狭心症と心筋梗塞、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、高血圧症の各項目について、病理学、薬理学、循環器内科学、小児循環器学、心臓血管外科学の各教員が上記カリキュラムに沿って講義30コマ、実習(病理学)4コマを担当する。さらに重要な臨床医学的な課題を選んでテュートリアル(12コマ)が実施されるが、課題を探究し、問題を解決してゆく過程を通じて、講義で修得した知識を有機的に活用するとともに、これをさらに発展させる能力を養い、来るべき臨床実習に備える。

4 到達目標

1. 診断と検査の基本

到達目標：

- 1) 胸部 X 線写真と断層心エコー図から心臓、大血管の画像診断を説明できる。
- 2) 心カテーテル検査（心内圧、心機能、シャント率の測定）と結果の解釈を説明できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	循環器検査法 I	心電図記録法、心電図の読み方	1 内：李
2	循環器検査法 II	観血的検査法、心臓・冠動脈の構造と働き、心臓カテーテル法、左室造影、冠動脈造影	1 内：宇隨
3	循環器検査法 III	非侵襲的検査法、心エコー図・心筋シンチグラフィ	1 内：中野
4	循環器検査法 IV	心内心電図、電気生理学的検査法、カテーテルアブレーションなど	1 内：池口

2. 心不全

到達目標：

- 1) 心不全の定義と重症度分類を説明できる。
- 2) 心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。
- 3) 左心不全と右心不全の診断を説明し、治療を概説できる。
- 4) 急性心不全と慢性心不全の診断を説明し、治療を概説できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	心不全 I	心機能の評価、急性心不全	1 内：李
2	心不全 II	慢性心不全	1 内：李
3	薬理学講義 I	強心薬	薬理：森島

3. 狭心症、心筋梗塞

到達目標：

- 1) 安定狭心症（労作性、冠攣縮性）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。
- 2) 不安定狭心症の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。
- 3) 急性心筋梗塞の病態生理、症候、診断と合併症を説明し、治療を概説できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	冠動脈疾患 I	総論	1 内：李
2	病理学各論講義・実習 I	動脈粥状硬化症の病理	分子病理：内木
3	冠動脈疾患 II	狭心症	1 内：宇隨
4	冠動脈疾患 III	心筋梗塞	1 内：中野
5	薬理学講義 II	抗狭心症薬、高脂血症薬	薬理：森島
6	病理学各論講義・実習 II	心筋梗塞	分子病理：内木
7	冠動脈疾患 IV	外科治療	2 外：田中

4. 不整脈

到達目標：

- 1) 主な頻脈性不整脈（期外収縮、WPW 症候群、発作性頻拍）の心電図上の特徴を説明できる。
- 2) 主な除脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）の心電図上の特徴を説明できる。
- 3) 致死性不整脈の心電図上の特徴を説明できる。
- 4) 不整脈の治療（抗不整脈薬、電気除細動、ペースメーカー療法）を概説できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	不整脈Ⅰ	総論(メカニズム、分析法、診断法、治療)	非：河合
2	不整脈Ⅱ	各論(除脈性不整脈、頻脈性不整脈)	非：河合
3	薬理学講義Ⅲ	抗不整脈薬	薬理：森島

5. 弁膜症

到達目標：

- 1) 主な弁膜症(僧帽弁疾患、大動脈疾患)の原因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。
- 2) 感染性心内膜炎の原因、症候と診断を説明し、治療を概説できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	弁膜症Ⅰ	僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症	3内：荒川
2	弁膜症Ⅱ	大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、三尖弁疾患、感染性心内膜炎	3内：荒川
3	弁膜症Ⅲ	外科治療	2外：田中

6. 心筋、心膜疾患

到達目標：

- 1) 心筋症と特定心筋疾患の定義、概念と病態生理が説明できる。
- 2) 心筋炎の原因と症候を説明できる。
- 3) 急性心膜炎の症候を説明できる。
- 4) 心タンポナーデの原因と診断を説明し、治療を概説できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	心筋症	心筋症の成因と分類、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心筋炎	3内：荒川
2	心膜疾患、心臓腫瘍	急性心膜炎、心タンポナーデ、収縮性心膜炎、心臓腫瘍	1内：中野

7. 先天性心疾患

到達目標：

- 1) 循環系の発生と出生にともなう循環系の変化を概説できる。
- 2) 心血管系の形態異常に関する循環動態の基礎概念(短絡, 低酸素血症, 肺高血圧など)の意味を理解すること。
- 3) 主要な先天性心疾患(心室中隔欠損などの左右短絡疾患, ファロー四徴などのチアノーゼ性心疾患)の病態生理, 症候, 診断を説明できること。
- 4) 緊急を要する新生児の先天性心疾患を列挙し, 治療の原則を述べられる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	先天性心疾患Ⅰ	胎児の循環、呼吸と出生児の変化、先天性心疾患総論	小児：斎藤
2	先天性心疾患Ⅱ	各論(1)	小児：斎藤
3	先天性心疾患Ⅲ	各論(2)、緊急を要する新生児の先天性心疾患	小児：斎藤
4	先天性心疾患Ⅳ	外科治療	2外：森岡

8. 動脈疾患

到達目標：

- 1) 動脈硬化の危険因子、病態生理と合併症を説明できる。

- 2) 大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。
- 3) 閉塞性動脈硬化症とバージャー病を概説できる。
- 4) 大動脈炎症候群を概説できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	大動脈疾患, 肺動脈疾患 I	真性大動脈瘤、解離性大動脈瘤、大動脈弁輪拡張症、大動脈炎症候群、急性肺塞栓症、慢性肺血栓塞栓症、原発性肺高血圧症	1 内：見附
2	病理学各論講義・実習	心筋症、心筋炎、大動脈解離	分子病理：内木
3	大動脈疾患, 肺動脈疾患 II	外科治療	2 外：田中
4	末梢血管	閉塞性動脈硬化症とバージャー病など	2 外：井隼

9. 静脈、リンパ管疾患

到達目標：

- 1) 深部静脈血栓症の原因と症候を説明し、治療を概説できる。
- 2) 上大静脈症候群の原因と症候を説明できる。
- 3) 下肢静脈瘤を概説できる。
- 4) リンパ浮腫の原因を列挙できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	静脈、リンパ管疾患	深部静脈血栓症と肺塞栓症、上大静脈症候群、下肢静脈瘤、四肢慢性リンパ浮腫	2 外：井隼

10. 高血圧症

到達目標：

- 1) 本態性高血圧の疫学、診断、合併症と予後と説明し、治療を概説できる。
- 2) 二次性高血圧症の原因を列挙し、診断を説明し、治療を概説できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	高血圧	定義、疫学、成因と病態、診断と治療	3 内：此下
2	薬理学講義 IV	降圧薬	薬理：森島

11. テュートリアル (12 コマ)

5 総合評価割合

講義、実習、チュートリアルそれぞれにつき以下の方法で評価し、その結果にもとづき総合的に判定する。

6 評価方法

講義および実習については、その内容にもとづいて筆記試験を行い評価する。また、チュートリアルについてはレポート、出席状況、各チューターによる評価、ポートフォリオを総合して評価する。以上の結果を勘案して総合評価を行う。再試験については原則として一回のみ行う。

7 参考書など

Braunwald's Heart Disease: A textbook of Cardiovascular Medicine, 7th edition, Elsevier

Saunders, 2005

内科学 上田, 武内 朝倉書店

新臨床内科学 高久, 尾形 医学書院

図解心電図学 - 心電図読み方のコツ - Goldman 著 吉利, 宮下 訳 金芳堂

最新心電図診断学 橋場邦武 金原出版 1992
Moss' Heart Disease in Infants, Children and Adolescents. Adams, 5th edition,
Williams & Wilkins, 1995
標準外科学 武藤, 田邊 医学書院 1991
New 外科学 改訂2版 出口, 古瀬, 杉町 1997
心疾患の診断と手術 改訂3版 荒井 南江堂 1984
Congenital Heart Disease: a Diaphragmatic Atlas. Mullins & Mayer, Alan R Liss,
1988
新小児医学体系 第10巻 小児循環器学 (I~IV), 中山書店
Cardiac Surgery, Kirklin & Barrtt-Boyes, Churchill Livingstone
臨床脈管学 三島, 稲垣 文光堂
わかりやすい内科学 井村 文光堂 1998
KAPLAN'S CLINICAL HYPERTENSION, WILLIAMS&WILKINS, (9th ed. 2006)
ロビンソン基礎病理学 (第6版) 森 亘, 桶田理喜監訳, 廣川書店, 17,850 円
Robbins Basic Pathology 7th edition. Saunders.
Robbins Pathologic Basis of Disease 7th edition. Saunders.

8 その他履修上の注意点等